



平成30年度

年報 第33号

福島県立博物館

年報発刊に 寄せて



博物館は何をなしえたのか

東日本大震災において、博物館は何をなしえたのか。無力さに押しひしがれながら、それでも、自分たちにだって何かをなしえるのではないかと、手探りに、怖ず怖ずと動きはじめた日々が思い出されます。踏襲すべき前例やモデルはありませんでした。そもそも博物館が大きな災害のなかで働いた経験は、寡聞にして知らなかったのです。学芸員たちはみな、それぞれに、なしうること・なすべきことを求めて、博物館の外へと出かけていきました。

一人の学芸員は故郷の南相馬市に戻り、避難所で黙々と支援活動を行っていました。四月のある日、かれはメールをよこして、「俺たちは一度は死んだんだ、だから、いまは福島が甦る日のために働くしかない」と刃のような言葉を投げつけてきました。かれの運転する車で、文化財の被災状況を確認するために、津波に流された被災地域を見て歩いたことが、幾度となくありました。そこで目撃した泥の海は、わたし自身の震災の原風景のひとつとなりました。

県博の震災後の活動の核になったのは、ひとつは被災した文化財のレスキュー、震災遺産の収集と保全を仲立ちとして、震災の記憶を掘り起こしそれを記録するプロジェクトでした。まったくの手探りで、何が震災遺産なのかを問いかけ、聞き書きを重ね、許可を得て、記憶が宿るモノたちを大切に福島県立博物館に持ち帰り、汚れを除去して、収蔵庫に保存するのです。いまひとつは、福島の浜通り・中通り・会津を文化やアートによって繋ぎながら、やはり震災の記憶をさまざまな形で共有し記録するとともに、断ち切られたコミュニティの絆を再生するためのプロジェクトでした。

福島県立博物館が、二十人を超える考古・歴史・民俗・自然・美術・保存科学の専門的な学芸員を擁する、地域文化の中核を担うべき総合博物館であることに、あらためて誇りと自覚を取り戻す日々であったかもしれません。大きな災害の後に、地域の博物館がささやかなものであれ、復興の担い手として、とりわけその記憶と記録にかかわる役割を果たしえたことに、喜びを覚えています。わたしたちはきっと、地域のなかに抱かれて、地域に生きる人々とともに働くことこそが、博物館の社会的な使命であることを学んだのです。

福島県立博物館長 赤坂 憲雄

トピックス

春の企画展「匠のふるさと会津一技と祈りの建築文化誌一」

平成30年度の春は、民俗をテーマとした企画展を開催した。かつての住まいや暮らしを支えた職人に着目し、その技や道具、儀礼や信仰などに関する展示資料を通じて、自然豊かな会津地方に育まれた独特な建築文化を紹介した。

また展示内容の理解を深めてもらうため、それぞれの専門家による記念講演会や学芸員による展示解説会を行った。さらに会津の古建築を見学するバスツアーを開催して地域の特徴ある寺や古民家、町並みをめぐり、身近な建築文化を学んだ。子ども向けの行事としては、建築業組合の方々のご協力により木工体験イベントを開催し、木に触れたり職人の技に親しんでもらう機会とした。

会期が春の修学旅行シーズンと重なったこともあり、展示室には多くの小中学生が来場した。また職人や建築関係の仕事を目指す若い方々の来館もみられ、幅広い層に関心を持ってもらえたテーマであった。



内覧会のようす



バスツアー「知られざる会津の名建築をたどる」



展示室のようす



体験イベント「親子ものづくり木工体験」
(かんながけ体験のようす)

目 次

年報発刊に寄せて

トピックス

目次

福島県立博物館の使命	1
福島県立博物館第2期中期目標	3
福島県立博物館第2期中期目標の総括	8
福島県立博物館の使命の改正	11
I 事業の概要	13
1. 資料収集事業	13
(1) 収集展示委員会	13
(2) 受贈・受託	13
(3) 購入	14
(4) 制作	14
2. 保存管理事業	14
(1) 資料の収蔵	14
(2) 登録・整理	16
(3) 貸出	17
(4) 保存管理	18
3. 展示事業	19
(1) 常設展示	19
(2) 企画展示	22
(3) 特集展	30
(4) 指定文化財の公開	33
(5) 展示解説	33
(6) 体験学習室	34
(7) リニューアルの検討	35
4. 調査研究事業	36
(1) 展示資料調査研究	36
(2) その他の調査研究事業	37
(3) 職員の研究活動	38
5. 教育普及事業	41
(1) 講座・講演会	41
(2) けんぱくミュージアムイベント	50
(3) 学校・文化施設との連携	52
(4) 生涯学習・研究支援	62
(5) 博物館友の会活動への支援	64
6. 広報公聴活動および出版事業	66
(1) 広報活動	66
(2) 公聴活動	72
(3) 出版事業	72
7. 東日本大震災からの復興支援	73
(1) 文化財・自然資料レスキュー	73
8. 次世代ミュージアム機能	75
(1) ライフミュージアムネットワーク	75
(2) ふくしま震災遺産保全プロジェクト	76

9. 連携事業	77
(1) 磐梯山ジオパーク推進事業	77
(2) ふくしまサイエンスふらっとフォーム	78
(3) 福島芸術計画 × Art Support Tohoku - Tokyo	79
(4) ふくしま歴史資料保存ネットワーク	80
II 管理運営	81
1. 組織・職員	81
2. 予算	82
3. 運営協議会の開催	83
(1) 福島県立博物館運営協議会	83
III 利用状況	84
1. 入館者統計	84
(1) 平成30年度入館者統計	84
(2) 入館者の推移	85
(3) 企画展入館者統計	87
2. 出版物販売	90
IV 法規	92
福島県立博物館条例	92
福島県立博物館運営協議会条例	93
福島県立博物館条例施行規則	93
福島県立博物館組織規則	97
福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則	98
福島県立博物館収集展示委員会設置要綱	98
福島県立博物館資料所在調査要領	99
福島県立博物館資料調査員設置要綱	99
福島県立博物館友の会規約	99
V 施設の概要	101
1. 建築概要	101
2. 設備	101
3. 平面図・各室一覧	102
4. 施設の修理・改築	104
5. 沿革	104
VI 利用案内	106

福島県立博物館の使命

平成19年7月公表 平成25年4月改正 平成26年6月改正 平成28年3月改正

福島県立博物館は、昭和61年に県立の総合博物館として開館し、これまで県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、さまざまな活動を行ってきました。そして、平成19年には、新しい時代の博物館として目指すべき目標を「使命」としてとりまとめ、その内容を公表しました。そこには、歴史・自然に関する資料の収集・保存・調査研究・活用という博物館の基本的な使命を核として、それらを実践するための活動指針が明示されていますが、平成23年3月に発生した東日本大震災以降、従来の博物館活動に加え、新たな視点に立った活動が不可欠になったと考えられることから、ここに改めて博物館の「使命」をとりまとめました。ついては、当館の社会に対する責務を明確にするとともに、皆さんに博物館活動について理解を深めていただくため、その内容を公表します。

目 標

福島県は、関東・北陸・東北地方の接するところに位置し、美しく豊かな風土のもと、時代を通して文化交流の地として発展し、特徴のある歴史・文化を形成してきました。また、広大な面積をもつ本県は、中通り・浜通り・会津地域に分かれ、それぞれ異なった風土と生活文化をもっています。

福島県立博物館は、こうしたユニークで多様な歴史・文化が生み出した遺産とその背景にある自然に関する資料を収集・保存し、大切に未来へ引き継ぐとともに、研究を通して、資料のもつ価値を明らかにします。そして、収集した資料や研究の成果を世界に向けて発信するため、さまざまな形で公開します。

また、人々が地域の課題を調査・研究することを支援し、地域文化の新しい価値を創造することに寄与するとともに、みなさんが博物館を利用しやすいように、人と人との交流を大切にする楽しい環境を整えます。

現在、特に浜通り地域では、平成23年3月に発生した東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故により、これまで地域社会のなかで培われてきた紐帯が崩壊し、未来に継承すべき地域の文化財や伝統文化の保全が困難な情勢となっています。このような危機的状況のなか、福島県立博物館では、地域社会の再生と活性化に向けた取り組みとして、従来から行ってきた博物館活動を継続するとともに、被災地域の関係機関や地域の人々と連携して、震災の資料化と地域内に残された文化財等の調査研究、救出・収集活動および文化的交流活動を行います。そしてそれらの成果をさまざまな形で発信していきます。

これらを基本に、次のような博物館を目指します。

1. ふくしま発見 博物館

ふくしまの文化遺産と自然史資料をもとに、ふくしまの歴史・文化そしてそれを育んだ自然に関する情報を提供し、ふくしまの魅力を再発見する場とします。そして、地域独特の文化の価値を共に学び、新たな文化を創り出す手助けをします。

2. 出合いふれあい 博物館

楽しい時が学ぶ時です。かた苦しなく、気軽に入れて人と人が楽しく語り合える博物館を目指します。そのために、居心地がよく、自らが体験でき、楽しさを体感できる空間を演出します。

3. あなたも主役 博物館

博物館を利用するみなさんも主役です。博物館はみなさんからの意見・要望を尊重して運営に活かします。また、友の会の会員やボランティアとして博物館の事業に参加することができます。みなさんと共により良い博物館を目指します。

4. ふくしまを元気に 博物館

東日本大震災によって危機的な状況に陥っている地域の文化・自然遺産を保存し、調査研究するとともに、それらを活用して、地域社会の再生と活性化に向けた新たな取り組みを行います。

活動の指針

目標を達成するため、次のような機能を充実させます。

【専門機能】

1. 地域の文化遺産の収集と継承

福島県の特徴を現す歴史・文化遺産および自然史資料を系統的に収集し、安全な状態で保存し次世代に伝えます。また、資料情報をデータベースとして整備し活用します。

2. 最新の研究による新たな資料価値の発見

専門的な研究により、収集した資料の価値を明らかにします。また、地域の課題であるテーマを設け調査を行い、その成

果を地域文化の発展と創造のために役立てます。

3. 来るたびに発見がある展示とニーズに応じた学習支援

展示を見るたびに資料の新しい側面を発見できます。新しい資料や研究成果を展示や講座に反映するとともに、利用者のニーズに応じて、資料についてさらに詳しい情報を準備し提供します。また、未来を担う子供たちにも対応したきめ細やかな学習支援を行います。

【交流機能】

4. 楽しめて出会いのある空間の創出

居心地がよく楽しめ、いろいろなことを体験・体感できる博物館を目指します。また、人と人が出会い、楽しく知的なコミュニケーションのとれる場所を提供します。

5. 博物館事業への住民参加

利用者の意見を積極的に取り入れて、博物館の運営に反映させます。また、友の会会員やボランティアの協力を得ながら博物館の事業を推進します。

6. 博物館情報の発信と公開

博物館の資料や研究成果および運営に関する情報を公開するとともに、展示や講座など館活動の情報を広く県内外に発信するため、積極的な広報活動を行います。

7. 地域ネットワークの拠点

福島の面積は広大で、多くの学校、社会教育・文化施設、市民団体があります。これら関係機関等とのネットワークを作り、情報交換や共同研究、事業の共同実施を進めます。

8. 新しい観光ニーズへの対応

会津という観光地に立地することを踏まえ、地元の市町村や文化・観光施設と連携、共同し、新しいタイプの観光のニーズに対応できるよう努めます。

【運営機能】

9. 使命の明示と事業の点検

博物館の使命と目標を社会に明示し、オープンな運営を目指します。目標に向かって計画を立て、常に成果を点検し、目標を達成できるように努めます。

10. 人材の育成と機能的な組織

博物館の使命を達成するため、優れた人材を育成し、機能的で効果的な組織運営に努めます。

11. 危機管理

災害の発生に備え、避難・誘導経路や手順を確認するための訓練を毎年実施します。また、博物館資料の保全のため、展示室および収蔵庫の環境を適切に保ちます。

【震災からの復興支援】

12. ふくしまの宝の発掘と保全

市町村や文化施設および大学等と連携し、被災地域の文化財の救出と保全を図るとともに、地域の宝である文化財や自然史資料を改めて調査・収集し、その価値を明らかにすることに努めます。

13. ふくしまの宝の公開と活用

救出および新たに収集した文化財およびその研究成果をさまざまな形で県民に発信し、地域の誇りをとりもどすとともに、それらを教材として、ふくしまの未来を担う子供たちの育成を図ります。

14. ふくしまの再生と活性化

文化施設や地域の文化団体、市民グループと連携し、文化資源を活用した地域おこし、文化的事業の開催など、文化の力を用いて地域の再生と活性化を図ります。

【次世代ミュージアム機能】

従来の博物館活動の枠組みを超えた機能の充実を目指して新設した活動の指針です。

15. 「震災遺産」の保全による震災の共有と継承

震災が産みだしたモノや震災を示すバシヨを「震災遺産」と呼び、これらの保全と資料化を通じて、東日本大震災で福島県に起きた多様な出来事を歴史として共有し継承してゆくことを目指します。

16. 新たな文化事業の創出と定着

博物館が蓄積してきた情報・手法・ネットワークなどを基盤に、県内各地域における文化事業の創出を支援し、地域への定着を目指します。

福島県立博物館では、使命に沿った「活動の指針」に基づき、それぞれに「重点目標」を掲げ、それを平成21年度から25年度までの5年間で達成するための具体的な活動計画（中期目標）を定め、毎年度ごとに実績の評価を行ってきました。この中期目標は平成25年度に最終年度を迎えたため、これまでの実績を精査し、それに基づいて重点目標の見直しを行いました。そして、それを踏まえ、震災からの復興支援と博物館リニューアルの具体化を重要な課題として、新たに平成26年度から30年度までの5年間で達成するための第2期中期目標を策定しました。年間の利用者数については、従来どおり概ね9万人を目指し努力します。平成27年度には、東日本大震災後の館活動をめぐる変化に伴い、新たに始まった震災遺産や文化連携に関するプロジェクトを「活動の指針」の中に位置づけました。さらに、従来の利用者数以外に、職員が館外に出て行ったアウトリーチ事業やプロジェクト等の事業への参加者についても「館外事業利用者数」として把握し、当館の社会的な貢献度をはかる指標の試みとして公表することにしました。

平成30年度はこの計画に沿って事業を実施し、年度終了時に「評価指標」に基づいて実績を評価し、年報やホームページなどで公表します。利用者のみなさんには引き続き中期目標をご理解いただき、博物館の運営について忌憚のないご意見をいただければと思います。

表 第2期中期目標

	第1期		第2期				説明
	平成25年度 実績	平成26年度 実績	平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 実績	
①館内事業 利用者数	109,838 (90,000)	63,739 (90,000)	67,490 (90,000)	61,073 (90,000)	71,463 (90,000)	125,628 (90,000)	常設展・企画展・移動展など展示への入場者、講座・講演会など行事への参加者 ※平成26年度以前は「利用者数」としてカウント ()は目標値
累計利用者数	4,325,720	4,389,459	4,456,949	4,518,022	4,589,485	4,715,113	昭和61年の開館以後の累計
②館外事業 利用者数1	—	—	1,765	2,109	2,346	2,644	職員の講師派遣・ゲストティーチャーなどアウトリーチ事業への参加者 ※平成27年度から新規
③館外事業 利用者数2	—	—	9,881	23,124	19,593	363	当館が構成団体になっている組織（実行委員会・協議会など）が主催し、当館職員が主体的に関わった行事などへの参加者 ※平成27年度から新規
②③合計	—	—	11,646	25,233	21,939	3,007	※平成27年度から新規
①②③合計	—	—	79,136	86,306	93,402	128,635	上記①②③を合計したもの ※平成27年度から新規

利用者の内訳 ※ () 内の数字は実施回数

		27年度	28年度	29年度	30年度	
①館内事業 利用者数	常設展	40,767 ()	43,727 ()	42,028 ()	52,446 ()	
	企画展	9,897 (3)	2,955 (1)	16,513 (4)	54,960 (4)	()内は、企画展の回数
	無料入館者	16,826 ()	14,391 ()	12,922 ()	18,222 ()	当館主催の行事等への参加者数、特集展の入場者数など
	①合計	67,490 ()	61,073 ()	71,463 ()	125,628 ()	
②館外事業 利用者数1	学校派遣 (ゲストティーチャー)	490 (8)	568 (7)	757 (17)	605 (22)	県内の小中高校・大学等で学芸員が実施した授業・講義等への参加者数 詳細60頁 表参照
	館長出前講座	536 (4)	61 (1)	0 (0)	0 (0)	
	講師派遣	739 (14)	1,480 (28)	1,589 (25)	2,039 (34)	依頼を受けて学芸員が講師を勤めた講演等への参加者数 詳細63頁 表参照
	②合計	1,765 (26)	2,109 (36)	2,346 (42)	2,644 (56)	

利用者の内訳 ※ () 内の数字は実施回数

		27年度	28年度	29年度	30年度	
③館外事業 利用者数2	ふくしま震災遺産 保全プロジェクト	5,639(16)	17,916(37)	0 (0)	0 (0)	平成28年度で実行委員会終了したため、29年度以降は①②として集計
	はま・なか・あいづ 文化連携プロジェクト	4,069(58)	4,989(43)	19,549(33)	0(0)	平成29年度で実行委員会終了
	ライフミュージアム ネットワーク				207(7)	平成30年度から実行委員会 詳細75頁 表参照 (うち館内で行ったフォーラムの参加者を除く)
	磐梯山ジオパーク 推進事業	33(2)	134 (4)	44(2)	87(2)	地質の日ジオツアー・ガイド研修など参加者数 別表参照
	ふくしまサイエンス ぶらっとフォーラム	140(1)	85 (1)	0(0)	69(1)	サイエンス屋台村in福島 別表参照
	③合計	9,881(77)	23,124(85)	19,593(35)	363(10)	
②③合計	11,646(103)	25,233(121)	21,939(77)	3,007(66)		

別表

③館外事業利用者数2	行 事	実 施 日	会 場	当館担当職員	参加者
磐梯山ジオパーク 推進事業	地質の日 ジオツアー	平成30年 5月 7日(月)	磐梯山慧日寺資料館	弦巻	27
	磐梯山ジオパーク フォーラム	平成30年11月14日(水)	磐梯町中央公民館	塚本 弦巻	60
				計	87
ふくしまサイエンス ぶらっとフォーラム	spffサイエンス屋台村 in福島	平成30年11月17日(土)	こむこむ館	猪瀬 相田 弦巻	69

達成度の記入方法 ○：達成 ○：ほぼ達成 △：一部達成 ×：達成できず

機能	活動の指針	重点目標	実現方策	30年度目標	30年度評価指標	30年度実績	達成度	
専	1. 地域の文化遺産の収集と継承	①博物館資料の系統的収集とデータベース化の推進	収集方針に沿って系統的に資料を収集し、受け入れた資料の整理・登録を行う。	5年間で収蔵資料5,000件の整理登録達成	中期目標の5,000件の登録は既に達成したが、各分野の整理計画に基づき引き続き実施。5分野合計で1,000件の整理・登録。	民俗219件、歴史4236件、自然244件、合計4699件の資料登録を実施した。	○	
		②二次資料の整理とデータベース化の促進	司書を継続雇用し、学芸員の研究に資するため、新規収蔵図書書の整理・登録を進める。また、5年後までに既存図書の未修正データの修正を完成する。さらに、増加する図書の収蔵スペースを確保するための計画を立てる。	5年後までに既存図書の未修正データ4,394件の修正完了。	既存図書のデータ900件の修正を行う。	既存図書のデータ907件の修正を行った。	○	
		③博物館資料に関する情報の公開	平成25年度において資料管理システムの更新が完了したので、収蔵資料情報の確認と修正が済んだデータから順次インターネットで公開する。	5年間で25,000件のデータをインターネットで公開する。	5分野合計で5,000件のデータをインターネットで追加公開する。	民俗1003件、歴史3468件、自然1348件、合計5819件の資料データを追加公開した。	○	
		④資料の安全な保存	収蔵資料数の増加に伴い収蔵スペースの確保が課題となってきたため、収蔵庫内の再整理を行うとともに、関係機関と協議して、新たな収蔵場所確保に努める。	資料の新たな収蔵場所を確保する。	効率的な資料受入と保管のため、未燻蒸資料の燻蒸計画を作成し、年1回以上の燻蒸を実施する。収蔵庫内の整理を計画的に進め、特に震災遺産の収蔵場所を検討する。第2収蔵庫の棚増設について検討を進めるとともに、予算要求の準備を行う。	燻蒸処理の進捗を把握するため、燻蒸資料の月次集計を実施した。7月にトラック燻蒸を1回実施し、298件燻蒸した。平成30年度末の未燻蒸資料数は、前年度末の517件に年度内増加分491件を加えた計1,008件に対して298件の燻蒸を実施した結果、710件となった。燻蒸実施の時期(季節)に限られることと、収集量に応じた燻蒸スケジュールを計画できないことから、多く燻蒸待ち資料が発生している。	資料の収蔵については、震災遺産の収蔵場所の確保及び第2収蔵庫および第3収蔵庫の棚増設について検討して予算要求を行ったが、認められなかった。第5収蔵庫の活用を見直すために、一時保管を続けている出土水浸木材の取り扱いの検討を始めた。	○
		⑤新たな視点に立ったIPM(総合的有害生物管理)の導入	資料の生物被害を防止するために使用する化学物質の排出量を最小限に抑える方策を具体化する。	IPM活動の観点から、収蔵庫の定期清掃など、環境整備を行う体制を確立する。	実行的な清掃計画を確立する。	冬季2月上旬から3月上旬にかけて保存環境調査を実施した。調査結果の精査が年度末までかかったため、清掃計画を策定出来なかった。	×	
機	2. 最新の研究による資料価値の発見	①連携した研究活動の推進	研究活動の充実を図るため、大学や文化施設、民間の研究団体等との共同研究を進める。また、それらの研究成果をさまざまな場で公開する。	共同研究の継続実施と研究成果の公開	引き続き、さまざまな機関との共同研究を実施し、その成果を館内外で公開する。	筑波大学・国立歴史民俗博物館・明治大学・南相馬市博物館との共同研究に学芸員が参画し、シンポジウムでの研究発表を館内外で実施した。また博学連携として会津大学とのソフトウェアの共同開発も実施した。	○	
		②多様な外部資金の確保	調査研究事業などの博物館事業を円滑に推進するため、引き続き財源確保に努める一方、外部助成資金の導入など新たな財源の確保を図る。	調査研究事業などの博物館活動を円滑に推進するために、新たな資金確保のシステムを構築する。	それぞれの研究分野に応じた研究助成について情報を収集し、2件以上の研究助成等を得る。	科研費や大学機関の研究助成に複数応募した。科研費の基盤研究の採択が1件あった。	○	
能	3. 来るたびに発見がある展示とニーズに応じた学習支援	①リニューアルの推進	次世代博物館のあるべき姿を検討するため、新設館や先進的な取り組みをしている他館の状況を現地調査する。そして、その結果などを踏まえ、後半期にはリニューアルに関わる検討委員会を設置し、基本構想および基本計画の策定に着手する。	博物館リニューアル基本計画の策定	基本構想の内容を、より充実したものにするとともに、実現のための計画を具体化させる。	前年度に作成した基本構想については、社会教育課への説明を行った。展示室のリニューアルについては、具体的なスケジュールにのせることができず、次年度から始まる第3期中期目標の中で、できることから進めるという方針を決めるにとどまった。具体的な計画も提示できなかったが、いくつかのケースを想定した「新しい展示室イメージ」を作成し、今後の検討のために提示した。民俗部門展示室の展示替えをリニューアルの試行として実施した。	△	
		②誰にでもわかりやすい常設展の展開	学校で学ぶ子供たちがより利用しやすくなるように、展示室内の表示の工夫や解説の改善を展示室ごとに順次実施してゆく。さらに、外国語による解説の充実に向けて検討を進める。	すべての展示室において、学校団体向けの表示や解説の改善を完了させる。	きめ細かい事前相談を行うことにより、オーダーメイド学習プログラム実施校数を増加させる。展示室の外国語解説の手法について検討する。	学校団体の申込対応を学習支援班が行うことで、充実した事前相談をすることができた。そのことにより、学校に実施校数を増加させる。展示室の外国語解説の手法について検討する。	○	
		③魅力あふれる企画展・特集展の開催	福島の復興や再生に寄与するテーマ・内容を優先し、時間をかけて準備するオリジナル企画と、タイムリーな企画などをバランスよく組み合わせ、企画展・特集展を計画的に実施する。	バラエティーに富んだ企画展・特集展を計画的に実施する。	オリジナル企画による企画展や特集展を最低1回実施。	オリジナル企画による企画展3回(「匠のふるさと会津」「美しき刃たち」「戊辰戦争150年」)と特集展「震災遺産を考える」を実施した。	○	
		④来館者とのコミュニケーションを大切に展示解説の推進	来館者と職員が直接に触れあい、コミュニケーションを重視した展示解説を今後も心がける。	きめ細かな展示解説のシステムを維持するため、展示解説員の人員を確保する。	対話型解説システム「けんばくハイライトツアー」を、土・日・祝日を中心として毎月6回実施する。	「けんばくハイライトツアー」を88回実施し(月平均7回)、317名の参加があった。各解説員が独自のコースを確立しており、それぞれ特徴ある解説を行った。今年度新規採用の解説員も秋から解説を担当した。	○	
		⑤継続性のある講座の開催	講座の体系化とストーリー性をもたせたシリーズ化を引き続き進め、利用者の継続参加を促進する。また、企画展に合わせたタイムリーな連続講座の開催も試みる。	生涯学習に効果的な魅力ある講座・講演会を継続開催する。	引き続き、魅力的な講座・講演会を企画する。回数は100回程度とし、参加者数は8000人を目標とする。	講座等の開催回数は177回、参加者は14,981人であった。うち企画展・特集展関連事業は55回を実施した。また、館外活動として、ゲストティーチャー(学校派遣)22件、講師派遣34件を行い、のべ参加者は2644名であった。	○	

機能	活動の指針	重点目標	実現方策	30年度目標	30年度評価指標	30年度実績	達成度
交 流 機 能	4. 楽しめて 出会いのある 空間の創出	①利用者の快適 性と利便性の促 進	ミュージアムショップを友の 会を活用して設置することは 困難な状況のため、その運営 のあり方をリニューアルに向 けた計画案を策定するなかで 検討する。	ミュージアムショップの 設置を目指す。	ミュージアムグッズの開 発と販売の試行を行う。	企画展に合わせて、オリジナルデザ インのグッズを製作・販売し、好評であ った。	○
		②体験型学習機 会の促進	新たな体験学習メニューを開 発し、学校団体の選択肢を増 やすとともに、内容を充実さ せる。学校との連携強化を図 るため、ワークショップなど の体験型学習を効果的に取り 入れたイベントを企画する。	学校との連携を強化し、 利活用を容易にする。	企画展と関連づけたワー クショップを企画し、学 校団体の利用促進を図る。 GWや夏休みに楽しめる 体験メニューを企画し実 施する。	中学校美術部に企画展の解説を行い、 それを踏まえての作品づくりを博物館 で行った。さらに完成した作品の展示 を生徒と学芸員が共同で行った。また、 GWと夏休みに家族向けのミニミニ博 物館を開催した。さらに新たに夏休み に家族が楽しめるイベントとして「親 子で探検！はくぶつかんのウラ側」を 2回開催した。	◎
	5. 博物館事 業への住民参 加	①各種団体との 連携促進	NPOなど地域の文化団体や 各種学会などからの展示会や 講演会の開催依頼には、博物 館活動の趣旨に沿うことを条 件に積極的に対応する。また、 共同企画を立ち上げるなど、 事業の連携を進める。	共催事業などの受け入れ を行う。	外部団体からの要請に対 して、引き続き積極的に 対応する。友の会の事業 については自主的な運営 を引き続き支援し、館と しての事業と連携を図る。	県内各種学会や市民団体の要請を請け、 後援事業22回を行った。また、友の会 事業としては年2回の研修旅行、友の 会創立30周年記念事業などを実施した。 これら各種事業への参加者数の合計は 2923人であった。	◎
		②ボランティア の受入	資料整理を中心としたボラン ティアの受け入れを推進する とともに、今後のボランティ アのあり方について検討する。	自然資料整理ボランティ ア(通年)、古文書整理ボ ランティア(月1回)を中 心としたボランティアの 受け入れと活動支援	自然資料整理(通年)・古 文書整理(月1回程度)・ 民俗資料整理(月2回程 度)を中心としたボラン ティアの受け入れと活動 支援。	ボランティアは、自然分野では資料整 理と夏季のテーマ展示作業補助で受け 入れた。古文書整理は毎月1回、民俗 資料整理は毎月2回、定期的に作業を 行った。	◎
6. 博物館情 報の発信と公 開	①効果的な広報 の展開	外部の各種メディアおよび学 校や社会教育施設への情報提 供を継続する。また、ホーム ページによる広報も継続する とともに、新しい広報媒体も 活用する。	ホームページによる広報 の強化を図るとともに、 新しい広報媒体を活用す る。	館フェースブック、館独 自のツイッターをさらに 活用し、HPのリニュー アルを検討。新たな広報 媒体による展開を検討。 企画展・特集展・催し物 担当者との事前打合せに より、アピールポイント を把握し、広報に生かす 道筋を検討、試行する。	公式twitterを開設。公式FBとあわせ て頻度の高い投稿を行った。Twitter投稿 件数219件。FB投稿件数114件。HPの リニューアル案を検討し、年度内の更 新計画を立て、作業に着手。平成30年 度内に作業を完成させ、平成31年4月 に公開。年間パスポート、そのほかの 印刷物等のデザインの向上を図り、博 物館イメージの向上に繋げた。企画展・ 特集展担当者との事前打ち合わせによ り、広報戦略を検討、実施した。	◎	
							7. 地域ネッ トワークの提 点
8. 新しい観 光ニーズへの 対応	①観光集客力 の回復	東日本大震災以降低迷が続い ている学校団体による学習旅 行件数を回復させるため、ま た、新たな地域からの集客数 増加を目指すため、県の関係 機関や観光事業団体とも連携 して、効果的な広報のあり方 を検討する。	学習旅行などの観光集客 力の回復と新たな地域か らの集客数の増加を目指 す。	観光ポータルサイト等 への掲載、会津地域のイ ベントに柔軟に対応した広 報展開を検討する。学校 団体の動向を分析し、対 応の改善について検討す る。観光団体との広報連 携を検討する。	観光ポータルサイト(新規・既存共)へ の情報提供を行った。また、団体割引 の導入により、観光系の6事業との連 携を行い、入館者増に取り組んだ。地 域の観光事業(こどもまつり、会津ま つり等)に対応した当館事業の広報を、 時宜に応じて行った。4者協議会を設 立し、会津若松市内の観光団体との広 報連携を実施した。事業の内容に応じ て、学校団体へのアプローチ方法を検 討、実施した。	◎	
							9. 使命の明 示と事業の点 検
運 営 機 能	②利用者ニーズ の把握と対応	運営・設備・展示・講座・イ ベント・広報効果等に関する各 種アンケートや統計調査を実 施し、結果を分析することで、 博物館活動における課題や利 用者のニーズを把握する。そ の結果は広報活動や各種事業 の企画立案に反映させる。	各種アンケートの結果を分 析して、博物館活動の課 題および利用者ニーズを 的確に把握する。そして、 それらに対する具体的な 対応状況をホームページ で公表する。利用者満足 度80%以上達成の維持。	アンケートや日報に書か れた利用者の声に対して は、可能な範囲ですみや かに対応・検討する。集 計や分析、公表の方法に ついて再検討する。	アンケートや日報に書かれた意見に 対しては、可能な範囲で検討・対応した。 館長講座のテーマは、前年度のアンケ ートの意見を反映させて決定した。企 画展等のアンケートの集計・分析の結 果は、館内会議で随時報告し、一部は 年報等を通じて公表する予定である。	◎	
							10. 人材の育 成と機能的な 組織

達成度の記入方法 ○：達成 ○：ほぼ達成 △：一部達成 ×：達成できず

機能	活動の指針	重点目標	実現方策	30年度目標	30年度評価指標	30年度実績	達成度
	11. 危機管理	①来館者の安全確保	火災や地震に備えて避難手順や救命措置を確認するため、各種訓練を実施する。	防災訓練およびAED研修の年1回実施	災害等が発生した場合に速やかな対応ができるよう、前年度の訓練内容に改善を加えながら実施する。	6月19日に、AED操作研修と地震・火災発生を想定した自衛避難訓練を実施した。初期消火訓練、避難誘導訓練、消火器・消火栓の操作訓練等を行い、来館者等の人命保護を第一に考えて行動することなど、職員の防災意識の高揚が図られた。	◎
		②施設の安全管理	建築物および設備の劣化状況を、建築基準法第12条に基づき定期的に点検する。	保守管理の徹底による施設の安全性確保に努める。	建物や設備の点検結果を基に長期保全計画の見直しを行い、施設の安全性を確保する。	屋根全面改修と外壁一部改修の施工により、建物の躯体に悪影響を及ぼす要因は解消された。次年度は、来館者の安全を確保するため、自動火災報知設備更新の予算を計上している。	◎
震災からの復興支援	12. ふくしまの宝の発掘と保全	①被災文化財等の救出と保全	県や市町村の関係機関、文化施設、大学等と連携し、被災地域の文化財の救出と保全を図るとともに、当該地域の宝である文化財や自然史資料を改めて調査・研究し、その価値を明らかにすることに努める。	博物館活動の一環として、被災地域から救出・収集された文化財や自然史資料の保全を図るとともに、それらに関する調査研究の成果を報告書としてまとめる。	被災文化財等に対する活動の継続とともに、今後の災害に備えたしくみづくりについて検討する。救援本部作成の報告書に、東日本大震災後の活動と、その成果をまとめる。	福島県被災文化財等救援本部に参画し、被災文化財等の対応に当たった。対応のべ日数5日、人数11人。当館における東日本大震災後の活動・成果をまとめ、報告書原稿の準備はしたが、救援本部としての報告書作成が進まなかった。	△
	13. ふくしまの宝の公開と活用	①救出文化財等に関する情報公開	救出および新たに収集した文化財等やそれらに関する研究成果を、さまざまな形で発信する。関係機関からの協力を得ながら、被災地域から救出された資料を中心に、常設展などで公開する。	被災地域から救出・収集された文化財や自然史資料を常設展資料の重要な核と位置づけ、新たな展示手法を駆使して公開する。	被災地域から救出・収集された文化財・自然資料等を展示公開する機会をできるだけ多く設ける。併せて文化財レスキューの活動も紹介する。	テーマ展「けんぱくの宝2018―漆工芸名品選―」の中で、救出・収集された文化財・自然資料を展示公開した。	△
	14. ふくしまの再生と活性化	①文化資源を活用した各種事業の開催および支援	県や市町村の関係機関、各種文化団体等と連携し、地域の復興と再生、活性化に向けたさまざまな文化事業を実施するとともに、各種団体が企画する文化事業への支援も行う。特に被災地域の歴史・文化活動への支援を充実させる。	館内外において、地域の復興と再生、活性化に向けた各種支援事業を実施する。	各種団体からの要請に対してはハードルを低くして対応する。特に震災の記憶を風化させないための取り組みについては積極的に支援する。	復興応援パートナー事業として会津地方振興局との共催で、3.11追悼復興祈念行事in会津 8年前のあの日に祈りをこめてを開催した。当該イベントには特に若い世代に震災の記憶を伝えるため、大熊町立熊町・大野小学校、大熊中学校、県立大沼高等学校演劇部、会津若松市立第四中学校合唱部が参加した。	○
次世代ミュージアム機能	15. 「震災遺産」の保全による震災の共有と継承	①震災遺産の保全と活用のための基盤整備	東日本大震災で生じた震災遺産を歴史資料及び博物館資料と位置付けるため、総合博物館の特色を活かした横断的な組織「震災遺産」分野を構築し、調査・保全および普及事業を実施する。	核となる職員を配置した「震災遺産」分野を確立し組織的な事業展開を実施する。	博物館資料「震災遺産類」の保存・活用に向けて、核となる職員を配置した新分野を確立する。震災遺産の保全、調査研究、特集展を組織的に実施するとともに、県内の自治体・関係機関と連携して、震災遺産を広域に敷衍する。	災害史担当芸員が着任し新分野の立ち上げに向けて始動した。震災遺産の保全に関しては、双葉郡内（浪江町・大熊町・富岡町・双葉町）や会津若松市にて調査・収集を実施し、特集展を開催した。会津大学ではソフト開発授業へ協力、会津高校の被災地フィールドワークの協力、若松商業高校では文化祭において資料展示の協力を行い、震災遺産の活用をすすめた。さらに、筑波大学と連携しインドネシア津波被災地視察を行い、同地で開催された国際シンポジウムにて震災遺産保全の取り組みを紹介した。	○
	16. 新たな文化事業の創出と定着	①県内各地域における文化事業の創出支援、運営の協働	博物館が蓄積してきた情報、手法、ネットワークを基盤に、「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト」等を効果的に活用し、県内各地域で新たな文化事業を創出・定着させる。	創出した事業を地域に定着させ、実施団体や事務局によって安定的に運営されるようにする。	はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトの6年間の活動成果を活かしつつ、東日本大震災後7年目の福島において必要な、当館が中核となり実施する新たな文化事業を検討。文化庁の助成事業に申請中。	はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトの活動成果を活用し、ライフミュージアムネットワークを設立。当館が果たすべき新たな役割として、震災からの教訓を未来に伝えることを目的とした事業を構築、県内外のミュージアムとの連携体制の構築とあわせて実施した。	◎

●平成30年度総評

本年度は、第2期中期目標の最終年度である。

- 館内事業利用者数は、常設展・企画展・無料入館者すべて昨年度より増加して、12万人を超え目標9万人を達成した。とくに企画展の増加が顕著であった。館外事業利用者数1は、学校派遣はやや減少、講師派遣は増加した。館外事業利用者数2は、昨年度ははま・なか・あいづ文化連携プロジェクトの成果展などで参加者が多かったが、今年度立ち上げたライフミュージアムネットワーク事業は、実施期間が約半年間と短く、成果展なども行わなかったため参加者数は少なかった。
- 最終年度は、館内事業利用者数の目標を達成できたが、それ以外の年は目標を下回り、5年間の平均は、およそ7万7千人。年間利用者数9万人を毎年続けることが難しくなっている。第2期中期目標の途中から指標として採用した館外事業利用者数は、学校派遣・講師派遣など微増で継続しているものがある一方で、実行委員会の事業は、年度ごとに事業内容や予算規模が変わるため、利用者数のちがいも大きい。
- 専門機能では、目標達成・ほぼ達成の項目が多い中で、1⑤新たな視点に立ったIPMの導入が目標達成できず、3①リニューアルの推進が一部達成にとどまった。前者は清掃計画が年度内に策定できなかった点であり、今後の課題となった。後者のリニューアルについては、明確なスケジュールや見通しが立てられない状況の中で、具体的な計画を策定するまでには至らなかった。
- 交流機能では、改善されて目標達成、ほぼ達成の項目が多くなった。4①利用者の快適性と利便性の促進では、最終目標であるミュージアムショップの設置はできなかったが、企画展に合わせたオリジナルグッズの製作・販売など可能な範囲で試行した。
- 運営機能は、目標達成・ほぼ達成の項目が多かった。
- 震災からの復興支援では、12①被災文化財等の救出と保全、13①ふくしまの宝の公開と活用が一部達成にとどまった。前者は報告書の作成が予定通り進まなかったためであり、後者は救出・収集された文化財等を特別に展示公開する機会が少なかったことによる。
- 次世代ミュージアム機能の各項目は、達成度が高かった。

福島県立博物館 第2期中期目標の総括

平成30年度は、第2期中期目標の最終年度に当たるため、5年間の総括を行いました。以下に「活動の指針」に沿って成果と課題をまとめました。

1. 地域の文化遺産の収集と継承

【成果】

資料整理では一次資料の登録とデータベース公開は、5年を要せず目標値を達成した。図書の修正は、新規図書登録と並行しながらの作業であるが、おおむね目標を達成できた。資料の安全な保管に関しては、震災遺産類が新たに博物館資料として位置づけられたことも含め、資料数が増加している。これに伴い収蔵庫の整理を行い収蔵庫や棚使用の効率化を一部実現した。IPMに関しては、職員向け講習会の実施、保存環境調査（文化財害虫・カビなど）の結果・対処方法を会議で報告したことにより、IPMを導入する基礎作りが完了した。

【課題】

資料の安全な保存に関しては、資料受入数の増加に対し燻蒸→収蔵のサイクルが連動しきれていない現状がある。要因の一つは燻蒸能力の低下であり、一つは収納スペースのひっ迫である。前者は最新式燻蒸庫への更新、後者は収蔵棚の増設が解決策になるが、まとまった予算措置が必要であり、関係部局と課題を共有して協議を継続しているが実現には至っていない。これらは博物館活動の根幹をなす部分であり、何らかの措置が取られない場合、資料の保全と活用に大きな影響が生じると思われる。IPMについては、生物被害防除を実施する体制を確立することはできなかった。また近年、空気環境（化学汚染物質）の清浄化に関する指針が整備されつつある中で当館が採用している監視方法では実態を正確に把握することが不十分であるので、現在、監視方法の最適化を図る必要がある。

2. 最新の研究による資料価値の発見

【成果】

連携した共同研究の推進では、大学や博物館等と連携した各種研究プロジェクトに毎年参画し、学会発表や公開シンポジウム及び報告書等で研究成果を発表した。とくに震災遺産について発信する機会が多くあった。また地元会津大学とソフトウェアを開発する取り組みも行なった。外部の研究費助成は、地方博物館が科研費の奨励研究に応募可能になり、いくつかの研究課題が採択されたことは今期の成果の一つである。

【課題】

研究費予算は前期比約2.5倍になっているが、学芸員一人当たりでみると小規模で、研究基盤としては貧弱と言わざるを得ない。今後も外部資金に積極的に応募する姿勢を保持しつつ、科研費では奨励研究以上の中型・大型の助成金を獲得するための環境整備が必要である。

3. 来るたびに発見がある展示とニーズに応じた学習支援

【成果】

常設展については、学校団体に対して学習効果が高まるオーダーメイドの学習プログラムを提案・実施し、大変好評であった。また、グループごとに来館する児童・生徒に対して、月ごとにかわる展示室の「おすすめ」資料解説シートを作成した。企画展・特集展については、オリジナル企画を中心に実施することができた。3ヵ年計画を立て、準備のための館内会議を設定して内容の充実を図った。単館ではなく、多館と連携した展示も行った。

学習支援については、講座開催回数、参加者ともに、この五年間を通じて増加している。特に企画展・特集展関連事業は増加しており、これらの事業と連動した企画立案の計画が館として共有され始めている。また、講座参加者の顔ぶれを見ると、いわゆるリピーターの存在が確認でき、利用者による講座等への継続参加が行われている。

リニューアルについては、館内での基本構想原案の作成まで進めた。

【課題】

常設展の多言語化については、予算化できず、十分な成果をあげることができなかった。学校団体の来館時期が集中しており、オーダーメイドの学習プログラムを実施できる学校数を大幅に増やすことが難しい。

今後は企画展・特集展関連事業の数を増やすことだけでなく、各展示会を横断するようなテーマを設定し、館全体として統一性をもった講座等を開催する。これにより、利用者がより様々な分野に関心に向け、継続的な参加につなげられるものとする。

リニューアルについて、館内での基本構想原案の検討以上に進めることはできなかった。リニューアルの方針を変更せざるを得ず、できることは第3期中期目標の中で具体化させることにした。ただし、大きな予算を伴う展示室のリニューアル等については先送りとなった。

4. 楽しめて出会いのある空間の創出

【成果】

ミュージアムグッズの開発と販売の試行を、企画展と連動して実施することができた。

体験型学習機会の促進については、平成26年度民俗分野の「紙漉き体験」を新たなメニューに加えることができた。また、年々民俗分野「昔の道具」体験の要望が増加し、日程調整や内容を工夫することで要望に応じることができた。また、GWや夏休み中に家族の来館者が増えることを踏まえ、体験学習室に体験メニューとしてミニミニ博物館を開催し、大変好評であった。さらに新メニューとして夏休みに「親子で探検！はくぶつかんのウラ側」を2回開催し、新たな博物館の魅力を伝えることができた。

【課題】

ミュージアムショップの設置は実現できなかった。ミュージアムショップは、単なるグッズ販売という意味だけではない。博物館の中の交流の場として、地域連携なども視野に入れながら今後も検討を続けてゆく必要がある。

体験メニューの内容が分野によって偏りがある。企画展や季節に応じた通常利用できる体験メニューを考案する。「昔の道具」などの講座にボランティアの起用を考えていく必要がある。

5. 博物館事業への住民参加

【成果】

資料整理ボランティアは、当初計画のあった自然標本整理と古文書整理に加え民俗資料整理が途中から加わり、整理対象となる資料が増加した。ボランティアに携わる人数や回数も増加し、自然資料のボランティアは展示作業にも参画し活動の幅が広がったと総括できる。

【課題】

今後のボランティアの受け入れについては、現状を維持しながらも、活動の枠組みを資料整理を中心として分野（対象資料）を拡大するのか、あるいは資料整理にとどまらない新たな活動まで範囲を広げるのかの検討が十分でなかった。今後ボランティアコーディネーターの導入も見据え博物館活動とボランティアの関係性を建設的に議論していく必要がある。

6. 博物館情報の発信と公開

【成果】

広報ツールの多様化を実現し、持続的で積極的な運用を行えた。また、平成29年度に設けたシンボルマークの活用による統一イメージの構築を図れた。デザインの精度をあげることで広報効果の向上を図った。

【課題】

展示、主なイベントの広報ポイントなどを適切に把握することが不十分だった。広報に内容を特化した企画展・特集展、主な催しものの事前打ち合わせを行うことを課題としたい。また、広報戦略のための情報収集として、広報効果の測定方法を検討課題としたい。

7. 地域ネットワークの拠点

【成果】

教職員・学校団体を中心に博物館の利用促進、学校での博物館の活用方法の浸透を進めるための博物館連携事業を拡大してきた。さらに、「博物館でも読み聞かせ」などの活動を通して、地域で活動する読み聞かせ団体の活動の場の提供と県教委重点目標である「子どもの読書推進」を進めることができた。

【課題】

地域で活動しているさまざまな団体と当館事業の関連付けを視点として連携できる団体の発掘をさらに進めていく必要がある。各団体と共同して活動したり、活動発表の場を提供したりしながら団体の育成を図るとともに、当館の事業と結びつけ当館事業の魅力アップにつなげていく取り組みを強化する必要がある。移動展については、他館からの要望に応じて実施している状況で、計画的な連携事業にはできなかった。

8. 新しい観光ニーズへの対応

【成果】

観光団体や文化施設間の連携体制を多様に構築することができた。それに伴い、共通の広報ツールの開発、相互広報などの実績をあげることができた。

【課題】

学校団体の動向分析とそれに伴う対応改善が十分に行えなかった。

9. 使命の明示と事業の点検

【成果】

中期目標の達成状況は毎年公表し、また必要に応じて使命の一部見直しを実施した。

企画展アンケートの結果では、おおむね満足度80%は達成できた。過去の常設展アンケートの結果を、リニューアルのための課題・問題点の整理の中で活用することができた。

【課題】

アンケートの結果や利用者への声への対応状況を公表することはできなかった。

10. 人材の育成と機能的な組織

【成果】

学会、研修会等への出席は毎年継続して行うことができた。

【課題】

学会や研修会での成果を学芸員全体で共有したり、業務へ効果的に反映させることについては、十分でなかった。学会や研修会の専門性が高く、共有して効果のあるものばかりでなかったことも理由である。新規採用の学芸員が増えてゆく中で、今後も研修等への参加を通じて能力の向上に努めることは重要である。

11. 危機管理

【成果】

災害発生時に備え、来館者の安全確保、職員の安全に関する意識向上及び災害発生時において適切な行動ができるよう、定期的に訓練を行った。また、建築物や設備について定期点検を行って劣化状況を把握すると共に修繕予算を確保し、平成30年度には屋根と外壁の全面改修を行った。

【課題】

福島県県有建物長寿命化指針（H26年6月）では、軽微な劣化が見られた段階等で早期に対処する「予防保全」と不具合が発生してから修繕等の対処をする「事後保全」を組み合わせ「計画的な保全」への転換を示しているが、予算の確保が難しく老朽化により使用できない設備の改修等を行うことができない。

12. ふくしまの宝の発掘と保全

【成果】

福島県被災文化財等救援本部に参画し、被災文化財等の収集や整理等を継続して行うことができた。被災地域の資料館・博物館のレスキュー作業を完了することができた。

【課題】

当初の目標は救出・収集した資料の保全とともに調査研究を進めることであったが、とくに調査研究までは手が廻らなかった。被災地域の寺社や個人所蔵の資料を救出・保全する場合には、さまざまな課題があり、公的な資料館・博物館資料のレスキュー作業と同じように進めることが難しくなった。

13. ふくしまの宝の公開と活用

【成果】

毎年常設展や企画展の中で救出した文化財・資料の展示を行った。

【課題】

東日本大震災の被害から救出された資料を、特別な意味を込めて展示することは少なくなった。しかし、自然災害や社会状況の変化によって散逸の危機にある資料への対応は、今後も必要である。

14. 福島の再生と活性化

【成果】

5年を通じて、毎年震災に関するイベントを継続して開催してきた。避難者に対して学習や文化的な楽しみの機会を提供するとともに、比較的被害の少なかった会津地域に居住する方々にも震災についてさらに考えを深めていただくことにつながった。

【課題】

会津という地理的要因もあってか、震災・復興に関する事業の持ち込みはさほど多いとはいえない。今後は震災の記憶を風化させないために、様々なネットワークを利用して当館が主体的に各地の文化支援策を企画し、実行していく必要がある。

15. 「震災遺産」の保全による震災の共有と継承

【成果】

東日本大震災で生じたモノ・バショを博物館資料と位置づけて収集・保全・普及活動を精力的に展開し、博物館資料に「震災遺産類」が追加された。これは、新規大規模収集において、分野横断的に実施した保全活動の成果である。

【課題】

博物館資料「震災遺産類」を保存・活用してゆくために、新分野を確立すること、震災遺産を常設展示することが課題であるので、第3期中期目標において課題を解決したい。

16. 新たな文化事業の創出と定着

【成果】

県内の各団体、県外のミュージアムとの連携につながる体制を設け、事業の実施を通じて連携基盤を構築した。事業の実施により、県内各団体の事業運営スキルの向上も図った。

【課題】

事業の継続的な実施により、連携体制の強化が必要とされる。その過程で、経験や知見が共有され、福島県内の各団体の事業運営スキルがさらに向上することが望まれる。

「福島県立博物館の使命」の改正

平成30年度の下半期には「福島県立博物館の使命」（以下「使命」）を見直し、一部改正を行いました。

平成19年に公表した「使命」は、その後数度の改正を重ねてきました。これらの改正の背景には、中期目標（第1期）の期間中に起きた東日本大震災、その後の状況の変化があり、従来の活動に加えて、新たな視点に立った博物館活動の必要性に迫られたことがあります。活動の指針として新たな項目が追加され、それぞれ一定の成果を挙げてきました。震災から8年が経過し、発災直後とは状況が変化し、復興が日々進んでいく中で、あらためて従来の活動と整合させながら、追加した内容についても再検討する必要が出てきました。

第1期・第2期中期目標を掲げて進めてきた結果、館活動としては、ある程度定着した内容も多くなりました。一方で、使命や活動の指針の項目の中には、目標に近づく十分な成果が、なかなか挙げられない内容も出てきました。力を入れるべき内容を選択し、集中して取り組むという考え方で見直す必要が生じました。

公表から10年を経過する中で、社会の変化に対応しながら、新しい博物館を目指すため、「使命」の内容を見直す必要が出てきたこととなります。以上のことをふまえて、中期目標（第3期）を設定するタイミングに合わせて、使命の改正を行うこととしました。

おもな変更点は以下の通りです。

○使命と活動方針（旧「活動の指針」）および中期目標の関連をより明確で、わかりやすいものにすることに配慮しました。

○使命について

従来の「出会いふれあい 博物館」と「あなたも主役 博物館」の内容には、相互に関連するところも多いので一つにまとめ、集中して目標に向かえるようにしました。「ふくしまを元気に 博物館」の内容を継承しながら、新たに「明日に向かう 博物館」を設定しました。

○活動方針について

・【専門機能】【交流機能】【運営機能】【震災からの復興支援】【次世代ミュージアム機能】等の区分をやめ、使命の3つの柱（Ⅰ～Ⅲ）との関連（対応関係）を明確にしました。

使命Ⅰ→活動方針1～3 Ⅱ→4～7 Ⅲ→8・9

3つの使命に共通する基盤として活動方針10「管理運営」を設定しました。

・関連する項目の統合

「8 新しい観光ニーズへの対応」→活動方針7へ

「9 使命の明示と事業の点検」「10人材の育成と機能的な組織」→活動方針10へ

・震災後の改正で追加された項目は一部継承し、それ以外は他の項目の内容に吸収。

「11危機管理」→活動方針10へ

「12ふくしまの宝の発掘と保全」→活動方針1・2へ

「13ふくしまの宝の公開と活用」→活動方針3へ

「14ふくしまの再生と活性化」→活動方針7へ

○平成31年度を初年度とする中期目標（第3期）は、改正後の使命・活動方針をもとに設定します。

○改正後の使命・活動方針は、以下の通り（下線部が改正箇所）。

福島県立博物館の使命と活動方針

平成19年7月公表 平成25年4月・平成26年6月・平成28年3月・平成31年3月改正

福島県立博物館は、昭和61年に県立の総合博物館として開館し、これまで県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、さまざまな活動を行ってきました。博物館をとりまく社会情勢が変化する中で、多様化する要請に配慮しながら、社会に対する当館の責務を使命として明示し、新しい時代の博物館として目指すべき活動方針をとりまとめ、その内容を公表します。

◆使命

福島県は、関東・北陸・東北地方の接するところに位置し、美しく豊かな風土のもと、時代を通して文化交流の地として発展し、特徴のある歴史・文化を形成してきました。また、広大な面積をもつ本県は、中通り・浜通り・会津地域に分かれ、それぞれ異なった風土と生活文化をもっています。

福島県立博物館は、こうしたユニークで多様な歴史・文化が生み出した遺産とその背景にある自然に関する資料を収集・保存し、大切に未来へ引き継ぐとともに、研究を通して、資料のもつ価値を明らかにします。そして、収集した資料や研究の成果を世界に向けて発信するため、さまざまな形で公開します。

人々が地域の課題を調査・研究することを支援し、地域文化の新しい価値を創造することに寄与するとともに、みなさんが博物館を利用しやすいように、人と人との交流を大切にする楽しい環境を整えます。

平成23年3月に発生した東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故は、福島県に大きな被害を及ぼしました。

博物館では、この震災を契機として、従来からの活動に加えて、新たな試みを始めてきました。それらを、未来に向けての取り組みとして定着、発展させてゆきます。

これらを基本に、福島県立博物館が担う3つの使命を掲げます。

I ふくしま発見 博物館

ふくしまの歴史・文化遺産と自然史資料をもとに、ふくしまの歴史・文化そしてそれを育んだ自然に関する情報を提供し、利用者の皆さまとともに、地域文化の価値を学び、新たな文化を創り出します。

II 出会いふれあい 博物館

文化の多様性を尊重し、地域とすべての人に開かれ、人と人が自由に交流し語り合える博物館を目指します。そのために、皆さまの心の拠り所となり、自ら学び体験できる場を創出します。

III 明日に向かう 博物館

震災の継承や博物館相互の連携強化を軸にした未来志向の取り組みを通して、発信力のある力強い博物館を目指します。災害や社会情勢の変化に対応し、行政や文化施設・諸団体と連携して、様々な課題に取り組みます。

◆活動方針

使命を果たすため、以下の10項目の活動を実践します。活動方針に沿って、とくに重点的に進める具体的な目標は、期間を定めて策定する「福島県立博物館中期目標」として公表します。

〈使命Ⅰ「ふくしま発見 博物館」関連〉

1. 地域の文化遺産の収集と継承

福島県の特徴を表す歴史・文化遺産と自然史資料および震災遺産を系統的に収集し、安全な状態で保存し次世代に伝えます。資料情報はデータベースとして整備し、可能な限り公開・活用します。

2. 最新の研究による新たな資料価値の発見

専門的な研究により、収集した資料の価値を明らかにします。地域の課題と関係したテーマを設け調査を行い、その成果を地域文化の発展と創造のために役立てます。

3. 来るたびに発見がある展示・講座

展示を見るたびに資料の新しい側面を発見できるようにします。新しい資料や研究成果を展示や講座に反映するとともに、ニーズに応じて、さらに詳しい情報を準備し提供します。

〈使命Ⅱ「出会いふれあい 博物館」関連〉

4. 楽しめて出会いのある場の創出

居心地がよく、いろいろなことを体験・創造・表現できる博物館を目指します。人と人が出会う文化的なコミュニケーションの場を設けます。未来を担う子どもたちとともに文化の創造力を育みます。

5. 利用者との協働

利用者の意見を積極的に取り入れて、博物館を運営します。幅広く館外からの協力を得ながら、誰にも開かれた博物館の事業を推進します。博物館の機能を生かした事業の実施を利用者の皆さまとともに目指します。

6. 博物館情報の公開と発信

博物館の資料や研究成果および運営に関する情報を公開するとともに、時代の変化に応じた効果的な広報活動により展示など館活動の情報を広く伝え、博物館イメージと認知度の向上を図ります。

7. 地域連携とネットワークの拠点

福島県の面積は広大で、多くの学校、社会教育・文化施設、団体があります。これら関係機関等とのネットワークを作り、情報交換・共同研究や利用者への相互紹介、事業の共同実施を行います。会津という観光地に立地することを踏まえ、地元会津の市町村や文化・観光施設・団体等と連携、協働し、新しいタイプのニーズに対応できるよう努めます。

〈使命Ⅲ「明日に向かう 博物館」関連〉

8. 震災遺産の保全・活用による東日本大震災の共有と継承

東日本大震災による多様な出来事を歴史として共有し継承してゆくため、震災に関連するモノと震災を示すパシヨの資料化を行い、常設展示による公開とともに広く利活用することを目指します。

9. 新たな博物館の役割・機能の創出

これまでの博物館活動による蓄積を基盤にしつつ、自由な発想によって博物館の役割や機能を拡張していきます。博物館ならではの新たな広がりのある活動を検討することで、社会の課題やニーズに向き合います。

〈3つの使命に共通する基盤として〉

10. 管理運営

利用者の安全確保と快適性に配慮し、施設や設備を保全します。優れた人材を育成し、機能的で効果的な組織運営に努めます。

I 事業の概要

1. 資料収集事業

(1) 収集展示委員会

ア. 収集展示委員会委員

館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、12人を委嘱している。

福島県立博物館収集展示委員会 委員名簿

氏名	役職名	備考
有賀 祥隆	東北大学名誉教授・東京藝術大学客員教授	委員長
野沢 謙治	放送大学福島学習センター客員教授	副委員長
入間田宣夫	一関市博物館館長	委員
大石 雅之	岩手県立博物館研究協力員、東北大学総合学術博物館協力研究員	委員
岡田 清一	東北福祉大学大学院嘱託教授	委員
佐々木利和	北海道大学アイヌ・先住民研究センター客員教授	委員
原田 一敏	東京藝術大学大学美術館教授	委員
三上 喜孝	国立歴史民俗博物館准教授	委員
村川 友彦	福島県史学会会長、元福島県歴史資料館課長	委員
柳田 俊雄	東北大学名誉教授、東北大学総合学術博物館協力研究員	委員
玉川 一郎	福島県考古学会会長	委員
北野 博司	東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科教授	委員

イ. 会議

平成30年7月13日(金)

議題

- ① 今後3年間の展示計画について
- ② 2019年度・2020年度開催予定企画展について
- ③ 購入資料について
- ④ 寄贈資料について
- ⑤ その他

(2) 受贈・受託

ア. 歴史資料

(ア) 受贈

松平容保写真ほか	2件	個人
松平鞆子筆観音図ほか	2件	個人
帝国在郷軍人会員証ほか	3件	個人
若松県記録	1件	個人
出征祈願写真	1件	個人

(イ) 受託

戊辰戦争図巻	1件	個人
--------	----	----

藤田剛夫妻結婚式写真	1件	個人
葦名盛氏書状	1件	個人
野矢常方和歌書	1件	個人
金戒光明寺図ほか	5件	個人
河原田家文書	1件	個人
福島県名士肖像録ほか	5件	個人

イ. 美術資料

(ア) 受贈

富士に海浜蒔絵でんぶ台	1件	個人
刀 銘陸奥會津臣藤原道辰ほか	2件	個人
角皿ほか	14件	個人
朱塗大盃	1件	個人
三・一一之記	1件	個人
文人画指導教書ほか	2件	個人
『百壽体』掛軸	1件	個人
詩書屏風(徐晏波筆)	1件	個人
美人図屏風ほか	3件	個人
詩書「海内存知己」ほか	9件	個人
佐竹永海「紫式部図」ほか	18件	個人

(イ) 受託

石井柏亭筆「長尾柳涯像」	1件	個人
蒔絵太鼓形香炉	1件	個人
松平容保使用漆器ほか	2件	妙国寺

ウ. 民俗資料

(ア) 受贈

「鼠除御守護」札ほか	14件	個人
衣桁ほか	5件	個人
オシンメイサマ	1件	個人
年祝い記念お盆ほか	5件	個人
職人巻物(番匠巻物)ほか	3件	個人
小荒井豊山筆「製鋸図」	1件	個人
ゆかた染見本	1件	個人
行火ほか	5件	個人
上棟式の屋羽根	1件	個人
上棟式の屋羽根ほか	4件	個人
イロほか	3件	個人
婚礼用着物	1件	個人
鋸	2件	個人
郷土玩具類	1件	

福島県ハイテクプラザ
会津若松技術支援センター

鋸ほか	40件	個人
餡へらほか	10件	個人
ニシン鉢	1件	個人
こづゆ椀	1件	個人

エ. 考古資料

(ア) 受 贈

古墳時代胡服(復元品)ほか 2件
中島村教育委員会

オ. 自然資料

(ア) 受 贈

会津若松市湊町大字東田面字赤崎産植物化石
(上三寄層) 1件 個人
化石 1079件 個人

カ. 震災遺産

(ア) 受 贈

放射線量計測記録ほか 91件
いいいたてまでの会
放射能検査報告書(贈答用モモ) 1件 個人
旧エネルギー館関連資料 16件
東京電力ホールディングス株式会社
福島復興本社
看板(スクリーニング)ほか 5件
県立若松商業高等学校

(イ) 受 託

和太鼓 2件 個人

(3) 購 入

ア. 歴史資料

戊辰戦争図 2幅

イ. 民俗資料

民俗文化映像研究所 映像民俗学
シリーズ DVD「日本の姿(第3・4集)」1件
食品サンプル(こづゆ、棒鱈煮ほか) 4件

ウ. 自然資料

現生貝類標本(アラフラオオニシほか) 7件

エ. 図書資料

(ア) 一般図書

考古分野19冊、民俗分野20冊、歴史分野10冊、美術分野17冊、自然分野22冊、保存分野12冊、震災遺産31冊
計131冊

(イ) 定期刊行物

定期刊行物リスト

(平成31年3月31日現在)

	定期購読雑誌	分野
1	考古学研究	考古
2	宗教研究	民俗
3	民具研究	民俗
4	ナショナルジオグラフィック	共通
5	第四紀研究	自然
6	ヒストリア	歴史
7	考古学雑誌	考古
8	日本民俗学	民俗
9	信濃	共通
10	ミュゼ	共通
11	史林	共通
12	史学雑誌	歴史
13	歴史評論	歴史
14	地方史研究	歴史
15	日本史研究	歴史
16	日本歴史	歴史
17	歴史学研究	歴史
18	美術手帳	美術
19	芸術新潮	美術
20	国華	美術
21	古代文化	考古
22	文化財発掘出土情報	考古
23	考古学ジャーナル	考古
24	季刊考古学	考古
25	日経サイエンス	自然
26	科学	自然
27	化学	保存科学
28	海洋	自然
29	地球	自然
30	月刊文化財	共通
31	たくさんのふしぎ	共通
32	ニュートン	共通

(4) 制 作

ア. 震災遺産

震災遺産牧場牛舎柱(複製) 1件

2. 保存管理事業

(1) 資料の収蔵

ア. 博物館資料

資料受入れ時点における収蔵資料件数の、現在までの累計を示す。件数は概数であり、「一括」で受け入れた資料も1件と数える。

収蔵資料数

(平成31年3月31日現在)

分野	件数	備 考
考古	20,232	土器・石器・金属器ほか
民俗	13,616	生活・生業・交通・信仰・芸能用具ほか
歴史	22,205	書籍・文書資料ほか
美術	6,626	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自然	43,441	化石・岩石・鉱物ほか
震災遺産	155	被災遺物、文書資料、写真ほか
合 計	106,275	

平成30年度収蔵指定文化財一覧

(平成31年3月31日現在)

連番	指定者	指定種別	資料種類	指定番号	資料名	点数	単位	備考
1	国	重要文化財	絵画	1903	絹本着色阿弥陀二十五菩薩来迎図	1	幅	館蔵
2	国	重要文化財	絵画	6	紙本着色蒲生氏郷像	1	幅	寄託
3	国	重要文化財	工芸品	2065	銅鉢	2	口	指定4口中の2口寄託
4	国	重要文化財	工芸品	2187	椿彫木彩漆笈	1	背	館蔵
5	国	重要文化財	工芸品	981	白銅三鈷杵	1	点	寄託
6	国	重要文化財	工芸品	2055	刺繍阿弥陀名号掛幅	1	幅	寄託
7	国	重要文化財	考古資料	352	会津大塚山古墳出土品	一括		寄託
8	国	重要文化財	考古資料	632	荒屋敷遺跡出土品	一括		寄託
9	福島県	重要文化財	絵画	7	絹本着色仏涅槃図・如意輪観音像・愛染明王像	3	幅	寄託
10	福島県	重要文化財	絵画	10	絹本着色松平築翁像	1	幅	館蔵
11	福島県	重要文化財	絵画	25	絹本着色達磨図	1	幅	寄託
12	福島県	重要文化財	絵画	26	絹本墨画著色寒山図・絹本墨画著色拾得図	2	幅	寄託
13	福島県	重要文化財	絵画	9	絹本着色十六善神像	1	幅	寄託
14	福島県	重要文化財	絵画	3	紙本着色千葉妙見寺縁起	2	巻	寄託
15	福島県	重要文化財	絵画	13	絹本着色名体不離阿弥陀画像	1	幅	寄託
16	福島県	重要文化財	絵画	27	絹本着色熊野曼陀羅図	1	幅	寄託
17	福島県	重要文化財	絵画	28	絹本着色普賢菩薩像	1	幅	寄託
18	福島県	重要文化財	絵画	2	紙本着色両界種子曼荼羅	2	幅	寄託
19	福島県	重要文化財	絵画	6	絹本着色土津神社霊神画像	1	幅	指定9幅中の1幅寄託
20	福島県	重要文化財	彫刻	4	木造大日如来坐像	1	軀	寄託
21	福島県	重要文化財	彫刻	29	木造地藏菩薩坐像	1	軀	寄託
22	福島県	重要文化財	彫刻	81	銅造聖観音菩薩立像(羽黒山湯上神社)	1	軀	寄託
23	福島県	重要文化財	彫刻	23	銅造聖観音菩薩立像(福聚寺)	1	軀	寄託
24	福島県	重要文化財	工芸品	58	銅鉢	1	口	寄託
25	福島県	重要文化財	工芸品	55	青磁牡丹唐草文大瓶	1	口	寄託
26	福島県	重要文化財	工芸品	18	鉄製釣燈籠	1	箇	寄託
27	福島県	重要文化財	工芸品	40	十一面観音版木	1	枚	寄託
28	福島県	重要文化財	工芸品	42	刺繍阿弥陀三尊来迎掛幅	1	幅	寄託
29	福島県	重要文化財	工芸品	53	大名家婚礼調度等	47	件	寄託
30	福島県	重要文化財	書跡	8	紙本墨書猪苗代兼載書八代集秀逸	1	巻	寄託
31	福島県	重要文化財	書跡	10	相馬家系図	1	巻	寄託
32	福島県	重要文化財	典籍	3	家世実紀	277	冊	館蔵
33	福島県	重要文化財	古文書	10	築田家文書	一括		寄託
34	福島県	重要文化財	考古資料	35	流廃寺跡出土金銀象嵌鉄剣	1	口	寄託
35	福島県	重要文化財	考古資料	1	福島信夫山出土品	一括		館蔵
36	福島県	重要文化財	考古資料	14	金銅製双鱼袋金具	2	枚	館蔵
37	福島県	重要文化財	考古資料	21	原山1号墳出土埴輪	一括		館蔵
38	福島県	重要文化財	考古資料	28	常世原田遺跡出土品	一括		館蔵
39	福島県	重要文化財	考古資料	2	田村山古墳出土品	一括		寄託
40	福島県	重要文化財	考古資料	46	相馬・双葉地方の弥生時代石器	一括		館蔵
41	福島県	重要文化財	考古資料	23	松野千光寺経塚出土品	一括		寄託
42	福島県	重要文化財	考古資料	20	五職神經塚出土銅製経筒 附 石製外容器 3口	3	口	寄託
43	福島県	重要文化財	考古資料	33	森北1号墳出土品	一括		寄託
44	福島県	重要文化財	歴史資料	4	絹本着色恵日寺絵図	1	幅	寄託
45	福島県	重要文化財	歴史資料	5	陸奥国会津城絵図	1	鋪	館蔵
46	福島県	重要文化財	歴史資料	15	絹本着色飯豊山山道絵図	1	巻	寄託
47	福島県	有形民俗文化財		16	上行合人形	368	点	寄託
48	福島県	有形民俗文化財		3	(宇内薬師堂)古絵馬	3	面	指定6面中の3面寄託
49	福島県	有形民俗文化財		31	旧修験高橋家所蔵修験資料	241	点	寄託
50	福島県	天然記念物	化石	63	パレオパラドキシア化石梁川標本	1	体	館蔵

イ. 図書および映像資料

(ア) 収蔵図書数 (平成31年3月31日現在)

考古分野：27,273冊 民俗分野：4,909冊
 歴史分野：10,684冊 美術分野：4,430冊
 自然分野：17,421冊 保存分野：1,791冊
 震災遺産：63冊 その他：55,594冊
 合計：120,167冊

(イ) 収蔵映像資料数 (平成31年3月31日現在)

収蔵映像資料総数：1,373点

(2) 登録・整理

ア. 資料管理システムの運用

平成25年度中に、それまでのサーバークライアント方式による資料管理システムに換えて、新たにASP方式の博物館資料管理専用システムである早稲田システム開発株式会社製 I.B. Museum SaaS を導入した。新システムは県教育委員会のFKS回線を介してインターネットに接続した端末パソコンより使用するものとし、それまで使用してきた資料管理システム専用LAN回線はFKS回線に一本化した。新システムでは多数のデータの一括登録や一括修正が可能となり、また、経年的なランニングコストが削減された。更に、インターネット上での資料情報の外部公開が可能となった。

資料管理システム本来の目的である資料の登録および資料情報の外部公開に関しては運用が軌道に乗り、各種登録作業などがほぼ順調に進められるようになった。しかし運用が本格化するにつれ、使用中に発見される書式や登録方法の設定ミス等は引き続き散見され、これらはそのつど修正に努めており、自力で修正出来ないものについては内容を書き出しており、一括して早稲田システムに修正を依頼する必要がある。また、有償の改修が必要な一部項目の再構成については、予算措置を待って改修する予定である。

イ. 資料の登録・資料情報の外部公開

整理が終了した資料のデータを資料管理システムに入力し、資料の登録を行った。表中の数値は登録済み資料の件数を示す。また、システムの資料情報外部公開機能を使用し、インターネット上で公開する所蔵資料情報を新たに追加した。前年度に続き本年度も収蔵資料の登録数および資料情報の外部公開ともに中期目標の評価指標を達成した。ただし各分野により達成度にばらつきが見られる。引き続き資料情報の外部公開において検索機能をより使いやすく改良することが望まれるが、システムがASP方式であるため実施可能な修正に制限があり、相当の工夫と時間が必要となる。

登録資料数・資料情報の外部公開数

(平成31年3月31日現在)

資料類別	登録資料 (平成30年度)	登録資料 (累計)	資料情報の外部公開 (平成30年度)	資料情報の外部公開 (累計)
考古資料類	0	12,130	0	3,532
民俗資料類	219	14,470	1,003	4,408
歴史資料類	4,236	45,704	3,468	11,988
美術工芸品類	0	6,229	0	23
自然標本類	244	25,213	1,348	11,746
合計	4,699	103,746	5,819	31,697

ウ. ボランティア

博物館資料の整理のため、次の通り資料整理ボランティアを受け入れ、資料の整理を行った。

(ア) 自然資料整理

桑原 功 化石標本整理 16日
 星総一郎 化石標本整理 16日
 竹谷陽二郎 岩石・化石標本整理 5日

(イ) 古文書整理

古文書整理ボランティア登録者のうち9名が延べ57日参加し、本田信英家および坂内利子家文書の整理作業(表題・年代・法

量などのデータ採取)を行った。終了したのは235点。参加者は五十嵐晴日子、大堀義子、小関栄助、小檜山裕二、榊原源法、佐藤敏子、鈴木清二、馬場純、星弘明の諸氏。

(ウ) 民俗資料整理

民俗資料整理ボランティアとして佐々木長生氏を登録、月例の収蔵庫資料整理日および山口弥一郎調査資料の研究の資料整理日の作業に参加、資料の整理や情報提供の協力を得ている。

(3) 貸出

ア. 博物館資料

貸出資料一覧

資料名	貸出先	貸出期間	展覧会名
松平定信像 1点	群馬県立歴史博物館	平成30年6月26日～ 9月25日	企画展「すごいぞ！江戸の科学— 時代を動かした地図・暦・和算の 力—」
浦上玉堂「山林読書図」1幅 浦上玉堂「野橋可立図」1幅 浦上玉堂「青山禪琴図」1幅	渋谷区立松濤美術館	平成30年7月1日～ 10月10日	「涯テノ詩聲 詩人 吉増剛造展」
武井柯亭筆「御家訓」(当館受託資料) 1幅	高知県立坂本龍馬記念館	平成30年7月7日～ 8月21日	企画展「大義と忠誠の戊辰戦争— 会津・土佐・三春の幕末明治—」
白河之戦 1点 白河城下探索書(当館受託資料) 1点 白河官賊宿(当館受託資料) 1点 上小屋村絵図(当館受託資料) 1点 白河鹿島宮周辺図(当館受託資料) 2点 5月26日戦闘図(当館受託資料) 1点 暗号(5月19日から)(当館受託資料) 1点 暗号(6月24日付) (当館受託資料) 1点	白河集古苑	平成30年7月～10月	特別企画展「戊辰戦争と白河一武 士と庶民、それぞれの戦いと慰霊 —」
パレオパラドキシア梁川標本のうち 頭骨レプリカ 1点 下顎レプリカ 1点 左寛骨レプリカ 1点 右寛骨レプリカ 1点 左大腿骨レプリカ 1点 右大腿骨レプリカ 1点 歯牙レプリカ 22点	山形県立博物館	平成30年8月31日～ 12月14日	プライム企画展「ヤマガタダイカ イギユウと人魚たち—1千万年、 進化のドラマ—」
木造建築継ぎ手一式	個人	平成30年9月7日～8日	平成30年度「福島県もりの案内人 要請講座」
白河市明戸遺跡出土品 69点	福島県文化財セ ンター白河館	平成30年9月19日～ 12月17日	指定文化財展「白河市天王山遺跡 の時代」
雑巾 3点 南郷のサシコ 1点 信玄袋 1点 風呂敷 1点 コギンキモノ(当館受託資料) 1点 コギンキモノ(当館受託資料) 1点 刺し子布(当館受託資料) 1点 刺し子布(当館受託資料) 1点 菱刺し着物(当館受託資料) 1点 サキオリジンバ(当館受託資料) 1点 サシコジバン(当館受託資料) 1点 アットウシ(当館受託資料) 1点 カパラミプ(当館受託資料) 1点	小山市立博物館	平成30年10月10日～ 12月26日	企画展「糸と布をめぐる手しごと の旅」
穴田遺跡出土品(イノシシ形土製品) 1点	じょーもびあ宮畑	平成30年11月22日～ 令和元年5月31日	特別展「福島氏の弥生遺跡」
編み組み細工 巾着袋 2点	個人	平成31年2月19日～ 3月11日	編み組み細工製作の調査研究(福 島県ハイテクプラザ会津若松技術 支援センターでの技術指導・支援 のため)
連積之大事(当館常設展借用資料) 1点	栃木県立博物館	平成31年3月12日～ 令和元年7月12日	企画展「下野の鎌倉街道—道を行 き交う人と物—」
十二天図旧軸木(恵日寺旧蔵) 正徳5年銘 1点 正徳6年(二月上旬吉祥) 銘 1点	磐梯町磐梯山慧 日寺資料館	平成31年3月28日～ 令和元年12月4日	常設展示

イ. 写真資料

総数：141件246点

考古：18件 54点 民俗：7件25点

歴史：87件131点 美術：28件35点

(4) 保存管理

収蔵資料を適切に保存するため、収蔵庫および展示室など主要箇所での保存環境の定期調査、新規収蔵資料の生物被害防除を実施している。

ア. 保存管理**(ア) 保存環境調査**

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫(一時、第1～第6収蔵庫)、エントランスホール、体験学習室、講堂、事

務室、会議室、研究室、図書室、空調機械室など主要なスペースの保存環境を調査した。調査項目は、昆虫、空中浮遊菌、付着菌、空中浮遊塵埃数、化学汚染物質、温度、湿度、照度、紫外線強度である。調査期間は、2月1日～3月6日である。平成30年度は常設展示室(部門考古展示室)の展示ケースを部分改修したため、ケース改修後の化学汚染物質を検査するため、3月7日～3月14日にかけて調査を実施した。

(イ) 生物被害防除

7月に1回、新収蔵資料などを対象にエキヒュームSを用いた文化財燻蒸を実施し、298件燻蒸処理した。

3. 展示事業

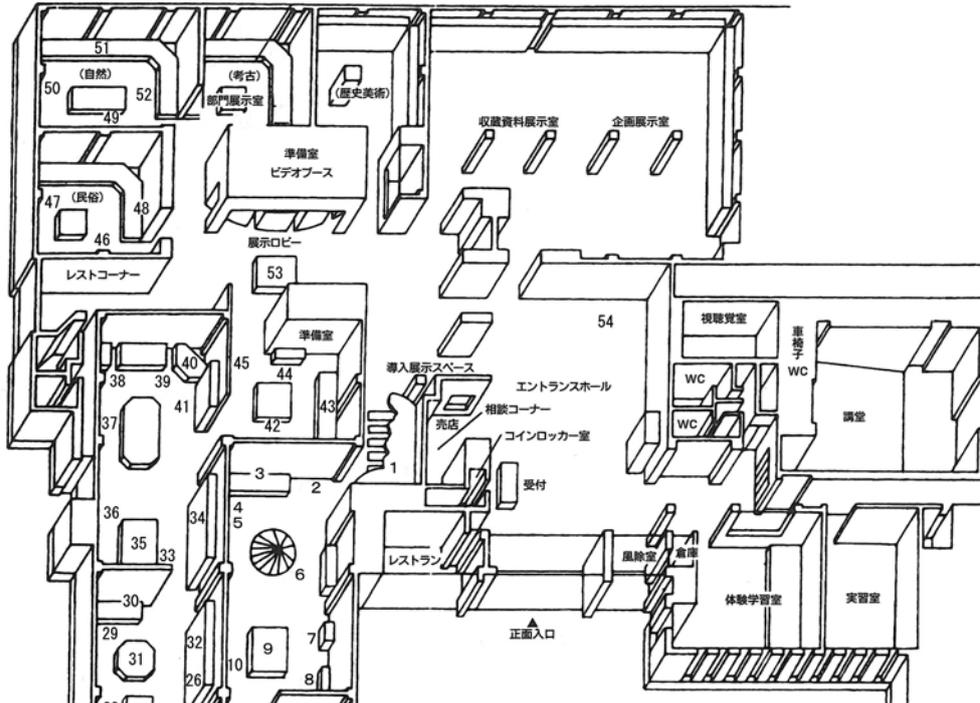
(1) 常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々の暮らしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間

の6つのテーマで構成される。部門展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。平成21年度から、常設展示室内においてテーマ展・ポイント展を実施している。

ア. 展示構成

福島県立博物館の展示構成



【総合展示室】

- 1 清戸竇横穴墓壁画
- 原始
- 2 福島最古の人間
- 3 氷河時代の生活
- 4 最終氷期後半の環境
- 5 環境の変化と生業
- 6 縄文のムラ
- 7 縄文人
- 8 信仰と墓地
- 9 稲作の開始
- 10 再葬の墓
- 古代
- 11 会津大塚山古墳
- 12 原山1号墳の主
- 13 群集する古墳
- 14 ムラの暮らし
- 15 陸奥国の成立
- 16 公民の生活
- 17 在地の仏教
- 中世
- 18 阿津賀志山の合戦
- 19 神仏習合の世界
- 20 好嶋庄の村むら
- 21 南党と北党
- 22 国人一揆
- 23 戦国の群雄
- 近世
- 24 奥羽仕置と諸藩の成立
- 25 学問と文化
- 26 庶民の信仰
- 27 会津農書の世界
- 28 町のにぎわい
- 29 山国の神と人
- 30 産業の発達
- 31 海のなりわい
- 32 ゆれうごく封建社会
- 近・現代
- 33 戊辰戦争
- 34 自由民権運動
- 35 福島県の成立
- 36 安積開拓事業
- 37 庶民の生活
- 38 日本の花形産業
- 39 15年戦争下の生活
- 40 戦後の生活
- 41 変わりゆく社会
- 自然と人間
- 42 福島の盆地と平野
- 43 福島の鉱山
- 44 福島の火山と湖
- 45 福島の河川

【部門展示室】

- ◆民俗（ふくしまの子供の世界）
- 46 七歳まではカミのうち
- 47 遊びをせんとや生まれけむ
- 48 小さき者の声
- ◆自然（県土の形成）
- 49 基盤形成の時代
- 50 海の時代
- 51 山脈形成の時代
- 52 段丘形成の時代
- ◆考古（ふるさとの考古資料）
- ◆歴史・美術（福島の美術）
- ロビー・エントランスホール
- 53 白水阿弥陀堂模型
- 54 二本松提灯祭竹田町太鼓台

イ. テーマ展

常設展示室内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として実施した。平成30年度が10年目である。全8回実施。うち「野山の宝 化石・鉱物展 一友の会化石・鉱物探検隊第2回成果展」は友の会との共催事業として、「華麗なる島—会津出身の文化人・西川満が愛した台湾、繋いだ日本」は県立博物館と国立台湾文学館の主催事業として、「詩人が見つけたふくしま—吉増剛造が出会った会津、漆」は社会福祉法人安積愛育園 はじまりの美術館と埴谷・島尾記念文学資料館との共催事業としてそれぞれ実施した。

- ① 「ふるさとの考古資料7 【榎葉町歴史資料館】移動展」
(部門：考古展示室)
前年度～5月20日(日)
- ② 「祈りのふくしま2」
(部門：歴史・美術展示室)
4月28日(土)～7月8日(日)
- ③ 「野山の宝 化石・鉱物展—友の会化石・鉱物探検隊第2回成果展—」
(エントランス)
7月10日(火)～8月19日(日)
- ④ 「華麗なる島—会津出身の文化人・西川満が愛した台湾、繋いだ日本—」
(部門：歴史・美術展示室)
7月22日(日)～8月19日(日)
- ⑤ 「うるわしのうるしのうつわ—土の中から—」
(部門：考古展示室)
8月4日(土)～次年度
- ⑥ 「詩人が見つけたふくしま—吉増剛造が出会った会津、漆」
(部門：歴史・美術展示室)
10月27日(土)～12月9日(日)
- ⑦ 「けんぱくの宝2018—漆工芸名品選」
(部門：歴史・美術展示室)
12月22日(土)～平成31年2月3日(日)
- ⑧ 「託されたおもい2018 寄贈・寄託の名品たち—会津漆器コレクション」
(部門：歴史・美術展示室)
平成31年2月16日(土)～3月31日(日)



野山の宝 化石・鉱物展
—友の会化石・鉱物探検隊第2回成果展—



うるわしのうるしのうつわ—土の中から—



託されたおもい2018 寄贈・寄託の名品たち
—会津漆器コレクション

ウ. ポイント展

常設展示室内において、特定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」として実施した。平成30年度が10年目である。全19回実施。新収蔵・新発見の資料を紹介するポイント展として、「黒船来航を伝える農具」と「魚の化石展」を実施した。

- ① 「戊辰戦争ピックアップ1—西郷頼母の戦略談」
(総合：近現代展示室)
4月3日(火)～6月1日(金)

- ② 「築城450年 会津の向羽黒山城はどんな城？」
(総合：中世展示室)
4月3日(火)～9月30日(日)
- ③ 「日本遺産！ 会津三十三観音と御詠歌」
(総合：近世展示室)
4月3日(火)～平成31年3月31日(日)
- ④ 「日本遺産！ 安積疏水ができるまで」
(総合：近現代展示室)
4月3日(火)～平成31年3月31日(日)
- ⑤ 「ドウってどう使うの？ 魚とりの道具たち」
(部門：民俗展示室)
4月13日(金)～6月20日(水)
- ⑥ 「戊辰戦争ピックアップ2—磐城の戦い—」
(総合：近現代展示室)
4月28日(土)～6月1日(金)
- ⑦ 「ジオパーク関連展覧会」 (エントランス)
4月28日(土)～6月3日(日)
- ⑧ 「戊辰戦争ピックアップ3—戦場のうわさ話—」
(総合：近現代展示室)
6月2日(土)～7月6日(金)
- ⑨ 「染型紙の世界」 (部門：民俗展示室)
6月22日(金)～8月29日(水)
- ⑩ 「只見線のある風景—美しき奥会津・星賢孝写真展」
(展示ロビー)
7月18日(水)～8月19日(日)
- ⑪ 「戊辰戦争ピックアップ4—会津の戦い—」
(総合：近現代展示室)
7月7日(土)～8月10日(金)
- ⑫ 「2度眠ったパレオパラドキシア」
(展示ロビー)
7月29日(日)～9月2日(日)
- ⑬ 「戊辰戦争ピックアップ5—若松城下の戦い—」
(総合：近現代展示室)
8月11日(土)～9月14日(金)
- ⑭ 「黒船来航を伝える農具」 (部門：民俗展示室)
8月31日(金)～10月24日(水)
- ⑮ 「福島のコケシ・東北のコケシ」
(部門：民俗展示室)
10月26日(金)～12月12日(水)
- ⑯ 「魚の化石展」 (展示ロビー)
10月27日(土)～12月2日(日)
- ⑰ 「囲炉裏のまわりの道具たち」
(部門：民俗展示室)
12月14日(金)～平成31年2月28日(木)
- ⑱ 「会津が生んだ知の巨人・山口弥一郎—災害と民俗—」
(企画展示室)
平成31年2月16日(土)～次年度
- ⑲ 「フタバズキリュウ時代の貝」
(部門：自然展示室)
平成31年3月30日(土)～次年度



戊辰戦争ピックアップ2—磐城の戦い—



2度眠ったパレオパラドキシア



黒船来航を伝える農具

(2) 企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を中心に、会期を設定して開催している。平成30年度は、4本の企画展示を開催した。福島県立博物館は季節毎に年間の展示のコンセプトを設定している。春は、会津をテーマにした展示をとおして会津の魅力を再発見できるような内容。夏は、学校の夏休みの時期に、子どもたちが興味を持ち、家族や親子で楽しめる内容。秋は、福島をテーマにした展示をとおして県民が広く文化や歴史に親しむ機会を提供する内容。

ア. 春の企画展「匠のふるさと会津一技と祈りの建築文化誌一」

(ア) 会 期

平成30年4月28日(土)～6月24日(日)

開館日数：50日間

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 入館者数 7,057人

(エ) 担当学芸員 民俗分野：内山大介

(オ) 趣 旨

冬は雪に閉ざされる会津地方では、厩中門造りとよばれる曲屋の民家、一人前の職人のみが伝授された巻物、火難除けの呪物や儀礼など、住まいに関する特有の文化が育まれてきた。また職人の技を支えた道具づくりの鍛冶技術も大きな発展を遂げ、鋸鍛冶の中屋や刃物鍛冶の重房一門などの名工を多く輩出している。さらに農閑期に会津から他所へ出ていく「会津茅手」、逆に越後から会津にやって来る「越後大工」のような出稼ぎ職人が生まれ、彼らによって多様な文化も伝えられた。本企画展では、住まいや暮らしを支えた職人に着目し、その技と道具、儀礼や信仰などを通じて会津の建築文化を掘り下げる。またそれぞれの専門家による講演会や古建築の見学会ツアーを開催し、地域の身近な文化への理解を深めてもらう。

(カ) 展示構成

出品点数168件

I. 木を伐り、家をたてる

山の神の祭祀者ヤマサキや木の伐り出し・加工を職分とするモトヤマ、木を刻み組む番匠(大工)まで、会津に特徴ある建築職人の姿。(主な展示資料：ヤマサキの御幣・木挽き鋸・大工道具・継手仕口模型)

II. 神に祈り、家をまもる

上棟式を中心に家を築き守るための儀礼と信仰を紹介。(主な展示資料：上棟式の矢羽根・大

工の巻物・火伏せの呪物・家相図・上棟式の祭壇模型)

III. 会津名工列伝

大工や鍛冶屋など江戸時代から名の知られた会津の名工たちを追う。(主な展示資料：宮大工・山岸喜右衛門関係資料・鋸鍛冶の「中屋」や刃物鍛冶重房一門関係資料)

IV. 屋根葺き集団 会津茅手

県内から関東にかけて多くの茅屋根を葺いてきた会津茅手の功績を振り返る。(主な展示資料：出稼ぎの鑑札・屋根葺き道具・屋根葺き巻物)

V. 越後大工の活躍と会津

会津の民家や寺社などの名建築を生みだした越後大工の足跡をたどる。(主な展示資料：渡部組御用留・間瀬大工関係資料・大宝院不動堂の棟札)

(キ) 関連事業

○記念講演会

「奥会津地方の建築儀礼と職人巻物」

日時 5月20日(日)13時30分～15時

場所 福島県立博物館 講堂

講師 宮内貴久氏(お茶の水女子大学教授)

来場者数 80人

○記念講演会「越後大工の会津への旅立ち」

日時 6月16日(土)13時30分～15時

場所 福島県立博物館 講堂

講師 中村義隆氏(新潟郷土史研究会・新潟文化財鑑賞会顧問)

来場者数 88人

○バスツアー

「知られざる会津の名建築をたどる」

日時 5月12日(土)

場所 自在院(会津若松市)・旭長岡観音堂(会津美里町)・旧五十嵐家住宅(会津坂下町)など

講師 小澤弘道氏(福島県民俗学会副会長)

参加者数 22名

○体験イベント「親子ものづくり木工体験」

日時 6月2日(土)10時～16時

場所 福島県立博物館 実習室

講師 会津若松市建築業組合

内容 かながけ実演、時計づくり、木端で小物づくり、かな屑の匂い袋づくり

来場者数 130人

○展示解説会

日時 4月28日(土)・29日(日)

5月6日(日)・13日(日)・26日(土)

6月24日(日)

いずれも13時30分～

来場者数 88人

(ク) 成果と課題

○テーマと内容

本企画展は会津の職人巻物や火伏せの奉納習俗など、これまで当館が調査研究や展示を通じて蓄積してきた個別のテーマを建築全体のなかでとらえ直すとともに、大工道具づくりの鍛冶職人の技術や近世以来の職人の出稼ぎといった社会的なテーマを新たに掘り起こし、会津の建築文化を総体として提示した内容であった。テーマとしてはやや固い内容であったが、鍛冶職人の文化や越後大工の会津への出稼ぎなどは初公開資料がほとんどで、初めて知ったという来館者からの声が多数あった。

○来場者の内訳と推移

目標は6,000人であったが、来場者数は7,057人、行事等を含めた全体の利用者数は7,465人で、目標を上回った。春の修学旅行シーズンを反映して小中学生の来場が全体の約6割を占めたが、高校生以下の無料措置に加え、児童・生徒への積極的な展示室への誘導が功を奏した。また本企画展は年間パスポートが導入されて初めての企画展であった。4月1日から閉幕日までで339枚(会期中では222枚)を販売した。有料入館者全体の13%がパスポート購入者であり、複数回の来場者もみられパスポート導入は一定の効果を上げている。また来場者数の推移をみると、開幕から5月末の前半では来場者数は2,800人ほどであったが、6月に入ってから上昇率が上がり、6月中だけで約4,200人の来場があった。また6月の伸び方は、平日に大きく増えて週末は比較的落ち着くというパターンを繰り返した。いずれも6月の平日に多くの修学旅行生に訪れた結果であり、無料入館者の推移がそのまま入館者全体の推移に影響する結果となった。

○団体による見学と傾向

展示解説会とは別に、公民館や学校などからの依頼を受けて11団体・合計289人への展示解説を行った。特に会津工業高校建築インテリア科や高等職業訓練校など、将来建築関係の職を目指す10代から20代の若年層が団体で来場したことは、展示内容の特色を反映する結果となった。普段の利用者として最も少ない年齢層だが、テーマを絞ったアプローチにより若年層の来館の促進も可能であることを示唆している。さらに介護支援センターからは車椅子の高齢者が来場したが、非常に熱心な観覧行動が印象的であった。民俗分野の展示は自身の経験や記憶を想起しながら観覧できる内容であり、介護施設等への博物館利用の促進にも可能性を感じさ

せる。また教育旅行シーズンにあたり学校団体も多く来場した。全263校が来場したが、その内訳は県内35%、県外65%であった。また県外の内訳は宮城が67%、新潟が19%と多い。これまで教育旅行は宮城が多いことは分かっていたが、それに次ぐのが新潟県であるが分かった。一方で、予約した学校の割合をみると宮城県の学校は予約して来場することが多いが、新潟県の学校は予約率が圧倒的に低く、これまで来館の実態が把握できていなかった。県内の内訳は会津32%、中通りは郡山を中心に県中が35%、福島市を中心に県北が23%となり、中通り南部と浜通りは非常に少ない。

○アンケートへの反応

春の行楽シーズンであり、アンケート回答者にも市外・県外からの来場者数が多かった。小中学生を中心に10代からの回答が目立ち、来館目的にも修学旅行を挙げる人が多かった。認知媒体としては従来通りポスターやチラシが多いものの、新聞広告や折込チラシ、新聞記事に多く取り上げられたことが功を奏した。一方でFacebookページは全11回更新し、展示内容の紹介を中心に告知を試みたが、認知媒体としてはあまり効果が現れなかった。自由記述では、会津の鍛冶屋の歴史や越後大工の出稼ぎなどについて、初めて知ったという地元の方々が多くみられた。また特に反響が大きかったのは展示室内で放映した「奥会津の元山と番匠」(当館製作)と「会津の鋸鍛冶」(県農林水産部製作)の映像で、貸出や購入を希望される方が多かった。全体として、「とても満足」「まあ満足」を足した満足度は80%であった。関連行事については、総じて満足度は展示に比べて高い傾向にあった。特にバスツアーは参加無料だったこともあり予約が殺到し、参加した方の満足度も非常に高かった。参加者も申込出来なかった方々からも、次の開催を望む声が多数あがっている。

平成30年度 春の企画展



匠たくみのふるさと
会津

技と
祈りの
建築文化誌

■ 記念講演会 (参加無料・申込不要)
「奥会津地方の建築儀礼と職人巻物」
日時 6月20日(日) 13:30～15:00
場所 当館講堂
講師 宮内敦久氏(お茶の茶女子大学教授)
「越後大工の会津への旅立ち」
日時 6月16日(土) 13:30～15:00
場所 当館講堂
講師 中村義隆氏(新潟郷土史研究会・新潟文化財研究会顧問)

■ バスツアー (参加無料、昼食代のみ別途必要)
「知られざる会津の名建築をたどる」
日時 5月12日(土) 9:00集合 福寿等は甲込町にお迎えします
講師 小寺弘道氏(福島県民俗学協会会長)
定員20名 4月12日より電話・当館発行にて申込開始(先着順)

平成30年4月28日(土)
～6月24日(日)

休館日 毎週月曜日 及び6月19日(火)
※4月30日(月・祝)は開館

開館時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで)
観覧料 一般・大学生500(400)円
高校生以下無料 ※14.20名以上の団体

福島県立博物館
〒965-0807 福島県会津若松市城東町1-25
TEL 0242(28)16000/FAX 0242(28)5986
E-mail general-museum@fkc.ac.jp
http://www.general-museum.fkc.ac.jp/

企画展「匠のふるさと会津」リーフレット



体験イベント
「親子ものづくり
木工体験」



展示室のようす

イ. 夏の企画展「美しき刃たち—東京富士美術館コレクションと福島の名刀—」

(ア) 会 期

平成30年7月13日(金)～8月19日(日)

開館日数：34日間

(イ) 会 場：福島県立博物館企画展示室

(ウ) 主 催：刀剣展実行委員会 (福島県立博物館・福島民報社・福島テレビ)

企画協力：東京富士美術館

後 援：福島県、福島県教育委員会、会津若松市、会津若松市教育委員会、会津若松市戊辰150周年記念事業実行委員会、公益財団法人日本美術刀剣保存協会、日本美術刀剣保存協会会津支部

(エ) 入館者数 27,281人

(オ) 担当学芸員

美術分野：川延安直・小林めぐみ・塚本麻衣子

(カ) 趣 旨

近年、若い世代からも強い関心を集めている刀剣。これまで、当館においてまとまった数の展示、紹介は行われておらず、本展では東京富士美術館の所蔵品を中心に刀剣の魅力を紹介した。同館が所蔵する平安・鎌倉時代から江戸時代までの優品19点、福島県内の資料館・博物館が収蔵する福島県ゆかりの刀剣、刀装具を加えた計48件を紹介。各種解説パネルにより、刀剣の美、見所、変遷を理解できる構成とし、関連事業として解説会、トークイベント等を開催、刀剣と福島県の関わりを掘り起こした。

(キ) 展示構成

- (1) 東京富士美術館の名刀
- (2) 福島県内の刀剣、刀装具、現代の刀剣、刀装具

【主な展示品】

東京富士美術館コレクションの刀剣、太刀「銘一(福岡一文字)」(重要文化財) 他、計18点
刀「銘(葵紋)以南蠻鐵於武州江戸越前康継」(佐藤彦五郎新選組資料館蔵)

福島県内の刀剣・刀装具・甲冑 計55点
(主な出品館：若松城天守閣郷土博物館、南相馬市博物館、須賀川市立博物館、白河市歴史民俗資料館、三春町歴史民俗資料館、二本松市歴史資料館)

(ク) 関連事業

○テープカット

日時：7月13日(金) 9時30分～9時45分

会場：福島県立博物館エントランスホール

○展示解説会

「刀剣展の見方・はじめの一步(1)」

講師：鴨木年泰氏（東京富士美術館学芸員）
小林めぐみ（福島県立博物館学芸員）

日時：7月13日(金)10時～11時

会場：福島県立博物館 企画展示室

○展示解説会

「刀剣展の見方・はじめの一步(2)」

講師：鴨木年泰氏（東京富士美術館学芸員）
月山貞伸氏（刀匠・月山日本刀鍛錬道場）

日時：8月19日(日)13時30分～14時30分

会場：福島県立博物館 企画展示室

○体験「鎧を着て見る刀剣展」

講師：YOROI工房あいづのみなさん

日時：7月21日(土)13時30分～、
7月29日(日)13時30分～

会場：福島県立博物館 エントランスホール、
企画展示室

○居合実演

実演者：福島県剣道連盟会津居合道部会のみなさん

日時：7月15日(日)11時30分～12時、
13時15分～13時45分

8月4日(土)11時30分～12時、
13時15分～13時45分

8月18日(土)11時30分～12時、
13時15分～13時45分

会場：福島県立博物館 エントランスホール

○講演会「古刀再現ー日本刀の心ー」

講師：藤安将平氏（刀匠 藤安将平鍛刀場）

日時：7月15日(日)14時30分～15時30分

会場：福島県立博物館 講堂

○講演会「ふくしまの刀剣」

講師：渡邊明氏

（日本美術刀剣保存協会会津支部長）

日時：7月29日(日)14時30分～15時30分

会場：福島県立博物館 講堂

○シンポジウム「ふくしま刀剣自慢」

講師：二上文彦氏（南相馬市博物館学芸員）
四家久央氏

（いわき市文化財保護審議会委員）

吉田陽一氏（二本松市教育委員会主査）
平田禎文氏

（三春町歴史民俗資料館副館長）

管野和恵氏（須賀川市立博物館学芸員）
内野豊大氏（白河市文化財課学芸員）

中岡進氏

（若松城天守閣郷土博物館学芸員）

日時：8月4日(土)14時～16時

会場：福島県立博物館 講堂

(ケ) 成果と課題

2万7千人を超える来場者を迎えることができた。折からの刀剣ブームもあり、若い世代の来場者が多かったが、夏休み期間中の開催であったため子ども連れの家族の来場も多かった。関連事業も盛況で、特に居合実演は8月18日に追加公演を行なった。

東京富士美術館のコレクションの平安時代から江戸時代までの優品の展示により、日本の刀剣の変遷を知ることができる展示となった。また、福島県内の資料館、博物館、個人から福島ゆかりの刀剣、刀装具を借用、展示したことで、県内に残る刀剣の価値を確認できた。また、県内在住の刀匠、鞘師らの作品も展示できたことで、刀剣の文化が現在も継承されていることを紹介できた。

さらに、県内在住の刀匠、日本美術刀剣保存協会会津支部の協力を得たことで、刀剣の手入れの重要性が広く認識された。展覧会の開催が一過性の刀剣ブームに乗ったものではなく、県内の文化財保護の機運醸成に結びついたのは展覧会後も残る重要な成果となった。



展示風景 1



展示風景 2



展示解説会 刀剣の見方・はじめの一步



居合実演



鎧を着て見る刀剣展

ウ. 秋の企画展「戊辰戦争150年」

(ア) 会 期

平成30年 9月1日(土)～10月14日(日)

開館日数：38日間

(イ) 会 場

企画展示室
 (ウ) 主 催 福島県立博物館・新潟県立歴史博物館・仙台市博物館

協 力 日本通運株式会社

(エ) 入館者数

17,445人

(オ) 担当学芸員

歴史分野：阿部綾子・栗原祐斗

(カ) 趣 旨

戊辰戦争から150年の節目に、東北・新潟の視点から戊辰戦争を捉え直し、奥羽越列藩同盟と強い関わりのある地域に立地する三館が共同企画した展覧会。新潟県立歴史博物館 [7月14日(土)～8月26日(日)]、当館、仙台市博物館 [10月26日(金)～12月9日(日)] の順に開催した。共通のストーリーに関わる基幹資料は三館を巡回させつつ、各館とも独自の地域資料を交えて展示した。当館では会津藩を中心とする福島県域の実情を伝える資料を多く出品した。なお三館全体の入場者数は62,119人にのぼった。

(キ) 展示構成

序 章「開国」

第一章「政局」

第二章「開戦」

第三章「盟約」

第四章「展開」

第五章「降伏」

終 章「再起」

出品点数：錦旗・奥羽越列藩同盟旗・会津藩旗など旗類、自筆書状類、錦絵・屏風・白虎隊自刃図など絵画資料類、武器・武具類など210件

(ク) 関連事業

○展示解説会

日時：9月8日(土)、15日(土)、22日(土)、
 23日(日)、24日(月)、10月6日(土)、
 13日(土)

各回とも13時30分～14時30分

場所：企画展示室

講師：当館学芸員

○記念講演会「戊辰内乱と「官軍」の創造」

日時：9月16日(日)13時30分～15時

場所：講堂

講師：宮間純一氏(中央大学文学部准教授)

○記念講演会「仙台藩と奥羽越列藩同盟」

日時：9月29日(土)13時30分～15時

場所：講堂

講師：水野沙織氏(仙台市博物館学芸員)

○記念講演会「北越戊辰戦争と会津藩」

日時：10月14日(日)13時30分～15時

場所：講堂

講師：田邊幹氏(新潟県立歴史博物館学芸員)

(ケ) 成果と課題

平成30年は戊辰戦争および明治維新から150年であり全国で関連の企画展が計画される中、関連の三館が手を組んだことで、内容を充実させることができた。東北地方を中心としながらも戊辰戦争を総合的に紹介する企画は希少であり注目を集め、全国からの集客につながった。また単なる巡回展ではなく各館でそれぞれ特色(地域色)を加えて展示したため、三会場の制覇をめざすリピーターも獲得できた。ただ総合展としては評価されたが、反面、それぞれの地域の実情を掘り下げきれなかったことが課題である。

展示の工夫としては、実在の会津藩士・渋谷源蔵をナビゲーター役に設定し、ストーリーに臨場感をもたせたことが好評を得た。また共通図録も売れ行きが好調で、当館では用意した1,200冊程を完売し、三会場全体では年度内に5,000冊近くが売れた。また図録は内容も評価され、日本グラフィックサービス工業会主催の「平成三十年度ジャグラ作品展」業務用印刷部門にて作品展審査会委員長賞(令和元年6月付)を、東大比較文学會 CatalTo 主催の CatalTo 2018 にて学術賞(令和元年7月付)を受賞した。しかし予想以上の売れ行きにより、図録は先行する新潟会場及び当館において会期中に売り切れ、購入できないお客さまにご迷惑をおかけした。共通図録の発行・販売方法については課題が残った。

当館独自の試みとしては、オリジナルグッズ(クリアファイル)の販売、展示の理解を助ける「戊辰戦争150年ミニガイドブック」の無償配布、外灯フラッグのプレゼント企画などを行い、いずれも人気があった。



リーフレット



講演会のような



展示風景



展示解説会のような

エ. 秋の企画展「日本のわざと美—重要無形文化財とそれを支える人々—」

(ア) 会 期

平成30年10月27日(土)～12月2日(日)

開館日数：32日間

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 入館者数 3,177人

(エ) 担当学芸員 美術分野：小林めぐみ

(オ) 趣 旨

文化庁や全国の美術館・博物館の所蔵品により、「人間国宝」と呼ばれる重要無形文化財の保持者や保持団体の「わざ」と作品の「美」を紹介する展覧会。陶芸、染織、漆芸、金工、木竹工、人形、手漉和紙、截金(きりかね)、撥鏝(ばちる)など、伝統的な工芸技術を高度に受け継ぎつつ、さらに新たな技法・技術や表現を追求し、豊かな感性を注ぎこんだ逸品によって、日本工芸の粋を紹介。また、それらの伝統工芸に関わる道具や材料を製作・生産する選定保存技術も展示。伝統工芸の土地でもある会津で、日本各地のわざと美をご覧いただく機会とした。

(カ) 展示構成

1. 重要無形文化財と保持者・保持団体

—陶芸、漆芸、染織、木竹工、人形、金工、截金、撥鏝、手漉和紙—

富本憲吉作「色絵金銀彩四弁花文八角飾箱」(東京国立近代美術館蔵)等 203件

2. 選定保存技術と保持者・保存団体

辻昇楽「上絵具製造工程見本」等 26件

(キ) 関連事業

○講演会「人間国宝とは何か?—守るべき技・伝える美—」

講師：室瀬和美氏(漆芸家・重要無形文化財「蒔絵」保持者(人間国宝))

佐々木正直氏(群馬県立館林美術館長)

日時：10月28日(日)13時30分～15時30分

○実演1「芭蕉布の苧績み」

講師：喜如嘉の芭蕉布保存会のみなさん

日時：11月3日(土・祝)10時～12時

会場：体験学習室

○実演2「伊勢型紙の彫り」

講師：伊勢型紙技術保存会のみなさん

日時：12月2日(日)10時～12時

会場：体験学習室

○ワークショップ1

「伝統工芸の技を体験1—芭蕉布の糸づくり」

講師：喜如嘉の芭蕉布保存会のみなさん

日時：11月3日(土・祝)13時30分～15時30分

会場：体験学習室

○ワークショップ2

「伝統工芸の技を体験2—伊勢型紙で年賀状づくり」

講師：伊勢型紙技術保存会のみなさん

日時：12月2日(日)13時30分～16時30分

会場：体験学習室

○展示解説会1

講師：文化庁担当者

日時：10月27日(土)10時～11時

○展示解説会2

講師：文化庁担当者

日時：11月11日(日)15時～16時

○座談会1「福島のからむし・沖縄の芭蕉布」

日時：11月4日(日)13時30分～15時30分

会場：昭和村 旧喰丸小学校

○座談会2「喜多方の型紙・伊勢の型紙」

日時：12月1日(土)13時30分～15時

会場：喜多方市 喜多方市立図書館

○関連展示1「冠木昭子の会津型」

会期：平成30年10月27日(土)～12月27日(木)

会場：けんぱくレストラン

○関連展示2「会津のわざと美」

会期：平成30年10月22日(火)～11月18日(日)

会場：福西本店(会津若松市中町4-16)

主催：福島県立博物館・

会津若松まちづくり株式会社

○ふくにし・けんぱく連携講座

「支えるわざ・伝えるくらし—伝統工芸から考える暮らし方・生き方」

講師：矢澤源成氏(三島町長)

コーディネーター：赤坂憲雄

(福島県立博物館長)

日時：11月14日(水)18時30分～19時30分

会場：福西本店

主催：会津若松まちづくり株式会社

企画協力：福島県立博物館

(ク) 成果と課題

文化庁や全国の美術館・博物館の所蔵品により、「人間国宝」と呼ばれる重要無形文化財の保持者や保持団体の「わざ」と作品の「美」を紹介する本展を、平成30年度福島県立博物館の秋の企画展として開催した。福島県での開催は初となった。福島県立博物館が所在する会津若松市および近隣の会津地域は、伝統工芸の技が豊かに残る地域であり、日々工芸に触れる機会は多い。しかし、これまで本展の開催の機会がなかったのは、福島県から重要無形文化財の認定が出ていないことが遠因としてあったかと思われる。

しかし、当館での開催は、既存の会津および福島県への関心を喚起するとともに、あら

ためて重要無形文化財、いわゆる人間国宝に認定されている技の高度さと美術表現としてのすばらしさを認識していただく機会となったことが、アンケートからも窺えた。

特に、会期中に開催した講演会や実演・ワークショップでは、高い評価を得られ、作品の展示にあわせて、言葉や実演等での体験が伴うことにより、より理解を深めていただくことができた実感している。

特に、芭蕉布と伊勢型紙の実演とワークショップは、それぞれ福島県昭和村のからむし、福島県喜多方市の会津型という地域の類似の工芸と関連づけることで、参加者に親近感をもっていただけた上に、両地域の交流の場とすることもできた。

残念ながら、入館者数は多くはなかったが、来場者、参加者の受容の濃度は高いものだったと思われる。



展示室の様子



ワークショップ「伝統工芸の技を体験1ー芭蕉布の糸づくり」の様子



実演2「伊勢型紙の彫り」の様子

平成三十年年度の企画展
「日本のわざと美展」重要無形文化財を支える人々

重要無形文化財とそれを支える人々

会期／平成三十年十月二十七日(土)～十一月二日(日)
会場／福島県立博物館企画展示室
福島県立博物館 企画展示室 1F 101号展示室
福島県立博物館 企画展示室 1F 102号展示室
福島県立博物館 企画展示室 1F 103号展示室
福島県立博物館 企画展示室 1F 104号展示室
福島県立博物館 企画展示室 1F 105号展示室
福島県立博物館 企画展示室 1F 106号展示室
福島県立博物館 企画展示室 1F 107号展示室
福島県立博物館 企画展示室 1F 108号展示室
福島県立博物館 企画展示室 1F 109号展示室
福島県立博物館 企画展示室 1F 110号展示室
福島県立博物館 企画展示室 1F 111号展示室
福島県立博物館 企画展示室 1F 112号展示室
福島県立博物館 企画展示室 1F 113号展示室
福島県立博物館 企画展示室 1F 114号展示室
福島県立博物館 企画展示室 1F 115号展示室
福島県立博物館 企画展示室 1F 116号展示室
福島県立博物館 企画展示室 1F 117号展示室
福島県立博物館 企画展示室 1F 118号展示室
福島県立博物館 企画展示室 1F 119号展示室
福島県立博物館 企画展示室 1F 120号展示室

日本のわざと美展

福島県立博物館

手わざの地・会津で出会い、人間国宝の美、美を支える技。

日本のわざと美展チラシ（おもて面）

(3) 特集展

特集展は、新しく収集した寄贈・寄託資料を中心に、特定のテーマに基づいて一定の期間開催する展示である。平成30年度は、第2期中期目標で掲げている次世代ミュージアム機能の充実を図る活動として、冬に開催した。福島県立博物館は、季節毎に年間の展示のコンセプトを設定している。冬は、東日本大震災や復興に関連する内容。

企画展示のように特別の観覧料金を設定せずに、特集展ごとに常設展観覧料で観覧できるか、無料で観覧できるように対応した。

ア. 特集展「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト2017成果展 アートで伝える考える福島の今、未来 at Fukushima Museum」

(ア) 会 期

平成30年3月3日(土)～4月11日(水)

開館日数：34日間

(平成30年度の会期9日間)

(イ) 会 場

部門歴史美術展示室・収蔵資料展示室

(ウ) 観覧者数 2,388人

(平成30年度の観覧者数711人)

(エ) 担当学芸員

川延安直・小林めぐみ・塚本麻衣子

(オ) 趣 旨

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から7年を迎え、その記憶も薄れつつある。しかし、巨大地震と原子力発電所事故が福島に限らない課題であることはこの国の多くの人が共有し続けなければならない課題である。はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトは、文化・芸術の視点から2011年以降福島が抱えている課題に向き合ってきた。地域に新たなアートを定着させ、アーティストとともに被災地の記憶をとどめ、未来そのものである子供たちにアートワークショップを通じて触れあってきた。2011年以降の福島を伝え、ともに考えることを目的に制作されたはま・なか・あいづ文化連携プロジェクトの成果作品を展示。はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトの2012年から2017年までの成果をまとめて公開した。

(カ) 展示構成

岡部昌生「被曝樹×被曝し続ける樹、他」

【プロッタージュ作品】

岩根愛「Island in my mind, Futaba Mieko and Kichio Ito Shinzan, Futaba, Apr. 2017」

【写真作品】

等、出品点数約100点



はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト 2017成果展 チラシ (おもて面)



はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト 2017成果展 チラシ (裏面)



展示室の様子

イ. 特集展「震災遺産を考えるー災害の歴史と東日本大震災ー」

(ア) 会 期

平成30年3月3日(土)～4月11日(水)

開館日数：34日間

(平成30年度の会期9日間)

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 共 催 大熊町、双葉町、浪江町

(エ) 特別協力

久之浜・大久地区復興対策協議会、いわき市立久之浜第一小学校、久之浜大久地区まちづくりサポートチーム、久之浜町商工会、いわき市

(オ) 観覧者数 2,388人

(平成30年度の観覧者数711人)

(カ) 担当学芸員

猪瀬弘瑛、大里正樹、栗原祐斗(震災遺産保全チーム)

(キ) 趣 旨

ふくしま震災遺産保全プロジェクトは、東日本大震災を「歴史」と位置づけ、震災が産み出したモノや震災を示すバシヨを「震災遺産」と名付けて、収集・保全、そして公開する取り組みを平成26年度から平成28年度まで実施してきた。本展示では、これまでに収集・保全した「震災遺産」と過去に起こった災害に関する資料を合わせて展示し、震災を地域の歴史としてとらえ直した。

(ク) 展示構成

(第1章) 歴史の中の災害

(第2章) 東日本大震災の“歴史”

※出品点数 69件

津波堆積物断面剥ぎ取り(小高区、広野町)、浪江・大熊・双葉関連資料、浜風商店街関連資料、久之浜地区町並み模型、久之浜地区案内看板、被災街灯(久之浜)、磐梯山噴火図(各種)、書状(御屋敷普請につき)、九州大悪風津波大破

損之事、白亜紀津波化石、ワークショップの成果物など

(ケ) 関連事業

○展示解説会

展示解説会は各回にテーマを設け、企画展示室において当館学芸員を講師として実施した。

解説会「山口弥一郎の見た三陸津波」

講師：震災遺産保全チーム(当館学芸員)

日時：4月1日(日)11時～11時30分

会場：企画展示室

解説会「古文書から見る災害」

講師：震災遺産保全チーム(当館学芸員)

日時：4月1日(日)13時30分～14時

会場：企画展示室

解説会「震災遺産が語るコト」

講師：震災遺産保全チーム(当館学芸員)

日時：4月7日(土)13時30分～14時

会場：企画展示室

ウ. 特集展「震災遺産を考える」

(ア) 会 期

平成31年2月16日(土)～4月11日(木)

開館日数：47日間

(平成30年度の会期38日間)

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 観覧者数 2,786人

(平成31年3月31日時点)

(エ) 担当学芸員

杉崎佐保恵(震災遺産保全チーム)

(オ) 趣 旨

ふくしま震災遺産保全プロジェクトは、東日本大震災を「歴史」と位置づけ、震災が産み出したモノや震災を示すバシヨを「震災遺産」と名付けて、収集・保全、そして公開する取り組みを平成26年度から平成28年度まで実施してきた。本展示では、これまでに収集・保全した「震災遺産」を展示し、震災に向き合う機会とした。

(カ) 展示構成

第1章 地震と破壊

第2章 混乱と避難

第3章 災害と時間

※出品点数117件

津波痕跡の残る壁紙(南相馬市)他、合計(館藏品、大熊町、富岡町教育委員会、長岡市立中央図書館文書資料室、会津大学、個人から借用品を含む)

(キ) 関連事業

○防災講座「楽しいそなえ」

日時：2月16日(土)10時30分～12時

会場：エントランス
 講師：会田理恵子氏（にいがた災害ボランティアネットワーク事務局長）

○館長講座「中越大震災が遺したもの」

日時：2月21日(木)13時30分～15時
 会場：講堂

講師：澤田雅浩氏（兵庫県立大学大学院准教授）、赤坂憲雄（当館館長）

○考古学講座「災害を発掘する～考古学から見える会津の災害史」

日時：3月17日(日)13時30分～15時
 会場：講堂

講師：荒木 隆（当館学芸員）

○ミニシンポジウム「震災を未来へ継承する」

日時：3月23日(土)13時30分～15時30分
 会場：講堂

講師：森井順之氏（文化庁文化財調査官）
 佐藤 公氏（磐梯山噴火記念館館長）
 杉崎佐保恵（当館学芸員）

○展示解説会 ※各回30分程度

日時：2月16日(土)10時～、
 2月23日(土)13時30分～、
 3月9日(土)15時～、
 3月10日(日)14時45分～、
 3月11日(月)13時30分～(75分拡大版)、
 3月21日(木・祝)13時～、
 3月30日(土)13時30分～

会場：企画展示室

講師：当館学芸員

(ク) 成果と課題

館長講座、考古学講座を特集展の関連行事として開催して、災害史の教育普及を推進した。

3月11日(月)を臨時開館して展示解説会を実施し、解説会終了後に東日本大震災の犠牲者の方の追悼と復興を祈念して、観覧者とともに黙祷を捧げた。

双葉郡内(浪江町・大熊町・富岡町・双葉町)や会津若松市にて調査・収集を実施し、その成果の一部を特集展に反映した。会津大学のソフト開発授業へ協力し、学生の授業成果を展示した。



8年前、東日本大震災を境に私たちの暮らしは一変しました。ふくしまは、震災が生み出した困難な状況に立ち向かって着実に乗り越え、復興へ向かっています。一方で、歳月を重ねるうちに、震災の記憶は色あせ始めているかもしれません。福島県立博物館は、3月11日(月)を臨時開館し、震災遺産を紹介するとともに、東日本大震災と向き合う機会とします。そして、ふくしまの皆様とともに東日本大震災を共有し、確実に未来へ継承してゆきます。

平成30年度 特集展

震災遺産を考える

【会期】平成31年
 臨時開館 3月4日
 3月11日
 3月16日
 3月17日
 3月22日
 3月23日
 3月28日
 3月30日

3.11 追悼復興祈念「3日間連続展示解説会」

- 3月9日(土) 15時～15時30分
 『3.11 追悼復興祈念行事 in 会津』のイベントとして開催します。
 主 催：福島県会津地方振興局・福島県立博物館
 運 営：NPO法人会津地域連携センター
- 3月10日(日) 14時45分～15時15分
 『ミュージアムイベント会津の復興獅子』の終了後に開催します。
- 3月11日(月) 13時30分～14時45分
 『3.11 特別版』として解説時間を拡大して開催します。

※ 各回とも開始までに企画展示室入口にお集まり下さい。

- 考古学講座「災害を発掘する～考古学から見える会津の災害史」 会場 講堂
 3月17日(日) 13時30分～15時 荒木 隆(当館学芸員)
- ミニシンポジウム「震災を未来へ継承する」 会場 講堂
 3月23日(土) 13時30分～15時30分
 森井順之 先生(文化庁文化財調査官)・佐藤 公 先生(磐梯山噴火記念館館長)
 杉崎佐保恵(当館学芸員)
- 展示解説会 集会場所 企画展示室入口 ※各回30分程度
 ■ 3月21日(木・祝) 13時～ ■ 3月30日(土) 13時30分～ ■ 4月7日(日) 13時30分～

● 会 場 福島県立博物館 企画展示室 ● 観覧料 無料

● 主 催 福島県立博物館(会津若松市城東町1-25 電話 0242-28-6000)

● 休館日 3月11日を除く月曜日・3月22日(金) [祝日の翌日のため]

● 開館時間 9:30-17:00(16:30 までに入館して下さい。)

特集展「震災遺産を考える」リーフレット



展示解説会（3月11日臨時開館）



震災遺産「3月12日の新聞(未配達)」

(4) 指定文化財の公開

平成30年度の展示で以下の指定文化財の公開を行った（館蔵・寄託品などは除く）。

ア. 国指定

〈重文〉

- (1) 太刀 銘 有綱(古伯耆) 一振 東京富士美術館
- (2) 太刀 銘 一(福岡一文字) 一振 東京富士美術館
- (3) 太刀 銘 備前国長船住近景 建武二年五月日 一振 東京富士美術館
(以上3件は、企画展「美しき刃たち—東京富士美術館コレクションと福島の名刀—」で展示公開)
- (4) 磐城檜葉天神原遺跡出土品のうち2点 檜葉町教育委員会(福島県) (総合：原始展示室)
- (5) 磐城檜葉天神原遺跡出土品のうち92点 檜葉町教育委員会(福島県) (テーマ展「ふるさとの考古資料7【檜葉町歴史資料館】移動展」で展示公開)
- (6) 金銅製双龍双鳥文磬 一面 金剛寺(テーマ展「祈りのふくしま2」で展示公開)

〈重有民〉

- (7) 「会津只見の生産用具と仕事着コレクション」2,333点のうちの20点 只見町教育委員会(福島県) (企画展「匠のふるさと会津—技と祈りの建築文化誌—」で展示公開)

イ. 県指定(福島県指定)

- (1) 太刀 銘 陸奥大掾三善長道 延宝三年八月日 一振 土津神社
- (2) 金梨地糸巻太刀拵 一腰 土津神社
- (3) 太刀 銘 兼友 為直 道辰 長道 兼氏 謹共作 文政十一戊子六月日 一振 土津神社
- (4) 金梨地糸巻太刀拵 一腰 土津神社
- (5) 刀 銘 陸奥會津住下坂為利 延宝三年八月日 一振 土津神社
- (6) 黒漆刀拵 一腰 土津神社
- (7) 刀 銘 若狭守二代目藤原道辰作 一振 土津神社
- (8) 黒漆刀拵 一腰 土津神社
(以上8件は、企画展「美しき刃たち—東京富士美術館コレクションと福島の名刀—」で展示公開)
- (9) 関和久官衙遺跡出土品のうち2点 福島県教育委員会(総合：古代展示室)
- (10) 森北1号墳出土品のうち4点 会津坂下町教育委員会(総合：古代展示室)

- (11) 八槻都々古別神社御正体 一面 八槻都々古別神社(総合：中世展示室)

〈県重有民〉

- (7) 「奥会津の屋根葺用具と火伏せの呪具」242点のうち13点 南会津町教育委員会(福島県)
(企画展「匠のふるさと会津—技と祈りの建築文化誌—」で展示公開)

(5) 展示解説

ア. 展示解説員

平成30年度の展示解説員は13名で前年度と変わらなかった。これに加えて前年度と同様に常設展示室内で2名分の監視員を委託できる予算を確保したが、展示解説員の増員を図ることができなかった。企画展についても、展示予算の中で監視員1名を予算化し、通常の展示解説員1名に監視員1名を交えた体制で展示室の対応をせざるをえない状況であった。

さらに、企画展開催時には企画展示室の入口のモギリに人数を割かれるなどするため、常設展示室内に対応できる人員が不足する状況が恒常的に続いている。これらの状況に対して、学芸員による解説活動を増やし、定数減の状況を乗り切る対策をとっている。

このような展示解説員の減員により、過去に実施されていた解説員が主となる講座などは、今年度も実施できない状況であった。

また、展示解説員は来館者に展示を解説・案内することが第一の役割であるが、定数減により展示解説員1人で対応しなければならないエリアが広がった関係で十分な解説活動ができない場合が少なくなく、最低限の監視業務を行うので精一杯の状況であることが多かった。きめ細やかな展示解説活動をはじめとしたより質の高いサービスを保障するために、展示解説員に対する研修を実施するなど、質的向上に向けた努力を行っているが、展示解説員の人数不足という量的課題については、引き続き検討をしていく必要がある。

展示解説員の業務は、総合ガイダンスと名付けられた受付での来館者への対応をはじめとして展示や館内の業務をよく知っている職員でなければ担当できない内容がほとんどである。現在の減員状況の中でどうにか対応している状況であるが、現在の定数では通常業務を実施する上では限界の状態であり、来館者への解説サービスを考えた場合、定数増が図られなければ、本来の業務にも支障を来す可能性が出てくる。

(ア) けんぱくハイライトツアー

展示解説員による常設展の定時解説で、開館30周年記念行事としてそれまで実施していた「やさしい展示解説会」をリニューアルさせたものである。原則的に他の行事の入っていない土曜日と日曜日・祝日の午前11時、午後2時の2回開催を基本に実施している。1回の所要時間は約30分。各解説員が独自の解説ルートを開発し、それぞれ展示解説員ごとのテーマで解説会を実施している。今年度の「けんぱくハイライトツアー」は4月29日から3月26日の期間実施した。

〈実施状況〉実施日数：68日

総参加人数：317人

(イ) 通し解説

不定期的に行われる常設展・企画展の解説。主として来館の個人・団体の要望に応じて展示解説員1名が全体を解説するもの。解説員の減員のため、通し解説は困難になってきているが、予約の団体の要望にこたえる形で実施してきていることが多い。

実施回数：51回

(ウ) 部屋送り解説

不定期の常設展・企画展の解説。主として来館する個人の要望に応じ、各展示室の担当として立っている解説員が順に引き継いで解説する。

実施回数：21回

(エ) 体験講座

体験講座などの解説員が主体となって実施する講座は、解説員業務に比して人数が少ないために平成30年度も実施されなかった。

ただし、七夕の時期には竹飾り、クリスマスには手製のクリスマスツリー、小正月に合わせての団子飾り、ひな祭りの時期に自作の雛人形の段飾りなど、解説員が自分たちで作ったものを体験学習室内に展示することは継続している。

また、ゴールデンウィークを中心に時代衣装の試着体験に加え、期間限定で甲冑の試着体験も行うなど、体験的な活動の充実を図っている。

イ. 学芸員

企画展および特集展の開催中は展示解説のために職員を配置する場が増えることになり、展示解説員だけでは解説員の昼休みや休憩時間の減員に対応できない状況であるため、学芸員が代わって展示室に立つことになっている。原則1コマ45分である。30年度は年間で285回を数えた。学芸員が展示室に立つことは単なる解説員の肩代わりではなく、実際に展示室に立つことにより得るもの、気づくものが多かったが、通常業務とのバランスの点

で今後の検討が必要である。

また、企画展、テーマ展、特集展については、公民館、研究団体などからの依頼に応じて、担当分野の学芸員が展示解説を実施した。

ウ. 展示解説のための資料等**①『今月のおすすめ』**

展示室見学の参考とするため、常設展示総合展示室(A～F)の各部屋から月別に1点ずつおすすめ資料を選定し、資料に関するキャッチコピーと簡単な紹介を展示室内の表示と常設展入り口にデジタルフォトフレームによる表示を行っている。月別に紹介する資料が変わり、見学するポイントが分かることから、常設展示に対する観覧者の興味・関心を高めることに役立っている。

②福島県立博物館ガイドブック

常設展の展示内容をコンパクトに解説したもの(28ページ)で、館活動についても紹介している。昭和61年に発行され、一部改訂をしながら観覧補助資料として有償配布している。

③Fukushima Museum Permanent Exhibition Guide Book

ガイドブックを要約した英文の展示解説パンフレット(14ページ)で、平成18年に発行され、一部改訂を行いながら観覧補助資料として、希望する来館者に無償配布している。

(6) 体験学習室

エントランスホール隣に設置してある無料で使用できる場所。囲炉裏のついた畳敷きの座敷と木のフローリングの部分がある。昔のおもちゃが用意されていて、自由に遊べるほか、季節ごとに昔の着物を着ることができる。着付けは衣服の上からだがかなり本格的で好評を得ている。また、資料に触れるハンズオンコーナーを常設することで、子どもたちも博物館に親しむことのできる空間作りを目指している。この部屋には展示解説員が常駐し来館者に対応している。



体験学習室

ア. 衣装

(ア) 衣装着付け

体験学習室では季節ごとに入れ替えを行いながら、時代衣装の着付け体験を行っている。着衣のまま着ることのできる衣装であるが、着付けの技術や衣装についての知識を深めるために新任の展示解説員は研修を行うなど、より質の高いサービスを提供できるように努めている。

着付けにはある程度の時間を要するため、多人数の要望には一度に答え難い面もある。しかし、体験希望者は親子連れから若い友人同士のグループまで幅広く、着付けした姿を鏡に映したり、カメラで撮影したりと、楽しんでいる様子が伺える。展示解説員も体験者との会話から、衣装着付けの体験に対する満足度が高いことを実感している。

①衣装着付け件数 449件

②着付けた衣装

春：打掛・直垂

夏：水干・半袴

秋：天武朝女官朝服・推古朝朝服

冬：白拍子・町人旅姿

(イ) 衣装展示

春：大工・編綴

夏：壺装束・武士旅装

秋：小袖・古墳男子

冬：大鎧・稚児鎧

イ. 手作り資料展示

季節に関する手作りの資料を展示した。製作は展示解説員が担当。

7月：七夕飾り

12月：クリスマスツリー

1月：団子さし

3月：手作り雛人形

ウ. おもちゃ

畳の上で幼児におもちゃで遊ばせるお母さんや家族連れが多くみられる。壁の引き出し

に用意されているおもちゃの利用も多い。ただ、おもちゃの経年劣化に加えて利用者の増加もあり、修理を必要とするおもちゃの数も増えている。

おもちゃの修理：63件

エ. ハンズオンコーナー

来館者が実際に体感することで、様々な学びを促進するためのコーナー。平成30年度は「土器パズル」（縄文土器の写真を再現するパズル）、「化石にさわろう！」（当館収蔵の様々な化石を実際に手に取ることが出来るコーナー）、「福島県地図パズル」（各市町村の形を、それぞれの市町村の木で製作してあるパズル）を常設展示として設置した。また、7月～9月にかけては蚊帳を設置し、一昔前の暮らしを体感できるコーナーを作った。特に展示の理解が難しい児童に対する博物館入門コーナーという意図があるが、親子や大人のグループの利用もあり、好評を得ている。

(7) リニューアルの検討

リニューアルに向けて、調査・研究を行うためにリニューアル推進チームを設置して活動した。会議は通年で14回実施し、下記の内容について協議した。

①リニューアル基本構想原案の検討

②「新しい展示室イメージ」の検討と提示

③会津大学ソフトウェアスタジオとの連携事業の実施

④「親子で探検！はくぶつかんのウラ側」の実施

基本構想原案をとりまとめ、6月に社会教育課への説明を行った。その次の段階として基本計画の作成を予定していたが、大規模な予算をかけたリニューアルをスケジュール化することが現実的に難しいため、次年度から始まる第3期中期目標の中で、できるところから館内の事業・活動の改善を始めることと、将来のリニューアルを想定した新しい展示ストーリーを作って準備しておくという方針を決めるにとどまった。

また、いくつかのケースを想定した「新しい展示室イメージ」をチームの中で作成・検討し、今後の議論のためのたたき台として館内の会議で提示した。詳しい検討は、次年度以後に持ち越され、第3期中期目標の中の重点目標「新しい展示ストーリーの検討」に継承されることになった。

4. 調査研究事業

(1) 展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向けて、新たな研究成果と展示資料の収集のため、考古・歴史・民俗・美術・自然・保存の各分野がテーマを設定して調査を実施している。平成30年度は、以下の6テーマの調査を実施した。

ア. 山口弥一郎調査資料の研究

(ア) 分野 民俗

(イ) 趣旨

山口弥一郎(1902-2000)は旧・新鶴村に生まれ、東北の地理学・民俗学研究に多大な業績を残した。近年では東日本大震災を経て著書『津浪と村』(1943年刊)が復刊され、津波災害と集落移動に関する研究が全国的に注目を集めている。しかし、磐梯山慧日寺資料館(磐梯町)に一括して収蔵されている山口が残した調査ノートや写真、蔵書などは、体系的な整理や目録作成にまで至っていない。本研究では磐梯町の協力のもと、同資料の整理・調査を進めることで、山口弥一郎の調査研究を見直し、人文科学的側面からの災害研究の新しい方向性を探っていく。

(ウ) 調査概要

磐梯町と福島県立博物館で取り交わした協約書にもとづき、今年度も引き続き山口弥一郎旧蔵資料の整理を進めた。調査ノートや文書類の目録化と写真撮影等を進め、またガラス乾板写真のデジタルデータ化を行った。さらに今年度はこれまでの成果の一部を公表するため、ミニシンポジウム「山口弥一郎が見た昭和の災害と民俗」とポイント展「会津が生んだ知の巨人・山口弥一郎」を開催し、紀要には「磐梯町所蔵・山口弥一郎旧蔵ノート—解題と目録—」を掲載した。

イ. 考古資料による原始・古代の画期の再検討

(ア) 分野 考古

(イ) 趣旨

I 縄文時代後半期から弥生時代初頭とII古墳時代終末期から奈良時代(6世紀末～8世紀)の2つの時期を取り上げ、当館収蔵の当該期の考古資料を中心に取り上げ、資料の有する社会的背景を考察し、本県における原始・古代の時代変遷の画期を検討し考古地域史の確立を目指すものである。

(ウ) 調査概要

県内出土古人骨の研究を東京大学と実施し、年代及び同位体のデータを取得した。また、弘前大学との共同研究で、荒屋敷遺跡出土土器片の漆塗膜のクロスセクションを採取し、エックス線分析を実施した。

ウ. 福島県産中生代軟体動物化石の研究

(ア) 分野 自然

(イ) 趣旨

福島県内には相馬地方にジュラ系相馬中村層群、いわき地方に白亜系双葉層群という中生代の地層が分布している。これらの地層からはアンモナイトや二枚貝や巻貝といった軟体動物化石を豊富に産することが知られ、特に近年は地元の化石収集家の努力によって多くの標本が発見されてきた。

しかし、これらの標本については鑑定が不十分なものもあり、論文などで発表されていないものも多い。そこで、これらの中生代軟体動物化石について鑑定内容を確認した上で成果を論文として記録・公表し、当館所蔵標本を充実させることを目指す。また、新たに追加した標本を展示する機会を設け、さらなる標本の発見・評価につなげる。

(ウ) 調査概要

産状の比較のため、富岡町の新生代貝化石産地について現地調査を行った。現地調査の際には、特に二枚貝、巻貝の産状を確認、採取した。福島県立博物館に所蔵されているアンモナイト化石について鑑定作業を行った。いわき地方の白亜系双葉層群玉山層から新たに発見した二枚貝化石群集について紀要で報告した。

エ. 戊辰戦争資料の研究

(ア) 分野 歴史

(イ) 趣旨

平成30年は戊辰戦争から150年の節目であった。そこで、戦争の激戦地となり、日本の歴史が転換する舞台となった本県でも改めて戊辰戦争の意義について問い直すため、戦争の経過及び戦後の復興過程までを対象として3年計画で資料調査を進めてきた。目的は、新たな資料の発掘を行い、平成30年に成果を盛り込んだ企画展を開催することであった。

(ウ) 調査概要

研究の最終年となった本年は、平成28・29

年度の資料調査の成果を踏まえ、秋の企画展「戊辰戦争150年」を開催した。企画展の概要については該当頁を参照されたい。

オ. 会津の三十三観音めぐりの調査研究

(ア) 分野 美術・民俗

(イ) 趣旨

会津の三十三観音めぐりは、近世以降、女性を中心に連綿と行われてきた。仏教信仰のみならず、観音講におけるコミュニティ形成や御詠歌など多様な要素を含む非常に重要な文化と言える。その一方で、参加人口の減少などにより、継承が危惧されてもいる。本調査研究では、聞き取り調査等を実施し、会津の信仰文化・民俗を掘り下げ、地域の文化の新たな見直し・活用を目指す。

(ウ) 調査概要

会津の三十三観音を構成する観音堂を実際にめぐり、各観音堂の歴史や地域において果たしてきた役割等について現地調査を行い、調査結果を講演会などに活かした。

カ. 災害史の学際的研究と災害史展示の構築

(ア) 分野 震災遺産保全チーム

(イ) 趣旨

東日本大震災の発生以来、災害史の研究はこれまで以上に盛んに行われるようになった。これまで当館では、慶長大地震や磐梯山噴火などに関する資料の収集や会津藩の社倉制の研究、山口弥一郎資料の研究など多様な災害に関わる調査研究を進めてきたが、いずれも個々の分野が断片的に行ってきた活動であった。東日本大震災や原発事故のような大規模災害の経験を後世に語り継いでいくためには、自然史や歴史、民俗、考古、保存科学等の分野が総合的に資料を調査研究していく必要があり、また学際的な見地から歴史上の災害を整理し直し、資料調査を進めたうえで展示に反映していくことも求められる。本研究では東日本大震災と災害史に関する資料の収集や調査研究を分野横断的なチームで進め、将来的な常設展示のリニューアルにおいてそれらを福島県の歴史として位置づけることを目指す。

(ウ) 調査概要

作成した牧場牛舎柱の雌型を使用して専門業者へ委託し、レプリカを完成させた。

避難所に残されたホワイトボードや黒板に書かれた文字を定着させる新手法の開発を継続した。処置に用いる材料については東京文化財研究所へ技術指導を仰ぎ、合成樹脂素材

の画溶液を用いた表面コーティング処置の適性を判断するためにテストピース作成を依頼した。処置による色・質感の変化に対して、分野横断的に検討を重ねた。画溶液をホワイトボードや黒板に用いた処置事例について、調査対象を抽出して文献調査を行った。

富岡町の富岡第二中学校では避難所の状況が存置されたままであり、町と連携して調査を行い、写真撮影、リスト・図面作成を行ったうえで、震災遺産の収集を行った。

キ. 古墳出土金属製品の現代保存修復と展示公開

(ア) 分野 保存科学分野

(イ) 趣旨

発掘調査で出土した金属製品は、歴史上、過去の社会・経済・産業・流通などを考える上で貴重な資料であり、博物館等の収蔵施設での保存・展示のために、クリーニング、埋没環境下で進行した腐食の安定化、形態を保つための樹脂含浸、破片の復元等の一連のプロセスが要求される。保存処理の後は、温度、湿度、空気質、照明等の環境を適切に構築することによって、保存処理の効果が持続する。

維持管理において、適切な環境構築手法を検討する。

(ウ) 調査概要

空気質に関して、「美術館・博物館のための空気清浄化の手引き(暫定版)」に準拠して、適正な環境構築の手法を検討した。

(2) その他の調査研究事業

ア. 古文書整理事業

古文書類の調査・研究は、福島県の歴史をさぐるために欠かせない。しかし古文書を歴史資料として活用するためには、1点ずつ整理を行い、表題・年代・形態・法量・状態などのデータを採取した上で、博物館資料として登録する必要がある。このため、購入・寄贈・寄託などにより当館で受け入れた古文書の整理・登録作業を行っている。また古文書原本を状態よく保存し後世に伝えていくため、古文書をマイクロ撮影し、原本のかわりに閲覧用に提供している。

平成30年度は、前年度に引き続き斎藤勇雄コレクション、浅羽興一家寄贈資料の整理を継続して実施したほか、新たに高橋福江家寄託資料、山川健英家寄託資料、石井健司家寄託資料の整理を行った。また整理が終了した松崎達夫家寄贈資料(若松城下薬種問屋資料)、斎藤美恵子家寄託資料(会津藩士篠澤家資料)、本田徳壽家寄託資料、本田信英家寄託資料を登録し、登録済

みだが未公開であった中村栄一・政子コレクションの公開も併せて行った。マイクロ撮影は、前年度に引き続き「築田家追加寄託資料」の撮影を行った。

(3) 職員の研究活動

ア. 研究成果の公表（職員の氏名あいうえお順）

(ア) 印刷物（単行本・自治体史・図録・報告書・紀要・学術雑誌）

阿部綾子・栗原祐斗・高橋 充・田邊 幹・中武敏彦・西田泰民・水野沙織 2018.7 企画展図録『戊辰戦争一五〇年』（福島県立博物館、新潟県立歴史博物館、仙台市博物館）

荒木 隆 2018.3 「学校支援を中核とした博物館における多様な社会教育活動の実践と展望—学校・博物館・地域・市町村教育委員会の連携を模索して—」『福島県立博物館紀要』第32号 p. 1-32 福島県立博物館

荒木 隆 2019.3 「子どもたちの学びを支える博物館活動—これまでの実践の総括—」『福島県立博物館紀要』第33号 p. 11-26 福島県立博物館

荒木 隆 2019.3 「陸奥南部における郡家の地域支配の様相—磐城郡をモデルとして—」『福島県立博物館紀要』第33号 p. 27-50 福島県立博物館

猪瀬弘瑛 2019.3 「福島県いわき市入間沢に分布する双葉層群玉山層から産出する二枚貝化石群集」『福島県立博物館紀要』第33号 p. 1-10 福島県立博物館

Inose, H., Furuuchi, K., Ito, T., Sashida, K. and Agematsu, S. 2018.10 Radiolarian Fossils from Conglomerate Layers of the Upper Cretaceous Nakaminato Group Exposed Along the Pacific Coast of Ibaraki Prefecture, Central Japan: Staged Denudation of the Mid-Mesozoic Accretionary Complexes in the Kanto District. *Paleontological Research*, vol. 22, 307-325.

Matsui, K., Kimura, Y., Nagata, M., Inose, H., Ikeda, K., Beatty, B., L., Obayashi, H., Hirata, T., Otoh, H., Shinmura, T., Agematsu, S. and Sashida, K. 2018.7 A long-forgotten 'dinosaur' bone from a museum cabinet, uncovered to be a Japan's iconic extinct mammal, *Paleoparadoxia* (Desmostylia, Mammalia). *Royal Society Open Science*, vol. 5, 172441.

内山大介 2018.4 「会津の鍛冶産業と関連資料コレクション」『匠のふるさと会津—技と祈りの建築文化誌』p. 68-73 福島県立博物館

内山大介・大里正樹・山口 拡・辻本侑生

2019.3 「磐梯町所蔵・山口弥一郎旧蔵ノート—解題と目録—」『福島県立博物館紀要』第33号 p. 79-112 福島県立博物館

内山大介 2019.3 「震災・原発被災と日常／非日常の博物館活動—福島県の被災文化財と『震災遺産』をめぐって—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第214集 p. 103-129 国立歴史民俗博物館

内山大介 2019.3 「書評 会津の御田植祭調査委員会編『会津の御田植祭』」『書評 赤沼博志『会津手語り 鍛冶屋編』』『福島の民俗』第47号 p. 160-163 福島県民俗学会

大里正樹 2019.3 「行事の継承におけるコストとモチベーション—福島県郡山市『笹川のあばれ地蔵保存会』の事例から—」『平成28年度～平成30年度科学研究費助成事業（基盤研究(C)研究成果報告書 民俗文化の継承におけるコストとモチベーションに関する基礎的研究』 p. 7-24 聖徳大学

大里正樹 2019.3 「新聞記事から見た近年の沖縄の郷友会一覧」『南島文化』第41号 p. 93-103 沖縄国際大学南島文化研究所

大里正樹 2019.3 「書評 東京文化財研究所無形文化遺産部編『かりやど民俗誌 福島県双葉郡浪江町苧宿地区』」『福島の民俗』第47号 p. 158-159 福島県民俗学会

菊地芳朗・藤沢 敦・石橋 宏・平澤 慎 2019.2 「宮城県仙台市太白区一塚古墳出土遺物調査報告」『古墳分布北縁地域における地域間交流解明のための実証的研究』p. 9-17 福島大学行政政策学類

高橋 充 2018.7 「『陸奥伊達一族』をよむ」高橋富雄『読みなおす日本史 陸奥伊達一族』p. 203-209 吉川弘文館

高橋 充 2018.7 「書評 垣内和孝著『伊達政宗と南奥の戦国時代』」『史学雑誌』127-7 p. 62-67 公益財団法人史学会

高橋 満 2018.10 「東北地方の製塩研究の現状と課題」『縄文の塩Ⅱ—製塩土器の型式と技術—シンポジウム予稿集』pp. 7-14 明治大学資源利用史研究クラスター

高橋 満 2019.3 「ふくしま震災遺産保全プロジェクトについて」2018年度国内フォーラム報告書 フォーラム「福島の震災遺産と震災アーカイブズの構築」pp. 1-8 筑波大学図書館情報メディア系

(イ) 学会発表

荒木 隆 2018.7.19 「博物館展示資料と体験学習活動を組み合わせた思考・判断・表現する社会科の授業～『古墳時代』を題材にして」

- 『中学校・高等学校 社会科・地理歴史科・公民科 専門研修 資料活用を通して思考・判断・表現する力を育む社会科・地理歴史科・公民科の授業づくり講座』於 福島県教育センター
- 荒木 隆 2018.9.6 「『子どもたちの学びを支える博物館活動』『子ども向け展示とワークショップを考える研究会』於 東北歴史博物館
- 荒木 隆 2018.9.18 「県立博物館を活用したこれからの社会科の授業づくり～『弥生時代』を題材にして』『小学校経験者研修Ⅱ 教科指導研修(社会科)』於 福島県教育センター
- 荒木 隆 2018.9.29 「石背国建国1300年と国指定史跡上人壇廃寺跡整備事業』『須賀川市歴史文化基本構想策定事業講演会』於 史跡上人壇廃寺跡現地(須賀川市)
- 荒木 隆 2018.10.13 「陸奥南部における磐城郡の特色を読み解く』『平成30年度「いわきの考古学講座」第5回講座』於 いわき市生涯学習プラザ
- 荒木 隆 2018.10.25 「福島県立博物館における読み聞かせ活動の展開』『福島県読書活動推進セミナー』於 南会津御蔵入文化センター
- 荒木 隆 2018.12.1 「陸奥南部における石城国の役割を探る』『いわき市教育文化事業団設立40周年記念事業 報告会』於 いわき市生涯学習プラザ
- 荒木 隆 2019.2.23 「北田城のルーツを探る～会津郡内の物流拠点～』『平成30年度湯川村「米と文化の里」講演会』於 湯川村中央公民館
- 内山大介 2019.1.26 「東北日本における傘鉾の地域的展開—祭礼の傘と祈願の吊り下げ物—」民俗芸能学会 第172回研究例会 於：早稲田大学
- 高橋 満 2018.4.30 「ふくしま震災遺産保全プロジェクトについて」フォーラム「福島の震災遺産と震災アーカイブズの構築」於 筑波大学
- 塚本敏夫・山田哲也・岡田一郎・五十嵐純一・高橋満・横須賀倫達 2018.7.7 「有機質遺物の再修理と3次元データを用いた安定台作成—会津大塚山古墳出土鞆を事例として—」日本文化財科学会第35回大会研究発表ポスターセッション 於 奈良女子大学
- 高橋 満 2018.10.14 「東北地方の製塩研究の現状と課題」明治大学資源利用史研究クラスター研究成果公開シンポジウム「縄文の塩Ⅱ」於 明治大学
- TAKAHASHI Mitsuru 2019.3.4 “Fukushima’s Disaster Heritage, Its Preservation and Use” 国際シンポジウム「災害アーカイブの保全と活用—日本とインドネシアの経験をつなげる—」於 Syrah Kuala University (インドネシア)
- イ. 他団体による委嘱等
- 阿部綾子：相馬市史編さん調査執筆員 相馬市教育委員会
- 阿部綾子：郡山市文化財保護審議委員
- 荒木 隆：会津坂下町史編さん委員 会津坂下町教育委員会
- 荒木 隆：堂後遺跡及び勝常寺跡調査指導委員会委員 湯川村教育委員会
- 猪瀬弘瑛：ふくしまサイエンスぷらっとフォーム連携コーディネーター
- 猪瀬弘瑛・内山大介・高橋充・高橋満・塚本麻衣子：福島県立医科大学医学部講座講師
- 内山大介：共同研究員 共同研究「地域における歴史文化研究拠点の構築」国立歴史民俗博物館
- 内山大介：単発非常勤講師 福島大学
- 内山大介：評議員 日本民具学会
- 内山大介：副委員長 会津の御田植祭調査委員会
- 内山大介：三島町史編さん専門委員 三島町教育委員会
- 内山大介：会津坂下町史編さん専門委員 会津坂下町教育委員会
- 内山大介：委員 郡山市文化財保護審議委員会
- 内山大介：事務局長 福島県民俗学会
- 大里正樹：研究協力者 科研費基盤研究(C)「民俗文化の継承におけるコストとモチベーションに関する基礎的研究」聖徳大学
- 大里正樹：三島町史編さん専門委員 三島町教育委員会
- 大里正樹：会津坂下町史編さん専門委員 会津坂下町教育委員会
- 大里正樹：福島県民俗学会事務局 福島県民俗学会
- 大里正樹：野田市史編さん調査研究員 野田市
- 大里正樹：南島文化研究所特別研究員 沖縄国際大学南島文化研究所
- 川延安直：喜多方市美術館収集委員会委員 喜多方市教育委員会
- 川延安直：「ふるさとの風景展」審査員 喜多方市美術館
- 川延安直：いわき市文化財保護審議委員会委員 いわき市教育委員会
- 川延安直：白河市文化財保護審議委員会委員 白河市教育委員会

川延安直：福島県文学賞エッセー・ノンフィクション部門審査委員
 川延安直：福島大学芸術による地域創造研究所 研究員 福島大学
 川延安直：やないづ町立斎藤清美術館運営協議会委員
 川延安直：会津若松市郷土研究奨励金審査委員会 会津若松市教育委員会
 小林めぐみ：福島芸術計画 × Art Support TOHOKU-TOKYO 運営委員会委員 福島県、東京都
 小林めぐみ：会津漆器技術後継者訓練校講師 会津漆器協同組合
 小林めぐみ：やないづ町立斎藤清美術館運営協議会委員 柳津町
 小林めぐみ：会津若松市文化のまちづくり事業委員会委員 公益財団法人会津若松文化振興財団
 小林めぐみ：只見町ユネスコエコパーク支援委員会委員 只見町ユネスコエコパーク推進協議会
 小林めぐみ：只見町ぶなと川のミュージアム運営委員会委員 只見町
 小林めぐみ：福島大学芸術による地域創造研究所 研究員 福島大学
 小林めぐみ：調査委員会委員 会津の御田植祭調査委員会
 小林めぐみ：会津坂下町史編さん委員 会津坂下町教育委員会
 佐藤洋一：南会津町伝統的建造物群保存地区保存審議会委員
 佐藤洋一：共同研究「『聆涛閣集古帖』の総合資料学的研究」共同研究員 国立歴史民俗博物館
 高橋 充：二本松城跡整備検討委員会委員 二本松市教育委員会
 高橋 充：向羽黒山城跡調査整備委員会委員 会津美里町教育委員会
 高橋 充：相馬市史編さん専門委員 相馬市教育委員会
 高橋 充：会津藩主松平家墓所及び名勝会津松平氏庭園整備指導会議委員 会津若松市教育委員会
 高橋 充：阿津賀志山防塁調査・整備指導委員会委員 国見町教育委員会
 高橋 充：伊達市宮脇廃寺跡保存管理計画策定委員会委員 伊達市教育委員会
 高橋 充：伊達市立博物館(仮称)整備検討委員会委員 伊達市教育委員会
 高橋 充：中世城館跡調査指導委員会委員 棚

倉町教育委員会
 高橋 充：会津坂下町史編さん委員会委員 会津坂下町
 高橋 充：北塩原村城館等保存・整備・活用検討委員会委員 北塩原村教育委員会
 高橋 充：小峰城跡石垣検討委員会委員 白河市
 高橋 充：堂後遺跡及び勝常寺旧境内調査指導委員会委員 湯川村教育委員会
 高橋 充：須賀川市文化財保護審議会委員 須賀川市教育委員会
 高橋 満：科研費基盤研究(C)「霞ヶ浦沿岸における縄文時代土器製塩史復元のための基盤的研究」研究代表者 明治大学
 高橋 満：富岡町アーカイブ施設検討町民会議委員(会長) 富岡町
 高橋 満：富岡町アーカイブ施設整備識者検討部会委員 富岡町
 高橋満：会津坂下町史編さん委員 会津坂下町教育委員会
 高橋満：明治大学資源利用史研究クラスター研究推進員
 田中 敏：会津坂下町史編さん委員 会津坂下町教育委員会
 田中 敏：御三階復元検討委員会委員 会津若松市教育委員会
 田中 敏：白河市天王山遺跡調査検討委員会 白河市教育委員会
 田中 敏：会津藩主松平家墓所整備指導会議委員 会津若松市教育委員会
 塚本麻衣子：喜多方市文化財保護審議会委員会委員 喜多方市教育委員会
 塚本麻衣子：会津の御田植祭調査委員会委員 喜多方市・会津美里町
 藤原妃敏：会津若松市文化財保護審議会委員 会津若松市教育委員会
 藤原妃敏：原町市史編さん専門研究委員 南相馬市教育委員会
 藤原妃敏：新鶴民俗資料館運営委員 会津美里町教育委員会
 藤原妃敏：喜多方市文化財保護審議会委員会委員 喜多方市教育委員会
 藤原妃敏：笹山原No.16遺跡調査指導委員 郡山女子短期大学
 藤原妃敏：福島県考古学会副会長 福島県考古学会
 藤原妃敏：南相馬市博物館運営協議会委員 南相馬市博物館
 藤原妃敏：会津坂下町史編さん委員 会津坂下町教育委員会

5. 教育普及事業

(1) 講座・講演会

当館では館長と学芸員による各種講座を開催しているが、そのほかにも、外部に講師を依頼しさまざまな講座・講演会等を実施している。平成30年度の各講座開催数は177、総参加者数は14,981人であった。

前年度(平成29年度)の開催回数は157回で今年度は20回多かった。総参加者数は前年度10,111人で、4,870人の増加、前年比148%であった。個別講座・講演等の一覧を示す。

平成30年度講座・講演会等の回数と参加者数

テ - マ	回数	参加者数
(1) 館長講座	12	945
(2) 考古学講座	7	156
(3) 民俗講座	5	185
(4) 歴史講座	9	633
(5) 自然史講座	3	65
(6) 保存科学講座	1	10
(7) 美術講座	3	138
(8) 実技講座	6	58
(9) 実演	1	32
(10) 企画展関連行事(記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等)	55	5,121
(11) けんぱくミュージアムイベント	8	1,052
(12) 子育て世代対応事業	13	3,156
(13) ミュージアムエデュケーター事業	20	358
(14) 共催事業	3	149
(15) 後援事業	22	1,428
(16) 企画展・特集展内覧会(友の会)	9	1,495
計	177	14,981

平成30年度講座・講演会等行事一覧

(1) 館長講座

テ - マ	講師・所属等	期 日	参加人数
館長講座 東北の文学者たち①「吉野せい」	赤坂憲雄(館長)	4月19日(木)	70
館長講座 東北の文学者たち②「斉藤茂吉」	赤坂憲雄(館長)	5月17日(木)	80
館長講座 東北の文学者たち③「宮沢賢治」	赤坂憲雄(館長)	6月21日(木)	95
館長講座 東北の文学者たち④「西川 満」	赤坂憲雄(館長)	7月19日(木)	65
館長講座 東北の文学者たち⑤「佐々木喜善」	赤坂憲雄(館長)	8月16日(木)	87
館長講座 東北の文学者たち⑥「石川啄木」	赤坂憲雄(館長)	9月20日(木)	74
館長講座 東北の文学者たち⑦「寺山修司」	赤坂憲雄(館長)	10月18日(木)	100
館長講座 東北の文学者たち⑧「島尾敏雄」	赤坂憲雄(館長)	11月15日(木)	74
館長講座 東北の文学者たち⑨「太宰 治」	赤坂憲雄(館長)	12月13日(木)	106
館長講座 東北の文学者たち⑩「若松丈太郎」	赤坂憲雄(館長)	1月17日(木)	54
東日本大震災を考える① 「中越大震災が遺したもの」	赤坂憲雄(館長) 澤田雅浩(兵庫県立大学大学院)	2月21日(木)	47
東日本大震災を考える② 「山口弥一郎が見た昭和の災害と民俗」	赤坂憲雄(館長) 川島秀一(元・東北大学災害科学国際研究所教授) 佐々木長生(福島県民俗学会会長)	3月14日(木)	93

(2) 考古学講座

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
縄文土器をつくろう1	考古分野学芸員	8月4日(土)	14
縄文土器をつくろう2	考古分野学芸員	8月5日(日)	14
縄文土器の野焼き	考古分野学芸員	10月7日(日)	14
会津大塚山古墳を歩こう	平澤　慎・藤原妃敏(学芸員)	11月3日(土・祝)	19
災害を発掘する～考古学から見える会津の災害史	荒木　隆(学芸員)	3月17日(日)	75
「勾玉・ガラス玉を作ろう」	考古分野学芸員	3月23日(土)	20

(3) 民俗講座

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
民俗講座特別編	石本敏也(聖徳大学准教授)	11月17日(土)	45
おもしろ民俗学ゼミナール会津編①	大里正樹(学芸員)	12月15日(土)	37
おもしろ民俗学ゼミナール会津編②	内山大介(学芸員)	1月19日(土)	34
おもしろ民俗学ゼミナール会津編③	山口　拓(学芸員)	2月16日(土)	38
おもしろ民俗学ゼミナール会津編④	江川トヨ子(学芸員)	3月3日(日)	31

(4) 歴史講座

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
歴史講座 戊辰戦争こぼれ話①「西郷頼母の戦略談」	阿部綾子(学芸員)	4月14日(土)	117
歴史講座 戊辰戦争こぼれ話②「磐城の戦いと西洋医学」	田中伸一(学芸員)	5月12日(土)	78
歴史講座 戊辰戦争こぼれ話③「戦場のうわさ話」	栗原祐斗(学芸員)	6月9日(土)	96
歴史講座 戊辰戦争こぼれ話④「会津の戦い」	高橋　充(学芸員)	7月14日(土)	137
歴史講座 戊辰戦争こぼれ話⑤「若松城下の戦い」	佐藤洋一(学芸員)	8月11日(土)	85
はじめてさんの古文書講座①	阿部綾子(学芸員)	3月2日(土)	30
はじめてさんの古文書講座②	高橋　充(学芸員)	3月9日(土)	30
はじめてさんの古文書講座③	阿部綾子(学芸員)	3月16日(土)	30
はじめてさんの古文書講座④	栗原祐斗(学芸員)	3月24日(日)	30

(5) 自然史講座

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
野外講座「化石をさがそう」	猪瀬弘瑛(学芸員)	10月13日(土)	29
実技講座「化石標本をつくろう」	相田　優(学芸員)	10月14日(日)	25
野外講座「鶴ヶ城の野鳥」	古川裕司(野鳥研究家)	11月11日(日)	11

(6) 保存科学講座

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
博物館の舞台裏—博物館でコレクションを保管する—	杉崎佐保恵(学芸員)	4月21日(土)	10

(7) 美術講座

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
美術講座①会津の仏教美術	塚本麻衣子(学芸員)	5月11日(金)	49
美術講座②会津の仏教美術	塚本麻衣子(学芸員)	6月8日(金)	49
美術講座③会津の仏教美術	塚本麻衣子(学芸員)	7月6日(金)	40

(8) 実技講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
須賀川の絵のぼり・小旗をつくろう	大野青峯・大野久子（伝統技術保持者）	5月5日（土・祝）	8
「ヒロロでコースターをつくろう」 会津・三島の編み組み細工	渡部ユキ子・秦 愛子（三島町生活工芸館）	7月8日（日）	5
唐人和風をつくろう	齋藤誠一（伝統技術保持者）	7月28日（土）	13
縄文時代の編み物を再現しよう	本間一恵（バスケットリー作家）	11月10日（土）	9
漆を楽しむワークショップ①「漆絵を描こう」	会津漆器協同組合青年部	11月24日（土）	8
漆を楽しむワークショップ② 「漆スプーンをつくろう」	会津漆器協同組合青年部	11月24日（土）	15

(9) 実演

テ マ	講師・所属等	期 日	参加人数
「大堀相馬焼の絵付け」	山田慎一 （いかりや商店白河工房）	7月1日（日）	32

(10) 企画展関連行事（記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等）

テ マ	講師・所属等	期 日	参加人数
特集展解説会「山口弥一郎の見た三陸津波」 「古文書から見る災害」	震災遺産保全チーム担当学芸員	4月1日（日）	41
特集展解説会「震災遺産が語るコト」	震災遺産保全チーム担当学芸員	4月7日（土）	16
報道向内覧会（13:30～14:00） 友の会・関係者向内覧会（14:00～15:00）	内山大介（学芸員）	4月27日（金）	56
企画展「匠のふるさと会津」展示解説会	内山大介（学芸員）	4月28日（土）	5
企画展「匠のふるさと会津」展示解説会	内山大介（学芸員）	4月29日（日・祝）	9
企画展「匠のふるさと会津」展示解説会	内山大介（学芸員）	5月6日（日）	18
企画展「匠のふるさと会津」関連バスツアー	小澤弘道（福島県民俗学会副会長）・ 当館学芸員	5月12日（土）	22
企画展「匠のふるさと会津」展示解説会	内山大介（学芸員）	5月13日（日）	4
企画展「匠のふるさと会津」記念講演会	宮内貴久（お茶の水女子大学教授）	5月20日（日）	80
企画展「匠のふるさと会津」展示解説会	内山大介（学芸員）	5月26日（土）	12
親子ものづくり木工体験	会津若松市建築業組合	6月2日（土）	130
企画展「匠のふるさと会津」 記念講演会「越後大工の会津への旅立ち」	中村義隆（新潟郷土史研究会・新潟文化 財鑑賞会顧問）	6月16日（土）	88
企画展「匠のふるさと会津」展示解説会	内山大介（学芸員）	6月24日（日）	40
企画展「日本刀の魅力」開幕テープカット	—	7月13日（金）	88
展示解説会「刀剣展の見方・はじめの一步(1)」	鴨木年泰（東京都富士美術館）	7月13日（金）	102
刀剣リレートーク	渡邊 明（日本美術刀剣保存協会会津支 部長）	7月14日（土）	94
居合実演	福島県剣道連盟会津居合道部会	7月15日（日）	621
講演会「古刀再現—日本刀の心—」	藤安将平（藤安将平鍛刀場）	7月15日（日）	192
体験「鎧を着て見る刀剣展」	YOROI工房あいづ	7月21日（土）	31
「華麗なる島—会津出身の文化人・西川満が愛した 台湾、繋いだ日本」開幕式典	—	7月22日（日）	102
芸文交流台湾⇄会津プロジェクトフォーラム 「台湾と会津 西川満から現在まで」	西川潤（早稲田大学名誉教授）・張良澤 （真理大学・台湾）・渋川恵男（会津若松 商工会議所会頭）	7月22日（日）	105
体験「鎧を着て見る刀剣展」	YOROI工房あいづ	7月29日（日）	32
講演会「ふくしまの刀剣」	渡邊 明（日本美術刀剣保存協会会津支 部長）	7月29日（日）	75

(10) 企画展関連行事（記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等）

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
シンポジウム「ふくしま刀剣自慢」	二上文彦（南相馬市博物館）、四家久央（いわき市文化財審議会委員）、吉田陽一（二本松市教育委員会文化課文化振興係主査）、菅野和恵（須賀川市立博物館）、内野豊大（白河市歴史民俗資料館）、中岡進（鶴ヶ城天守閣郷土博物館）、平田禎文（三春町歴史民俗資料館）	8月4日（土）	76
居合実演	福島県剣道連盟会津居合道部会	8月4日（土）	429
居合実演	福島県剣道連盟会津居合道部会	8月18日（土）	704
展示解説会「刀剣展の見方・はじめの一步(2)」	月山貞伸（刀匠・月山日本刀鍛錬道場）・鴨木年泰（東京富士美術館）	8月19日（日）	118
企画展「戊辰戦争150年」オープニングセレモニー	—	9月1日（土）	53
企画展「戊辰戦争150年」解説会	歴史分野学芸員	9月1日（土）	53
企画展「戊辰戦争150年」解説会	歴史分野学芸員	9月8日（土）	67
企画展「戊辰戦争150年」解説会	歴史分野学芸員	9月15日（土）	70
企画展「戊辰戦争150年」記念講演会「戊辰内乱と「官軍」の創造」	宮間純一（中央大学文学部准教授）	9月16日（日）	270
企画展「戊辰戦争150年」解説会	歴史分野学芸員	9月22日（土）	62
企画展「戊辰戦争150年」解説会	歴史分野学芸員	9月23日（日）	69
企画展「戊辰戦争150年」解説会	歴史分野学芸員	9月24日（月）	58
企画展「戊辰戦争150年展」記念講演会「仙台藩と奥羽越列藩同盟」	水野沙織（仙台市博物館）	9月29日（土）	240
企画展「戊辰戦争150年」解説会	歴史分野学芸員	10月6日（土）	71
企画展「戊辰戦争150年」解説会	歴史分野学芸員	10月13日（土）	90
企画展「戊辰戦争150年」記念講演会「北越戊辰戦争と会津藩」	田邊　幹（新潟県立歴史博物館）	10月14日（日）	240
企画展「日本のわざと美」展示解説会	文化庁文化財調査官・文部科学技官	10月27日（土）	24
講演会「人間国宝とは何か？」	室瀬和美（漆芸家・人間国宝）・佐々木正直（群馬県立館林美術館長）	10月28日（日）	80
芭蕉布の苧績み	喜如嘉の芭蕉布保存会のみなさん	11月3日（土・祝）	25
伝統工芸の技を体験1－芭蕉布の糸づくり	喜如嘉の芭蕉布保存会のみなさん	11月3日（土・祝）	4
企画展「日本のわざと美」展示解説会	文化庁文化財調査官・文部科学技官	11月11日（日）	48
伊勢型紙の彫り	伊勢型紙技術保存会のみなさん	12月2日（日）	48
伝統工芸の技を体験2－伊勢型紙で年賀状づくり	伊勢型紙技術保存会のみなさん	12月2日（日）	21
特集展「震災遺産を考える」展示解説会	震災遺産保全チーム担当学芸員	2月16日（土）	20
防災講座「楽しいそなえ」	震災遺産保全チーム担当学芸員	2月16日（土）	26
特集展「震災遺産を考える」展示解説会	震災遺産保全チーム担当学芸員	2月21日（木）	18
特集展「震災遺産を考える」展示解説会	震災遺産保全チーム担当学芸員	2月23日（土）	16
特集展「震災遺産を考える」展示解説会	震災遺産保全チーム担当学芸員	3月9日（土）	19
特集展「震災遺産を考える」展示解説会	震災遺産保全チーム担当学芸員	3月10日（日）	35
特集展「震災遺産を考える」展示解説会	震災遺産保全チーム担当学芸員	3月11日（月）	44
特集展「震災遺産を考える」展示解説会	震災遺産保全チーム担当学芸員	3月21日（木・祝）	11
ミニシンポジウム「震災を未来へ継承する」	森井順之（文化庁文化財調査官）・佐藤公（磐梯山噴火記念館）・杉崎佐保恵（学芸員）	3月23日（土）	38
特集展「震災遺産を考える」展示解説会	震災遺産保全チーム担当学芸員	3月30日（土）	11

(11) けんぱくミュージアムイベント

テ　　マ	出演・講師	期　　日	参加人数
玄如節と日本の民謡	玄如節顕彰会	6月23日(土)	100
けんぱく映画会「ハーメルン」	学芸員	7月16日(月・祝)	110
親子で探検！はくぶつかんのウラ側	学芸員	8月14日(火)	28
会津磐梯山市民盆踊り	会津磐梯山盆踊り保存会	8月15日(水)	70
ナイトミュージアム	学芸員	8月18日(土)	80
「Coderanni」コンサート	会津室内楽団アンサンブル「Coderanni」	9月17日(月・祝)	241
クリスマスコンサート	SLIDE T'z (スライド あいづ)	12月16日(日)	250
会津の彼岸獅子	本滝沢獅子舞保存会	3月10日(日)	173

(12) 子育て世代対応事業

テ　　マ	講　　師	期　　日	参加人数
博物館でも読み聞かせ1	読み聞かせグループ	4月14日(土)	51
子供ミニミニ博物館	学芸員	4月28日(土)～ 5月6日(日)	795
博物館でも読み聞かせ2	読み聞かせグループ	5月12日(土)	48
博物館でも読み聞かせ3	読み聞かせグループ	6月9日(土)	20
博物館でも読み聞かせ4	読み聞かせグループ	7月14日(土)	31
博物館でも読み聞かせ5	読み聞かせグループ	8月11日(土)	35
子供ミニミニ博物館	学芸員	8月11日(土)～ 8月19日(日)	1844
博物館でも読み聞かせ6	読み聞かせグループ	9月8日(土)	31
博物館でも読み聞かせ7	読み聞かせグループ	10月13日(土)	24
子守唄コンサート	西館好子・西山琴恵・逸見良造 (NPO法人日本子守唄協会)	10月17日(水)	230
博物館でも読み聞かせ8	読み聞かせグループ	11月10日(土)	35
博物館でも読み聞かせ 会津短期大学バージョン①	会津短期大学幼児教育学科	12月22日(土)	4
博物館でも読み聞かせ 会津短期大学バージョン②	会津短期大学幼児教育学科	1月14日(月)	8

(13) ミュージアムエデュケーター事業

テ　　マ	講　　師	期　　日	参加人数
ハニワ大王のギャラリートーク(1) 「展示資料で見るふくしまの暮らし【着る】」	荒木 隆 (学芸員)	4月8日(日)	13
ティータイム考古学『考古学を読む』(1)「紀元前後のポトピープル」	荒木 隆 (学芸員)	4月22日(日)	17
ハニワ大王のギャラリートーク(2) 「展示資料で見るふくしまの暮らし【食べる】」	荒木 隆 (学芸員)	5月4日(金・祝)	13
シリーズ ふくしまの新しい古代像を考える 第1回 「東北地方から福島県が独立した!? -石城・石背国建国の背景-」	荒木 隆 (学芸員)	5月27日(日)	23
ハニワ大王のギャラリートーク(3) 「展示資料で見るふくしまの暮らし【住む】」	荒木 隆 (学芸員)	6月10日(日)	14
ティータイム考古学『考古学を読む』(2)「象牙とハンコ」	荒木 隆 (学芸員)	7月1日(日)	12
ハニワ大王のギャラリートーク(4) 「展示資料で見るふくしまの暮らし【乗る】」	荒木 隆 (学芸員)	7月8日(日)	14
ティータイム考古学『考古学を読む』(3)「キモノと装身具」	荒木 隆 (学芸員)	7月22日(日)	12
ハニワ大王のギャラリートーク(5) 「展示資料で見るふくしまの暮らし【学ぶ】」	荒木 隆 (学芸員)	8月12日(日)	21
シリーズ ふくしまの新しい古代像を考える 第2回 「蝦夷大反乱がふくしまに残したもの? -耶麻郡成立の背景-」	荒木 隆 (学芸員)	8月26日(日)	30
ハニワ大王のギャラリートーク(6) 「展示資料で見るふくしまの暮らし【生と死】」	荒木 隆 (学芸員)	9月2日(日)	16
ハニワ大王のギャラリートーク(7) 「展示資料で見るふくしまの暮らし【願う】」	荒木 隆 (学芸員)	10月21日(日)	16

(13) ミュージアムエデュケーター事業

テ - マ	講 師	期 日	参加人数
ティータイム考古学『考古学を読む』(4) 「わたしの茶碗・わたしの箸」	荒木 隆 (学芸員)	10月28日(日)	15
ハニワ大王のギャラリートーク(8) 「展示資料で見るふくしまの暮らし【子ども】」	荒木 隆 (学芸員)	11月11日(日)	13
シリーズ ふくしまの新しい古代像を考える 第3回 「平安時代のふくしまでは貞観大地震をどう乗り越えたのか? -貞観大地震復興政策としての寺院建立-」	荒木 隆 (学芸員)	11月25日(日)	38
ハニワ大王のギャラリートーク(9) 「展示資料で見るふくしまの暮らし【道具】」	荒木 隆 (学芸員)	12月9日(日)	8
ティータイム考古学『考古学を読む』(5) 「世界最古のカードシステム」	荒木 隆 (学芸員)	12月23日(日・祝)	13
ティータイム考古学『考古学を読む』(6)「大工道具からみた日本人」	荒木 隆 (学芸員)	1月27日(日)	12
スーパー古事記 国のはじまり	荒木 隆 (学芸員)	2月11日(月・祝)	43
ティータイム考古学『考古学を読む』(7)「道具の進歩と豊かさ」	荒木 隆 (学芸員)	2月24日(日)	15

(14) 共催事業

テ - マ	主 催	期 日	参加人数
野外講座「高広山で化石をさがそう」	郡山市ふれあい科学館	5月27日(日)	34
spff サイエンス屋台村	ふくしまサイエンスぶらっとフ ォーム運営協議会	11月17日(土)	69
磐梯山噴火130周年記念講座「磐梯山は生きている!!」	磐梯山噴火記念館	1月12日(土)	46

(15) 後援事業

テ - マ	主 催	講師・所属	期 日	参加人数
「息の跡」上映会 (震災関係映画上映会)	つなぐ舎	—	4月30日(月・振休)	75
平成30年度福島県民俗学会大会 (講演会・研究発表会)	福島県民俗学会	鈴木昭英(日本宗教民俗学 会顧問)・丹野香須美(学 会員)・山口拡(学会員)	6月3日(日)	37
会津教育事務所 域内公立小中学校事務担当者会議	福島県教育委員会 (会津教育事務所)	—	6月12日(火)	102
会津漆器協同組合青年部主催講演会 「やればできるということ・漆塗人間国 宝 大西勲の世界」	会津漆器協同組合青年部	大西 勲(漆芸作家)	6月22日(金)	74
耶麻支部社会科部会研究会	中学校教育研修会	—	7月26日(木)	12
域内読書活動支援者育成事業 会津地区研修会	福島県教育委員会 (会津教育事務所)	—	7月31日(火)	72
歴史と夢まちづくりフォーラム	会津若松市	—	9月14日(金)	50
地球を結ぶアートプロジェクト ミクロの化石からアートへ ～太古の福島を感じてみよう～	特定非営利活動法人 Wunderground	竹谷陽二郎(元福島県立 博物館学芸員)・君平(成 安造形大学准教授)	9月22日(土)	9
仏都会津の魅力をさぐるセミナー① 「奈良からみる仏都会津の魅力」	会津と奈良いにしへの絆 継承委員会	高次喜勝(法相寺宗別格 本山副住職)	10月4日(木)	57
仏都会津の魅力をさぐるセミナー② 「会津の仏像の魅力」	会津と奈良いにしへの絆 継承委員会	塚本麻衣子(学芸員)	10月10日(水)	71
少庵を語る麟閣千風会茶会講演会	千風会	熊倉功夫 (MIHO MUSEUM館長)	10月20日(土)	183
仏都会津の魅力をさぐるセミナー③ 「会津の仏像の魅力」	会津と奈良いにしへの絆 継承委員会	志村和子(元会津まほろ ば里人の会)・白岩孝一 (徳一菩薩に学ぶ会)	11月13日(火)	96
あいづわくわく学園専攻課程講座 「会津史序章(会津の古代)」	あいづわくわく学園 (会津若松市高齢福祉課)	—	11月13日(火)	23
「日本遺産会津地域観光アドバイザー」 認定講習会	極上の会津プロジェクト 協議会	塚本麻衣子(学芸員)	11月20日(火)	60

(15) 後援事業

テ　　マ	主　　催	講師・所属	期　　日	参加人数
会津史談会文化史講座 「民具と民芸のあいだ」	会津史談会	山口 拓 (学芸員)	11月22日(木)	56
第15回五色百人一首福島県大会	TOSS五色百人一首 福島県協会	—	12月1日(土)	85
会津三十三観音 会津地域観光アドバイザー認定講習会 第2回	極上の会津プロジェクト 協議会	本田勝之助 (日本遺産プロ デューサー)・塚本麻 衣子 (学芸員)	1月22日(火)	110
フォーラム 語り継ぐために	ライフミュージアムネッ トワーク	—	2月3日(日)	23
「土湯温泉は海の中だった～土湯で発見 されたパレオパラドキシアの世界へワー プ～」	土湯温泉観光協会	木村由莉 (国立科学博物 館)・松井久美子 (九州大 学大学院)	2月26日(火)	50
会津民俗研究会公開講座	会津民俗研究会	酒井浩哉(会員)・滝沢洋 之 (会長)	3月1日(金)	88
3.11追悼復興祈念行事 in 会津 8年前のあの日に祈りをこめて	会津地方振興局	大熊町立熊町・大野小学 校、大熊中学校、県立大沼 高等学校演劇部、会津若 松市立第四中学校合唱部	3月9日(土)	72
木ロボくんを作ろう!	会津大学短期大学部 幼児教育学科	葉山亮三 (会津大学短期 大学部幼児教育学科講師)	3月31日(日)	23

(16) 企画展・特集展内覧会等 (友の会)

テ　　マ	主　　催	講師・所属等	期　　日	参加人数
化石鉱物探険隊成果展解説会	友の会	化石鉱物探険隊	7月25日(水)	25
化石鉱物探険隊成果展解説会	友の会	化石鉱物探険隊	8月5日(日)	177
化石鉱物探険隊成果展解説会	友の会	化石鉱物探険隊	8月12日(日)	342
化石鉱物探険隊成果展解説会	友の会	化石鉱物探険隊	8月14日(火)	191
化石鉱物探険隊成果展解説会	友の会	化石鉱物探険隊	8月15日(水)	200
化石鉱物探険隊成果展解説会	友の会	化石鉱物探険隊	8月18日(土)	258
企画展「日本のわざと美」展内覧会	福島県立博物館	美術分野学芸員	10月26日(金)	30
福島県立博物館友の会 創立30周年記念行事	友の会	星 亮一 (歴史小説家)	11月4日(日)	220
友の会総会	友の会	—	3月16日(土)	52



館長講座「東北の文学者たち⑨ 太宰治」



考古学講座「縄文土器の野焼き」



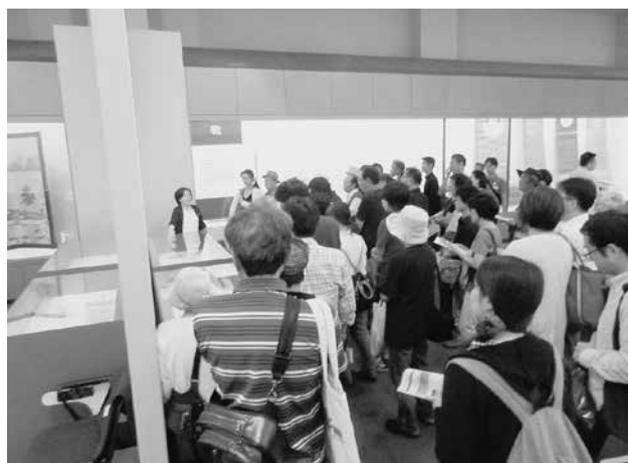
歴史講座「磐城の戦いと西洋医学」



企画展関連行事「『日本刀の魅力』居合実演」



実演「大堀相馬焼の絵付け」



企画展関連行事「戊辰戦争150年」解説会



企画展関連行事「親子木工体験」



子育て世代対応事業「博物館でも読み聞かせ」



子育て世代対応事業「博物館でも読み聞かせ」



子育て世代対応事業
「親子でやすらぐ子守唄コンサート」



子育て世代対応事業「ミニミニ博物館」



子育て世代対応事業
「親子でやすらぐ子守唄コンサート」



子育て世代対応事業「ミニミニ博物館」



子育て世代対応事業
「親子でやすらぐ子守唄コンサート」



玄如節と日本の民謡



「親子で探検！博物館のウラ側」

(2) けんぱくミュージアムイベント

福島の文化や博物館の活動について、気軽な雰囲気の中で知っていただくための催し。県民の皆様にも博物館を身近に感じてもらうことで、今まで博物館に縁遠かった人々を含め、様々な人の集う空間になるよう企画し、8件実施した。

ア. 玄如節と日本の民謡

- (ア) 日 時 平成30年 6月23日(土)
13時30分～15時
- (イ) 会 場 福島県立博物館
エントランスホール
- (ウ) 参加者数 100人
- (エ) 共催・出演 玄如節顕彰会
- (オ) 内 容

玄如節は、即興の掛け合いで唄うのを基本とする会津の民謡の源流でもある。今回のイベントでは、会津や東北を中心として民謡を歌と踊りをまじえて披露し、最後に玄如節で締めくくった。

イ. けんぱく映画会「ハーメルン」

- (ア) 日 時 平成30年 7月16日(月・祝)
13時30分～15時
- (イ) 会 場 福島県立博物館 講堂
- (ウ) 参加者数 110人
- (エ) 内 容

毎年恒例の映画会を講堂で開催した。映画「ハーメルン」の主人公、野田学芸員は、福島県立博物館の考古学の学芸員という設定。昭和村旧喰丸小学校など県内でロケ撮影して制作され、劇中には、福島県立博物館のバックヤードのシーンも登場する。



「親子で探検！博物館のウラ側」

ウ. 親子で探検！はくぶつかんのウラ側

- (ア) 日 時 平成30年 8月14日(火)
1回目 11時～12時
2回目 14時～15時
- (イ) 会 場 福島県立博物館 バックヤード
- (ウ) 参加者数 28人
- (エ) 内 容

普段は入ることができない博物館の裏側を親子でふれあいながら文化財を守り伝える博物館のウラ側を体感して頂くツアーを実施し、参加した家族に夏休みの一日を楽しく過ごして頂いた。

エ. 会津磐梯山・市民盆踊り

- (ア) 日 時 平成30年 8月15日(水)
19時～20時30分
※博物館閉館後
- (イ) 会 場 福島県立博物館 前庭
- (ウ) 参加者数 70人
- (エ) 共 催 会津磐梯山盆踊り保存会

(オ) 内 容

博物館前庭に櫓を組み、会津磐梯山の歌に合わせて自由参加での盆踊り大会を開催した。踊りを通して、先の戦争やこの度の大地震でやむなく生命を奪われてしまわれた方々に、あらためて追悼と感謝の祈りを捧げた。



会津磐梯山・市民盆踊り

オ. 夏休みナイトミュージアム

- (ア) 日 時 平成30年 8月18日(土)
17時30分～18時30分
※博物館閉館後
- (イ) 会 場 福島県立博物館 常設展示室
企画展示室
- (ウ) 参加者数 80人
- (エ) 講 師 学芸員
- (オ) 内 容

いつもと違う雰囲気真っ暗闇な展示室の中を、懐中電灯の光を頼りに見学する「ナイトミュージアム」は、例年人気の高いイベントである。平成30年度は企画展「美しき刃たちー東京富士美術館と福島の名刀ー」の中も探検した。



ナイトミュージアム

カ. 「Coderanni」コンサート

- (ア) 日 時 平成30年 9月17日(月・祝)
13時30分～15時
- (イ) 会 場 福島県立博物館 講堂
- (ウ) 参加者数 241人
- (エ) 出 演 会津室内楽団「アンサンブル・Coderanni」の皆様

(オ) 内 容

会津地域の室内楽普及を目的として、平成23年7月に音楽教育学研究者の峯岸創によって設立された楽団による演奏。第1部「戊辰150年に寄せて」第2部「音楽教育の黎明」第3部「秋の詩」と3部構成で行われた。特に、秋の企画展「戊辰戦争150年」開幕に合わせた第1部の吟詠「白虎隊」は大変迫力があり、音楽から歴史を感じさせてくれるものであった。



Coderanniコンサート1



Coderanniコンサート2

キ. クリスマスコンサート

- (ア) 日 時 平成30年12月16日(日)
13時30分～15時
- (イ) 会 場 福島県立博物館
エントランスホール
- (ウ) 参加者数 250人

(エ) 出演 「SLIDE I'z (スライド あいづ)」
江見 悠希氏、石井 陸登氏
塚原 千翔氏、川上 康平氏

(オ) 内容

毎年恒例となっている12月のミュージアムイベントクリスマスコンサート。多くのお客様に気軽に来館していただき、音楽を楽しんでいただくとともに、博物館に親しんでいただく機会とするために実施しており、毎回好評を博している。今回は会津の若者で結成された「SLIDE I'z (スライド あいづ)」による、トロンボーンアンサンブルを披露し、ジングルベルやきよしこの夜などのクリスマスソングを含めて9曲演奏していただいた。演奏後は、トロンボーンやパーカッションなどの楽器演奏体験ができる時間を設け、参加者に楽しんでいただいた。

ク. 会津の彼岸獅子

(ア) 日時 平成31年3月10日(日)
13時30分～14時30分

(イ) 会場 福島県立博物館
エントランスホール

(ウ) 参加者数 173人

(エ) 出演 本滝沢獅子舞保存会の皆様

(オ) 内容

三匹の獅子が踊る三匹獅子舞は福島県内に広く分布しているが、会津若松市周辺では春の彼岸に踊られる「彼岸獅子」として親しまれている。通常は無病息災、五穀豊穡を祈って地区ごとに舞われるが、地区外の方々にも「会津の文化」として親しんでいただくために、彼岸に先駆けて館内での実演を開催した。また、当該団体は後継者育成のために中学生を踊り手として活動しており、当イベントは次世代への伝統芸能の継承を助ける場としても機能し始めている。



会津の彼岸獅子

(3) 学校・文化施設との連携

県内外の学校団体や文化施設主催団体が訪れた際の学習効果をさらに高めるため学習支援プログラムを開発し本格始動した。学習支援班が電話の受付を担当し、各団体からの相談対応をしながら、目的やニーズに応じた効果的な学習プログラムをプロデュースした。

ア. 展示室における学習プログラム

常設展示室における児童・生徒の学習活動が有意義なものとなるように、事前相談を充実させた。さらに発達段階や見学の目的などに応じた内容で、講堂や展示室等で具体的なレクチャーをおこなった。特に今年度は未就学児対応のプログラムも開発した。学習プログラムは、実施学校団体には大変好評であった。

(ア) 博物館見学のしおり (小・中学生用)

常設展示室の展示資料を見る際のポイントがわかりやすくなるように、設問形式で解答を書き込みながら学べるように構成した。児童・生徒は、自分のペースで見学をし、自由に考察を深めることができる。しおりは博物館ホームページからダウンロードできる。また、すべての漢字にルビがふられているので、留学生も活用している。

(初級編)

福島県立博物館 見学のしおり

福島の12の秘宝を探せ! — 初級編 —

【見学の約束】

- ◆展示室は教室と同じです。勉強する場所ですから騒いだり、走ったりしません。
- ◆資料を長く保存するために、展示室にさわることができません。
- ◆展示室では資料を汚さないようにするため飲食はできません。
- ◆展示室で写真撮影をする時にはフラッシュをオフにします。
- ◆筆記用具は鉛筆を使います。マジック・サインペン・ボールペンは使えません。

福島県は、関東地方から東北地方への入口、また東北地方から関東地方への出口として、海路や船を使った交通の中心地のひとつでした。このような福島県の特徴は縄文時代から見ることができ、福島県はいつの時代も東北と関東地方の両方の橋渡しをする地域として、さまざまな文化や情報が行き来する重要な場所であったことがわかります。

県立博物館には、福島県内の貴重な資料がたくさん展示されています。その中でも福島県のおよそよく分かる12点を展示室で探してみよう。

(来館日) 平成 年 月 日 ()

(学校名)

(氏名)

1

博物館見学のしおり (入門編)

(イ) 博物館体験シート

小学校高学年から中学生向けに作成し、常設展示を構成する6つの大テーマに沿って、展示室内の主要な資料を12の題材に分けて取り上げている。当館ホームページから学習の目的に応じて選択しダウンロードすることによって、有効に利用できる。また、小学校低学年向けには「展示室探検ビンゴ」で展示室を楽しみながら見学できる。

イ. 学習プログラム

(レクチャー・体験学習プログラム)

学校団体のニーズに応じたきめ細かい事前相談をはじめ、日常の授業と博物館の見学を効果的に結び付けられるような活動メニューなど、これまで以上に授業に役立つ内容を用意し、対応している。また、児童・生徒が博物館の資料を用いながら体験学習をすることは、多様なものの見方や考え方を育む上で有効である。事前申込制で「原始・古代のワザに挑戦（考古分野）」「化石にふれてみよう（自然分野）」「紙すきハガキづくり（民俗分野）」「昔の道具体験（民俗分野）」「度量衡の統一と農民の暮らし（歴史分野）」の5つの体験学習プログラムを準備している。特に、「昔の道具体験」は小学校3年生の授業と連動した内容となっており、実施回数、人数とも増加し、学習効果を高めている。

○体験学習プログラム実施状況

「原始・古代のワザに挑戦（考古分野）」

6回 99名

〔

- 勾玉づくり 4回 63名
- 火おこし 2回 36名
- 石器で切ってみよう 0回 0名

〕

「化石にふれてみよう（自然分野）」

3回 92名

「紙すきハガキづくり（民俗分野）」

2回 30名

「昔の道具体験（民俗分野）」

14回 492名

「度量衡の統一と農民の暮らし（歴史分野）」

0回 0名

合計 25回 713名

(詳細については、表「平成30年度学習プログラム実施状況」に記します。なお、企業等への団体対応プログラムの実施も含まれます。)

平成30年度学習プログラム(レクチャー・体験学習プログラム)実施状況

No.	月 日	団 体 名	内 容	滞在時間(分)	参加者人数
1	4月19日	会津若松市立大戸小学校(6年)	大戸の昔をさぐってみよう(40分)	90	10
2	4月20日	会津若松市立城西小学校(6年)	会津の歴史(30分)	90	100
3	4月24日	会津美里町立新鶴小学校(6年)	会津の歴史(40分)	90	37
4	4月24日	喜多方市立上三宮小学校(5・6年)	会津の歴史(30分)	60	12
5	4月25日	猪苗代町立緑小学校(6年)	猪苗代の歴史と大塚山古墳(30分)	75	7
6	4月26日	北塩原村立第一中学校(1年)	勾玉づくり体験(60分) 北塩原村の歴史(30分)	120	16
7	4月26日	会津若松市立一箕小学校(6年)	一箕地区の秘宝を探せ(45分)	120	112
8	4月26日	猪苗代町立翁島小学校(6年)	火おこし体験、保科正之、天鏡閣、見祢の大石について(35分)	120	7
9	4月26日	会津若松市立日新小学校(6年)	会津の歴史(30分)	60	65
10	4月27日	会津美里町立宮川小学校(2年)	部門展示室「フタバズキリュウの秘密」(25分)×3回	60	85
11	4月27日	猪苗代町立千里小学校(6年)	猪苗代の歴史と大塚山古墳(35分)	70	26
12	5月2日	喜多方市立山都小学校(6年)	企画展「匠のふるさと会津」解説(30分)	120	18
13	5月2日	会津若松市立湊小学校(6年)	常設展「縄文・弥生時代の人々の暮らし」(30分)	130	11
14	5月2日	福島市立蓬萊中学校(1年)	福島市の歴史(30分)	120	99
15	5月8日	会津坂下町立坂下南小学校(6年)	会津坂下町の歴史(30分)	70	79
16	5月9日	伊達市立栗野小学校(6年)	火おこし体験(50分)	90	29

平成30年度学習プログラム(レクチャー・体験学習プログラム)実施状況

No.	月 日	団 体 名	内 容	滞在時間(分)	参加者人数
17	5月9日	会津若松市立荒館小学校(1・2年)	部門展示室「フタバズキリュウの秘密」・企画展「匠のふるさと会津」解説(40分)	60	97
18	5月10日	西会津町立西会津小学校(3年)	部門展示室「フタバズキリュウの秘密」・常設展「動物を探そう」(40分)	60	42
19	5月10日	家庭教育放送セミナー	企画展「匠のふるさと会津」解説(45分)	45	10
20	5月11日	大熊町立大熊小学校(6年)	大熊町の歴史(30分)	90	9
21	5月18日	会津若松市立門田小学校(2年)	部門展示室「フタバズキリュウの秘密」・企画展「匠のふるさと会津」解説・常設展「動物を探そう」(120分)	135	65
22	5月18日	会津若松市立第二こども園(年長)	部門展示室「フタバズキリュウの秘密」・昔の遊び(60分)	60	64
23	5月20日	昭和村公民館	企画展「匠のふるさと会津」解説(45分)	120	5
24	5月24日	会津若松市立行仁小学校(2年)	部門展示室「フタバズキリュウの秘密」・常設展「動物を探そう」(40分)	90	51
25	5月25日	会津若松市立城南小学校(2年)	昔の洗濯体験・部門展示室「フタバズキリュウの秘密」(100分)	120	74
26	5月25日	会津美里町立本郷小学校(2年)	部門展示室「フタバズキリュウの秘密」(25分)×2回	60	36
27	5月29日	会津工業高等学校建築インテリア科(3年)	企画展「匠のふるさと会津」解説(60分)	90	42
28	5月30日	会津工業高等学校建築インテリア科(2年)	企画展「匠のふるさと会津」解説(60分)	90	43
29	5月30日	会津工業高等学校建築インテリア科(1年)	企画展「匠のふるさと会津」解説(60分)	90	46
30	5月31日	猪苗代町立猪苗代小学校(6年)	猪苗代の歴史(40分)	90	53
31	5月31日	会津若松市立東山小学校(1年)	部門展示室「フタバズキリュウの秘密」・常設展「動物を探そう」(30分)	60	38
32	5月31日	磐梯町立磐梯第二小学校(1・2年)	部門展示室「フタバズキリュウの秘密」・常設展「動物を探そう」(40分)	110	21
33	6月1日	下郷町立江川小学校(1・2・3年)	部門展示室「フタバズキリュウの秘密」・大昔の人の暮らし(45分)	60	37
34	6月5日	会津美里町立高田小学校(6年)	会津の歴史(40分)	90	51
35	6月6日	会津若松市立第一中学校美術部	会津漆器の工程解説・企画展・常設展資料のスケッチ(120分)	120	30
36	6月7日	喜多方市 天心ケアハイツ(在宅介護支援センター)	企画展「匠のふるさと会津」解説(40分)	60	30
37	6月7日	県立博物館屋根改修工事工法選定委員会委員	企画展「匠のふるさと会津」解説(40分)	40	4
38	6月9日	会津若松市立城北小学校2年PTA学年行事	常設展オリジナル問題作成 親子でといてみよう(40分)×2回	120	100
39	6月9日	福島大学生	企画展「匠のふるさと会津」解説(40分)・バックヤード案内(20分)	60	12
40	6月12日	域内公立小中学校事務担当者会議	学校利用の紹介(30分)	150	132
41	6月13日	郡山市立田母神小学校(6年)	企画展「匠のふるさと会津」解説(20分)	90	13
42	6月14日	いわき市立夏井小学校(5年)	福島の古墳時代を知る(40分)、企画展「匠のふるさと会津」解説(15分)	90	25
43	6月15日	郡山市立行徳小学校(6年)	福島のむかし～大塚山古墳・安積疎水開拓事業について(30分)	60	52
44	6月16日	長岡市文書資料室員	企画展「匠のふるさと会津」解説(40分)	40	2
45	6月16日	昭和村公民館	企画展講演会参加(90分)、企画展「匠のふるさと会津」解説(60分)	240	9
46	6月17日	会津共同高等職業訓練校	企画展「匠のふるさと会津」解説(50分)	60	10
47	6月20日	福島市立鎌田小学校(6年)	福島市の縄文～古墳時代(30分)、常設展「磐梯山噴火・縄文時代・第2次世界大戦」について(15分)×4回	75	100

平成30年度学習プログラム(レクチャー・体験学習プログラム)実施状況

No.	月 日	団 体 名	内 容	滞在時間(分)	参加者人数
48	6月20日	郡山市立行健第二小学校(6年)	化石にふれてみよう(30分)×3回	100	92
49	6月21日	会津柳津学園中学校(1年)	自然部門展示室解説(30分)	30	5
50	6月21日	田村市立船引小学校(6年)	船引町の歴史(30分)	60	105
51	6月21日	田村市立常葉小学校(6年)	常設展通し解説(30分)	60	24
52	6月21日	田村市立瀬川小学校(6年)	船引町の歴史(30分)	60	14
53	6月22日	喜多方市立駒形公民館	企画展「匠のふるさと会津」解説(60分)	120	21
54	6月22日	石川町文化協会	企画展「匠のふるさと会津」解説(40分)	60	40
55	6月24日	一箕公民館(小学生)	会津の古墳について(30分)、常設展通し解説(30分)、勾玉作り(80分)	180	19
56	6月26日	会津若松市立城北小学校(6年)	会津の歴史 講話(30分)	78	60
57	6月27日	会津若松市立一箕小学校	大塚山古墳探検～講話(40分)、常設展見学ワンポイント解説(15分)	60	38
58	6月27日	会津美里町立本郷中学校	常設展通し解説(30分)	60	3
59	6月29日	天栄村立湯本小学校	常設展「天栄村の資料解説」(30分)	40	12
60	7月4日	桑折町立醸芳小学校	常設展通し解説(30分)×3回	90	58
61	7月13日	会津ザベリオ学園こども園	常設展「動物を探そう」(25分)、部門展示室「フタバスズキリュウの秘密」(25分)・体験学習室「昔のあそび」	90	32
62	7月21日	会津坂下町立坂下東小学校5年PTA学年行事	常設展通し解説(30分)×2回、親子で協力常設展を見学しながら問題を解いていおう(25分)×2回	60	80
63	7月26日	耶麻両沼中教研社会科部会	県立博物館を利用した新しい社会のあり方 説明(60分)、総合展示室の資料の解説と見学(30分)、企画展「美しき刃たち」見学	90	15
64	8月2日	福島市 吾妻学習センター	常設展通し解説(30分)	60	11
65	8月8日	伊達市小学校夏休み史跡体験学習	3～6年講話「会津と戊辰戦争」(30分) 1・2年生常設展「動物を探そう」・部門展示室「フタバスズキリュウの秘密」(30分)	75	110
66	8月10日	二本松市 あだちチャレンジ教室体験事業	常設展通し解説(30分)	50	34
67	8月21日	西七日町児童館	勾玉の解説と勾玉づくり(90分)、常設展見学・体験学習室「昔のあそび」体験	150	12
68	8月24日	白河高・旭高・白河実業高校	常設展通し解説(30分)	60	11
69	9月5日	郡山市 久留米公民館	企画展「戊辰戦争150年」解説(60分)	60	30
70	9月6日	梁川町郷土史研究会	企画展「戊辰戦争150年」解説(40分)	60	20
71	9月7日	須賀川市立柏城小学校(4年)	常設展通し解説(30分)×2回	70	79
72	9月7日	喜多方市 のびやか保育園	常設展「動物を探そう」(20分)・部門展示室「フタバスズキリュウの秘密」(20分)	90	22
73	9月13日	大阪市関西福島県人会	企画展「戊辰戦争150年」解説(30分)	65	11
74	9月15日	喜多方市高郷公民館(小学生)	常設展ハイライトツアー参加(30分)	60	19
75	9月20日	大玉村立大山小学校(6年)	企画展「戊辰戦争150年」解説(30分)	60	45
76	9月21日	いわき市立草野小学校(6年)	講話「いわきの古墳時代」(30分)	30	60
77	9月28日	いわき市立中央台北小学校(6年)	常設展通し解説(30分)×2回	60	64
78	9月28日	須賀川市 東公民館	紙すき体験(45分)×2回	120	30
79	9月28日	須賀川市立大森小学校(6年)	常設展解説(40分)	60	16
80	9月28日	郡山支援学校	企画展「戊辰戦争150年」解説、常設展自由見学、体験学習室「昔のおもちゃ」「パズル」体験 *生徒の実態に応じて学芸員が支援し、見学や体験をしていただいた。	60	18
81	10月2日	常磐交通観光	企画展「戊辰戦争150年」解説(30分)×2回	60	40
82	10月2日	宮城県東北電力 本店電友会	企画展「戊辰戦争150年」解説(30分)×2回	60	65

平成30年度学習プログラム(レクチャー・体験学習プログラム)実施状況

No.	月 日	団 体 名	内 容	滞在時間(分)	参加者人数
83	10月4日	会津若松市 どんぐり山子ども園	企画展にて「白虎隊について」解説(20分)	25	90
84	10月6日	コープあいづ	企画展「戊辰戦争150年」解説(60分)	60	20
85	10月10日	会津坂下町 中央公民館	企画展「戊辰戦争150年」解説(60分)	60	29
86	10月10日	清水元気会(高齢者)	企画展「戊辰戦争150年」解説(60分)	60	20
87	10月11日	会津報徳保育園(年長)	部門展示室「フタバズキリュウの秘密」(20分)・常設展「動物を探そう」(20分)	90	24
88	10月11日	河東第三幼稚園(年長)	部門展示室「フタバズキリュウの秘密」(20分)・常設展「動物を探そう」(20分)	60	23
89	10月25日	湯川村立笈川小学校(6年)	体験学習「化石にさわろう」(40分)、常設展通し解説(50分)	90	16
90	10月25日	泉崎村立泉崎第二小学校(6年)	常設展通し解説(30分)	90	28
91	11月6日	会津若松市立永和小学校(6年)	講話「会津の偉人について」(20分)、常設展通し解説(30分)	90	18
92	11月8日	福島市新陵学習センター(高齢者)	常設展解説(45分)	90	15
93	11月8日	福島市立北沢又小学校(6年)	常設展通し解説(30分)×2回	60	74
94	11月17日	茨城キリスト教大学(1年)	バックヤード案内(45分)	120	27
95	11月20日	二本松市立二本松南小学校(6年)	常設展通し解説(30分)×2回、企画展「日本のわざと美」解説(55分)	120	52
96	11月27日	喜多方市立第三小学校(6年)	体験学習「勾玉づくり」(60分)	120	16
97	11月30日	全国高等学校自動車科担当者会議(教員)	企画展「日本のわざと美」解説(35分)	90	100
98	12月6日	経済同友会	常設展「近現代」解説(20分)	80	15
99	12月7日	柳津町立柳津小学校(6年)	部門展示室「化石と鉱物」解説(15分)、常設展通し解説(30分)	90	30
100	12月20日	会津若松市立城南小学校(3年)	体験学習「昔の道具」(45分)×2回、部門展示室「囲炉裏まわりの道具たち」解説・体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏のある生活」解説(45分)×2回	90	65
101	12月27日	県立川口高等学校(1年)	常設展通し解説(30分)、バックヤード案内(60分)	120	5
102	1月16日	会津若松市立湊小学校(3年)	体験学習「昔の道具」(45分)、部門展示室「囲炉裏まわりの道具たち」解説・体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏のある生活」解説(45分)	110	11
103	1月18日	会津若松市立翁島小学校(3年)	体験学習「昔の道具」(40分)、部門展示室「囲炉裏まわりの道具たち」解説・体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏のある生活」解説(30分)	70	12
104	1月19日	日立市立大久保中学校(1年)	防災教室(30分)	60	172
105	1月22日	福島市 桃林会OB会(高齢者)	常設展通し解説(30分)	50	30
106	1月23日	会津若松市立東山小学校(3年)	体験学習「昔の道具」(45分)×2回、部門展示室「囲炉裏まわりの道具たち」解説・体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏のある生活」解説(45分)×2回	90	55
107	1月30日	会津若松市立大戸小学校	体験学習「昔の道具」(45分)、部門展示室「囲炉裏まわりの道具たち」解説・体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏のある生活」解説(45分)	90	6
108	1月30日	大熊町立熊町小学校(3年)	体験学習「昔の道具」(45分)、部門展示室「囲炉裏まわりの道具たち」解説・体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏のある生活」解説(45分)	90	4

平成30年度学習プログラム(レクチャー・体験学習プログラム)実施状況

No.	月 日	団 体 名	内 容	滞在時間(分)	参加者人数
109	1月31日	会津若松市立川南小学校(3年)	体験学習「昔の道具」(45分)、部門展示室「囲炉裏まわりの道具たち」解説・体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏のある生活」解説・「昔のあそび」体験(75分)	120	19
110	2月5日	会津若松市立鶴城小学校(3年)	体験学習「昔の道具」(45分)×2回、部門展示室「囲炉裏まわりの道具たち」解説・体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏のある生活」解説(45分)×2回	90	51
111	2月15日	会津ザベリオ学園小学校(3年)	体験学習「昔の道具」(60分)、部門展示室「囲炉裏まわりの道具たち」解説・体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏のある生活」解説(45分)	105	23
112	2月28日	会津若松市立城北小学校(3年)	体験学習「昔の道具」(60分)×2回、部門展示室「囲炉裏まわりの道具たち」解説・体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏のある生活」解説(60分)×2回	120	49
113	2月9日	日立市立日高中学校(1年)	常設展通し解説(30分)×3回	50	125
114	2月13日	会津若松市立河東学園小学校(3年1・2組)	時間をずらし来館 体験学習「昔の道具」(45分)×2回、部門展示室「囲炉裏まわりの道具たち」解説・体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏のある生活」解説(45分)×2回	140	48
115	2月14日	会津若松市立河東学園小学校(3年3組)	体験学習「昔の道具」(45分)、部門展示室「囲炉裏まわりの道具たち」解説・体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏のある生活」解説(45分)	90	25
116	2月22日	会津若松市立謹教小学校(3年)	体験学習「昔の道具」(60分)×2回、部門展示室「囲炉裏まわりの道具たち」解説・体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏のある生活」解説(60分)×2回	120	54
117	2月27日	会津若松市立行仁小学校(3年)	体験学習「昔の道具」(60分)×2回、部門展示室「囲炉裏まわりの道具たち」解説・体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏のある生活」解説(60分)×2回	120	45
118	3月28日	埼玉県三郷市教育委員会主催 講習会(小学校～高校)	講座「避難所でできること」(50分)、常設展通し解説(30分)×2回、特集展解説(30分)×2回	120	53

博物館探検シート1

縄文時代 縄文人が食べていたもの

●前谷展示 原池 A-5 縄文のムラ



粘土を焼くと硬くなる性質を利用して、人跡は「やきもの」を昇降しました。
 弥生時代から縄文時代ごろまでは日本各地でやきもの（土器）が作られるようになりました。このころの土器には独自の文様が付けられることが多いことから縄文土器と呼ばれ、このような土器を使う時代を縄文時代と呼びます。

土器を手に入れた縄文時代の人々は、新たに「煮る」という調理ができるようになり、それまでよりも食べられるものの種類が増えました。米づくりをしていなかった縄文時代の人々ですが、野山の恵などで採れる食べ物を上手に利用して、暮らしを豊かにしていました。

Q1) 縄文時代には、どのようなものを食べていたのでしょうか？
 展示されているものの中から探してみよう。

Q2) 縄文時代の人々は、動物や魚を煮るために、どのような道具を使っていましたか？
 展示されているものから探してみよう。



会津若松市立第一中学校美術部とのコラボ2

博物館探検シート（縄文）



未就学児対応事業常設展「動物を探せ！」



学習プログラム「大塚山古墳について」



未就学児対応事業部門展示室
 「フタバスズキリュウの秘密」



会津若松市立第一中学校美術部とのコラボ1



体験学習プログラム「化石にふれてみよう」



体験学習プログラム「昔の道具体験 ポイント展
「囲炉裏のまわりの道具たち」解説」



体験学習プログラム「紙すき体験」



体験学習プログラム
「昔の道具体験～羽釜について解説」

ウ. 指導者向け研修

学校教育・生涯教育関係者を対象に博物館利用指導者研修会を実施している。団体体験学習プログラムを実際に体験してもらうことにより、当館の学習支援活動への理解を深め、学校や公民館の諸活動における活用の推進を図っている。今年度は団体活用プログラムの概要を活用実績校からみたおすすめプランを紹介した。平成30年8月3日(金)に4名の参加者による実施となった。

平成30年度

博物館を活用した学校教育プログラム研修会

時間	内容	場所
10:00～10:10	開講式・オリエンテーション	視聴覚室
10:10～10:30	研修1「当館の学校団体活用プログラムの概要」	視聴覚室
10:30～11:30	研修2「教科書分析/発掘調査成果からの補足」	視聴覚室
11:30～12:00	研修3「展示資料の活用ポイント」	展示室
－ 昼 食 －		
13:00～13:45	研修4「児童対象プログラム体験」 【見学導入授業：福島県の弥生時代を調べてみよう】	視聴覚室
13:55～15:25	研修5「体験学習メニューの実際：石包丁づくり」	実習室
15:25～15:50	博物館活用に関する意見交換	実習室
15:50～16:00	閉講式・修了証授与	実習室

定員30名



博物館を利用した学校教育プログラム研修会

エ. 学習用具・教材等の貸出

学校での授業づくりや生涯教育関連施設における活動等を支援するため、考古・歴史・民俗・自然の各分野で学習用具・教材等の貸出を行っている。

○学習用具・教材等の貸出実績はなかった。

オ. ゲストティーチャー

当館学芸員がもつ専門知識や経験を館外で有効に活用してもらうため、学校等教育機関の要請に応じて現地に赴き、体験学習や講話を中心とした授業を担当している。

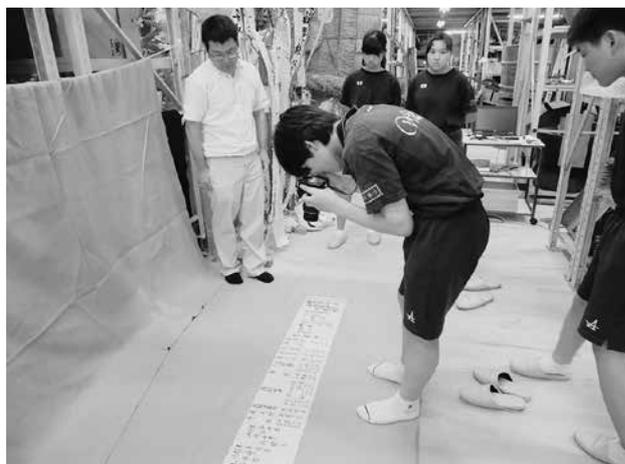
ゲストティーチャー実施一覧

No.	月 日	講 師	分野	内 容	実施先	科目	受講者数
1	4月19日	猪瀬 弘瑛 杉崎 佐保恵 筑波 匡介 高橋 満 高橋 充	合同	震災遺産・化石等観覧支援ソフトの開発演習	会津大学	会津大学ソフトウェアスタジオ	15
2	5月10日	猪瀬 弘瑛 杉崎 佐保恵 筑波 匡介 高橋 満 高橋 充	合同	震災遺産・化石等観覧支援ソフトの開発演習	会津大学	会津大学ソフトウェアスタジオ	15
3	5月24日	猪瀬 弘瑛 高橋 充	合同	震災遺産・化石等観覧支援ソフトの開発演習	会津大学	会津大学ソフトウェアスタジオ	15
4	5月31日	高橋 満 筑波 匡介 高橋 充	合同	震災遺産・化石等観覧支援ソフトの開発演習	会津大学	会津大学ソフトウェアスタジオ	15
5	6月14日	猪瀬 弘瑛 高橋 充	合同	震災遺産・化石等観覧支援ソフトの開発演習	会津大学	会津大学ソフトウェアスタジオ	15
6	6月28日	小林めぐみ	美術	会津の漆器・本郷焼	会津学鳳中学校	総合	28
7	6月28日	猪瀬 弘瑛 筑波 匡介 高橋 充	合同	震災遺産・化石等観覧支援ソフトの開発演習	会津大学	会津大学ソフトウェアスタジオ	15
8	7月19日	猪瀬 弘瑛 高橋 充	合同	震災遺産・化石等観覧支援ソフトの開発演習	会津大学	会津大学ソフトウェアスタジオ	15
9	9月11日	内山 大介 大里 正樹	民俗	博物館実習	福島大学	博物館資料論	11
10	9月26日	高橋 充	歴史	ガイダンス	福島県立医科大学	芸術と文化	16
11	10月3日	高橋 満	震災	モノからコトへ～震災遺産を考える	福島県立医科大学	芸術と文化	16
12	10月6日	田中 伸一 筑波 匡介	震災	被災地へのフィールドワーク	会津高等学校	総合	40
13	10月10日	内山 大介	民俗	医療と民俗Ⅰ妊娠と出産	福島県立医科大学	芸術と文化	15
14	10月14日	大里 正樹 田中 伸一 筑波 匡介	震災	若商祭「あの日を忘れない2018」	若松商業高等学校	行事	66
15	10月24日	内山 大介	民俗	医療と民俗Ⅱ死と葬送	福島県立医科大学	芸術と文化	15
16	10月31日	猪瀬 弘瑛	自然	化石の宝庫・福島県Ⅰ	福島県立医科大学	芸術と文化	14
17	11月1日	内山 大介	民俗	民俗資料と博物館	福島大学	博物館資料論	110
18	11月14日	猪瀬 弘瑛	自然	化石の宝庫・福島県Ⅱ	福島県立医科大学	芸術と文化	13
19	11月29日	相田 優	自然	博物館資料としての自然史資料	福島大学	博物館資料論	120
20	11月21日	塚本麻衣子	美術	福島の仏教美術－祈りの形－	福島県立医科大学	芸術と文化	13
21	11月28日	高橋 満	考古	縄文と弥生	福島県立医科大学	芸術と文化	13
22	12月5日	高橋 充	歴史	伊達政宗からの手紙	福島県立医科大学	芸術と文化	10
受講者数合計							605

カ. 職場体験

児童・生徒の進路意識の向上や職業観・勤労観の育成に寄与すべく、職場体験を受け入れている。平成30年度は3校からの要請があり、当館における業務を幅広く体験してもらった。
○職場体験受け入れ実績（児童・生徒のみ）

- 会津若松市立第四中学校
（2年生：4名）2日間
- 会津若松市立第一中学校
（2年生：2名）2日間
- 三島町立三島中学校
（2年生：1名）2日間



職場体験「民俗分野 資料整理の体験」



職場体験「解説員の解説体験」

キ. 博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習を実施している。平成30年度は県内出身および県内大学に在学する学生11名を受け入れた。演習「震災遺産を考えるー東京セッションー」では、グループでテーマを決め、東京で震災や震災遺産についての説明やプレゼンテーションを実施することを想定して、各グループで発表したのち積極的な意見交換を行うことができた。

実習期間 9月4日(火)～9月9日(日)

実習生所属大学一覧

No.	大 学 名	人数
1	岩手大学	1
2	駒澤大学	1
3	千葉科学大学	2
4	東北芸術工科大学	1
5	新潟大学	1
6	宮城学院女子大学	1
7	八洲学園大学	1
8	山形県立米沢女子短期大学	3
合 計		11

福島県立博物館 平成30年度博物館実習日程・内容

月日	時 間	内 容	担 当	場 所
9月 4日 (火)	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班	第2会議室
	9:00～ 9:10	実習生紹介	学習支援班	事務室
	9:10～ 9:50	オリエンテーション	学習支援班	第2会議室
	10:00～12:00	事業の概要・館内施設見学	学芸課長・震災遺産保全チーム・学習支援班	視聴覚室・管理棟
	— 昼 食 —			
	13:00～13:30	博物館の資料と調査研究	資料整理・保存班	第2会議室
	13:30～14:00	博物館の広報普及活動	広報班	第2会議室
	14:00～14:30	博物館の展示	展示・企画班	第2会議室
14:40～16:00	常設展・企画展の自由見学	学習支援班	展示室	
16:10～17:00	実習日誌の作成・提出	学習支援班	第2会議室	
5日 (水)	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班	第2会議室
	9:10～12:00	歴史資料の取り扱い	歴史分野	第2会議室
	— 昼 食 —			
	13:00～15:50	民俗資料の取り扱い	民俗分野	第1収蔵庫ほか
	16:00～16:30	図書資料の整理・登録	資料整理・保存班	図書室
16:30～17:00	実習日誌の作成提出	学習支援班	第2会議室	
6日 (木)	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班	第2会議室
	9:10～12:00	美術資料の取り扱い	美術分野	第2会議室
	— 昼 食 —			
	13:00～15:50	考古資料の取り扱い	考古分野	実習室・第2収蔵庫
	16:00～16:30	図書資料の整理・登録	資料整理・保存班	図書室
16:30～17:00	実習日誌の作成提出	学習支援班	第2会議室	
7日 (金)	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班	第2会議室
	9:10～12:00	自然資料の取り扱い	自然分野	実習室
	— 昼 食 —			
	13:00～15:00	資料の保存	保存科学分野・資料班	第5収蔵庫ほか
	15:10～16:30	震災遺産について	震災遺産保全チーム	図書室
16:30～17:00	実習日誌の作成提出	学習支援班	第2会議室	
8日 (土)	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班	第2会議室
	9:10～12:00	演習①震災遺産を考える企画立案	学習支援班	実習室
	— 昼 食 —			
	13:00～16:20	演習②震災遺産を考える企画立案	学習支援班	実習室
16:30～17:00	実習日誌の作成・提出	学習支援班	第2会議室	
9日 (日)	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班	第2会議室
	9:10～12:00	演習③震災遺産を考える発表準備	学習支援班	実習室
	— 昼 食 —			
	13:00～15:50	演習④震災遺産を考える発表・意見交換	学習支援班	実習室
	16:00～16:30	実習を終えて(感想・意見交換)	学習支援班	第2会議室
16:30～17:00	実習日誌の作成・提出	学習支援班	第2会議室	

(4) 生涯学習・研究支援

ア. 相談コーナー

エントランスホール内に配置された無料空間。展示図録・報告書・紀要など博物館の刊行物、および博物館資料に関連した図書を配架。図書は図鑑・事典類、調べ学習への対応、見て楽し

む本の3項目を重視して選定し、入館者が自由に閲覧できる。現在の配架図書数は2,686冊である。

相談コーナーは、入館者の展示や資料に関する質問や相談の求めに応じて、入館者と学芸員が面談する場としても利用される。

イ. 資料の特別観覧

個人や研究機関による研究活動を支援するため、博物館資料の閲覧や撮影を許可し、実施している。

分野別特別観覧件数：

考古：11件 884点 歴史：15件 46点

美術：2件 5点 民俗：8件 96点

自然：1件 2点 計 37件 1,033点

ウ. 講師派遣

大学や公民館、研究団体などからの依頼に応じて、学芸員を講演会や講座に講師として派遣している。

平成30年度の派遣回数は34回で、参加者は2,039人であった。

講師派遣一覧

No.	月 日	講 師	分野	演 題 ・ 内 容 等	主 催	参加者
1	5月30日	塚本麻衣子	美術	仏像の観方と会津の仏像	喜多方市中央公民館	73
2	6月5日	高橋 充	歴史	会津三十三観音と御詠歌	西会津町公民館	20
3	6月19日	荒木 隆	学習支援	博物館を活用した社会科授業の方法	福島県教育センター	12
4	6月22日	高橋 充	歴史	戊辰戦争のいろは	会津美里町公民館	60
5	7月16日	荒木 隆	考古	福島の古代寺院～西原廃寺を中心に～	じょうもびあ宮畑	62
6	7月18日	田中 伸一	歴史	社会福祉の母 瓜生岩子	福島愛育園	40
7	9月6日	荒木 隆	学習支援	子どもたちの学びを支える博物館活動	東北歴史博物館	108
8	9月18日	荒木 隆	学習支援	博物館を活用した小学校社会科の進め方	福島県教育センター	25
9	9月19日	阿部 綾子	歴史	戊辰戦争と語り	会津若松観光ビューロー	40
10	9月29日	荒木 隆	考古	上人壇廃寺の秘密を探ろう	須賀川市教育委員会	46
11	10月10日	塚本麻衣子	美術	会津の仏像の魅力	会津と奈良いにしへの絆継承委員会	71
12	10月13日	田中 敏	考古	卑弥呼の時代のふくしま	福島県文化財センター白河館	50
13	10月13日	荒木 隆	考古	陸奥国における石城国の役割	いわき市生涯学習課	128
14	10月13日	塚本麻衣子	美術	会津の仏教文化をめぐる旅(南エリア編)	会津トラベルサービス	17
15	10月20日	塚本麻衣子	美術	会津の仏教文化をめぐる旅(西エリア編)	会津トラベルサービス	17
16	10月25日	荒木 隆	学習支援	博物館における読み聞かせ活動	南会津教育事務所	42
17	10月30日	佐藤 洋一	歴史	戊辰戦争150年	猪苗代町社会福祉協議会	70
18	11月10日	塚本麻衣子	美術	会津の仏教文化をめぐる旅(中央エリア編)	会津トラベルサービス	18
19	11月13日	猪瀬 弘瑛	自然	棚倉町の地理・自然	棚倉町地域創生課	40
20	11月14日	塚本麻衣子	美術	慧日寺薬師如来坐像と磐梯山	磐梯山ジオパーク協議会	50
21	11月14日	小林めぐみ	美術	支えるわざ・伝える暮らし	会津若松まちづくり株式会社	33
22	11月17日	猪瀬 弘瑛 弦巻 優太 相田 優	自然	spffサイエンス屋台村 「アンモナイトの名前を当てよう！」	福島市こむこむ館	69
23	11月20日	塚本麻衣子	美術	仏像の知られざる見どころ紹介	極上の会津プロジェクト協議会	55
24	11月25日	阿部 綾子	歴史	会津藩の戦後処理	会津若松市教育委員会	80
25	11月27日	塚本麻衣子	歴史	会津の三十三観音めぐりについて	あいづわくわく学園	20
26	12月1日	荒木 隆	考古	陸奥南部における磐城郡の果たした役割	いわき市教育文化事業団	186
27	1月22日	塚本麻衣子	美術	仏像の知られざる見どころ紹介	極上の会津プロジェクト協議会	104
28	2月17日	高橋 充	歴史	会津の観音信仰	会津若松市教育委員会	83
29	2月23日	荒木 隆	考古	北田城のルーツを探る～会津郡内の物流拠点～	湯川村教育委員会	168
30	2月23日	山口 拓	民俗	都市移住者研究の現状と課題について	国学院大学研究開発推進センター	56
31	2月26日	塚本麻衣子 高橋 充	美術・歴史	会津の仏教文化・江戸時代の観音めぐり	極上の会津プロジェクト協議会	49
32	3月13日	阿部 綾子	歴史	大須賀清光が描いた会津	会津若松まちづくり株式会社	40
33	3月16日	塚本麻衣子	美術	会津三十三観音堂めぐり	NPO法人喜多方市市民活動サポートネットワーク	12
34	3月30日	塚本麻衣子	美術	新宮熊野神社神像について	喜多方市教育委員会	95
参加者数合計						2,039

(5) 博物館友の会活動への支援

当館は、福島県立博物館友の会の活動を支援するため、共催事業などの実施、行事に対する講師の派遣、サークル活動への協力、各会員に対して博物館だよりの送付、展示観覧への便宜、資料や文献の閲覧等、研究活動の支援などを行っている。

ア. 友の会の概要

①発足 平成元年3月10日

②設立の目的

博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

③総会の開催

平成31年3月16日に開催した。平成30年度の事業・会務・会計決算等の報告と平成31年度の計画を協議し、承認された。また、各サークルの活動・会計の報告が行われた。

④平成30年度会員数

個人会員：170 家族会員：32

高校生会員：0 賛助会員：4 合計：206

イ. 平成30年度事業概要

(ア) 友の会創立30周年記念行事

平成30年11月4日(日)、講堂において、友の会創立30周年記念行事を開催した。

○記念式典

式辞：芳賀幸雄（友の会会長）

祝辞：赤坂憲雄（博物館長）、寺木誠伸氏（会津若松市教育委員会教育長）他

感謝状贈呈

○歴史講演会

講師：星亮一氏（歴史作家）

演題：真実の戊辰戦争—会津藩は朝敵にあら—

○映画上映会

上映作品：「はやぶさ/HAYABUSA」

(イ) 研修旅行

春と秋に研修旅行を実施した。春は、宮城県多賀城市にある東北歴史博物館を訪れ、特別展「東大寺と東北～復興を支えた人々の祈り」を観覧するとともに、仙台市にある瑞鳳殿を見学した。秋は、戊辰戦争150年に合わせ、「奥会津の歴史を訪ねて」というテーマで、只見町にある河井継之助記念館をはじめ、南会津地方の史跡を巡った。いずれも大変有意義な研修旅行となった。

○春の研修旅行

研修先：東北歴史博物館 瑞鳳殿

期 日：平成30年5月31日(木)

参加者：26名

○秋の研修旅行

研修先：河井継之助記念館 医王寺 成法寺 観音堂 南会津博物館など

期 日：平成30年10月19日(金)

参加者：27名

(ウ) 会報の発行

第116号・第117号・第118号と3回の会報を発行し会員に配布した。会長のご挨拶、研修旅行の報告、サークル活動の様子や「友の会創立30周年記念行事」の報告、さらに私のライフワークの紹介など会員の顔が見える紙面作りに努めた。

(エ) 博物館事業への協力

○博物館展示観覧

○友の会会員向け企画展内覧会への参加

4月27日(金)

「匠のふるさと会津」内覧会 34名参加

10月26日(金)

「日本のわざと美」内覧会 30名参加

○博物館講座への協力

博物館の各種講座へ多くの会員が参加した。



化石・鉱物探検隊第2回成果展の準備作業



友の会 創立30周年記念式典



化石・鉱物探検隊総会



友の会 創立30周年記念講演会

ウ. サークル活動

化石・鉱物探検隊、古文書愛好会の2サークルが、それぞれの目的に向かって積極的に活動している。サークルごとに主体的に計画し、自立した活動となっている。

(ア) 化石・鉱物探検隊

化石や鉱物に興味をもつ研究サークルで、自然史に関する研鑽と会員相互の親睦を深めることを目的とし、平成11年に設立された。会員数27名。野外での巡検や化石・鉱物の採集、研修会等の活動を行っており、博物館の行事にも随時協力している。

平成30年度は次の活動を行った。

- ① 4月22日 福島市飯坂町中野での化石採集 (木の葉の化石)
- ② 5月13日 郡山市熱海母成での鉱物採集 (水晶、石英)
- ③ 5月27日 郡山市逢瀬町河内高広林道での化石採集会サポート
- ④ 6月10日 南会津町蛭鉱山での鉱物採集 (ホタル石、水晶)
- ⑤ 7月10日～8月19日 化石・鉱物探検隊20周年記念第2回成果展「野山の宝 化石鉱物展」

の開催 (会場：博物館エントランスホール)

- ⑥ 8月26日 郡山市多田野鬼が城での鉱物採集 (水晶、黄鉄鉱)
 - ⑦ 9月9日 南会津町館岩八総鉱山での鉱物採集 (黄鉄鉱、黄銅鉱、紫石英、方鉛鉱)
 - ⑧ 10月13日 塙町藤田砒業での化石採集 (貝化石)
 - ⑨ 10月21日 新潟県阿賀町中ノ沢での鉱物採集 (輝沸石、メノウ、玉髓)
 - ⑩ 12月2日 学習会
平成31年
 - ⑪ 3月3日 総会 研修会
- (イ) 古文書愛好会

平成14年度に発足した古文書愛好会は随時20～25名が参加し、活動を続けてきた。メンバーは5つの班に分かれ、チームを組んで古文書の解読・考察にあたっている。テキストには当初から県指定文化財の築田家文書(福島県立博物館寄託)を使用している。築田家は江戸時代に若松城下の検断(町役人)を務めた家で、その文書は城下の様子を伝える良質な資料であり、解読を通して少しずつ会津藩の歴史についての知見を深めている。近年では平成26年度から明治元年の公用簿籍(戊辰戦争直後の若松城下の記録)をテキストとして学習を進めてきたが、約4年半かけて、戊辰戦争から150年の節目にあたる平成30年度の上半期で読み終え、下半期には、その成果を「築田家文書第二集 公用簿籍 一会津開城後の民政史料一」として発刊した(平成31年2月)。なお下半期には、新たに会津藩の江戸の産物会所にかかわる記録(「御産物取扱方御仕法書」「御国産一件 壺」)の解読に取り組み、会津藩の産物の流通について学んでいる。

平成30年度の活動人数は25名で、前年度に引き続き月1回・第2土曜日の午前中に開催し、班ごとに順番に発表を行い、毎回最後に文字・内容の検討を行った。

6. 広報公聴活動および出版事業

(1) 広報活動

ア. 広報用印刷物

博物館の広報を目的とする印刷物として次のものを発行している。

福島県立博物館 平成30年度 広報用印刷物の印刷部数と送付先

種類	サイズ	印刷数	主な送付先
ポスター	B 2	企画展「美しき刃たち—東京富士美術館と福島の名刀—」5,000枚 企画展「戊辰戦争150年」2,500枚 企画展「日本のわざと美—重要無形文化財とそれを支える人々—」2,500枚 次年度企画展「とりもどすきずな つながるみらい」2,500枚	県内小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・J A・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 博物館友の会会員(町貼り協力者) 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
リーフレット	A 4	企画展「美しき刃たち—東京富士美術館と福島の名刀—」105,000枚 企画展「戊辰戦争150年」63,000枚(内28,000枚は新聞折込み) 企画展「日本のわざと美—重要無形文化財とそれを支える人々—」58,000枚(内28,000枚は新聞折込み) 次年度企画展「とりもどすきずな つながるみらい」60,000枚(内28,000枚は新聞折込み)	県内および近県の新聞社・放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・J A・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 博物館友の会会員(町貼り協力者) 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所 その他、福島民友・福島民報への新聞折込み(会津若松市内の購読世帯)
博物館だより (博物館の広報誌)	A 4 8頁	4,000部×4回=16,000部	県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内私立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の国立・県立図書館・大学図書館 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
年間催し物案内	20.0×40.0cm 観音折り	45,000枚×1回=45,000枚	県内の放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内私立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・J A・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
月行事予定表	A 4 (館内印刷)	14,000枚×6回=84,000枚	県内および新潟県の新聞社・放送局 県内タウン情報誌 会津若松市記者クラブ 会津若松市・周辺市町村の観光・広報係 県内主要文化施設
プレス・リリース (企画展の記者発表などマスコミ向けイベント情報の提供)	A 4 (館内印刷)	随時	県内新聞社・放送局・タウン情報誌 場合により近県のマスコミに提供 県政記者クラブ 会津若松市記者クラブ

末時点の663件(ページへの「いいね!」622件)から、平成30年度末で902件(「いいね!」828件)と200件ほど増加したほか、本年度途中より開設した公式 twitter のフォロワーは平成30年度末までの約9ヶ月間で553件に達し、若い世代を中心に多くの広報効果を得ることができた。

オ. 記事・放映

新聞・テレビ・ラジオ等のマスコミによる、各種行事の取材に基づいた記事・放映は次の通りである。

(ア) 春の企画展「匠のふるさと会津一技と祈りの建築文化誌一」

- ・福島民報「会津の建築文化に迫る きょうから企画展」(4月28日記事)
- ・福島民友「会津の建築文化紹介 きょうから県立博物館」(4月28日記事)
- ・福島民報「木組技術や道具展示」(4月30日記事)
- ・福島民友「匠の技に思いをはせる 県立博物館バスツアー」(5月14日記事)
- ・福島建設工業新聞「寄稿・匠のふるさと会津一技と祈りの建築文化誌一」・「上棟式祭壇を制作」(5月16日記事)
- ・福島民友「会津の建築文化紹介 「元山」や「斧立て」解説」(5月22日記事)
- ・福島民報「寄稿・風土が育む建築文化」(5月22日記事)
- ・福島民報「奥会津 建築儀礼を紹介」(5月22日記事)
- ・福島民報「親子で木工 匠の技体験」(6月4日記事)
- ・福島民友「木のぬくもり触れる 県立博物館で工作体験」(6月4日記事)
- ・福島民友「会津の住まい文化紹介」(6月22日記事)
- ・福島民報「日曜論壇 赤坂憲雄 会津の宮大工に、敬意を」(6月24日記事)

(イ) 夏の企画展「美しき刃たち—東京富士美術館コレクションと福島の名刀—」

- ・福島民報「県立博物館で来月『刀剣展』あす前売り券発売」(6月7日記事)
- ・福島民報「『刀剣展』34振り集結 来月開幕実行委、概要を確認 福島県立博物館」(6月20日記事)
- ・福島民報「13日から県立博物館『美しき刃たち』展 土方の刀県内初公開 会津の地に「魂」帰還」(6月30日記事)
- ・福島民報「県立博物館美しき刃たち7/13~8/

19 刃文に丁字乱れの変化(太刀 銘 備前国長船住近景 建武二年五月日)」(7月7日記事)

- ・福島民報「県立博物館美しき刃たち7/13~8/19 安綱伝えの優雅な反り(太刀 銘 有綱)」(7月8日記事)
- ・福島民報「県立博物館美しき刃たち7/13~8/19 白河藩主に伝来の一振(刀 銘 伝横須賀江)」(7月10日記事)
- ・福島民報「県立博物館美しき刃たち7/13~8/19 つえに見せかけ身守る(仕込杖 河野広中所用 田野母秀顕所用)」(7月11日記事)
- ・福島民報「県立博物館美しき刃たち7/13~8/19 会津の刀工鍛えた名品(太刀 銘 陸奥大掾三善長道 延宝三年八月日)」(7月12日記事)
- ・福島民報「あぶくま抄」(7月12日コラム)
- ・福島民報「『刀剣展』きょう開幕 県立博物館、準備整う」(7月13日記事)
- ・福島民報「15日、日本刀鑑賞会 若松で企画展に合わせ」(7月13日記事)
- ・聖教新聞「東京富士美術館企画協力の刀剣展『美しき刃たち』福島県立博物館で開幕」(7月14日記事)
- ・福島民報「伝家の宝刀輝く 若松『美しき刃たち』展開幕」(7月14日記事)
- ・福島民報「若松で開幕『美しき刃』展 赤坂館長、小刀でテープカット 開幕セレモニー、重厚感 来場者を魅了」(7月14日記事)
- ・福島民報「県立博物館『美しき刃』展 21、29日よろい着用体験」(7月15日記事)
- ・福島民報「県立博物館の『美しき刃たち』展初の週末にぎわう 若松 リレートークも」(7月15日記事)
- ・福島民報「花里亜利沙さん(南相馬)に記念品 戊辰戦争の年号にちなみ1868人目 県立博物館『美しき刃たち』」(7月16日記事)
- ・福島テレビ「FTVテレレポートプラス」(7月16日放映)
- ・福島民報「県剣道連盟会津居合道部会 真剣手に迫力の演武、福島の刀匠藤安将平さん 日本刀の魅力語る」(7月17日記事)
- ・福島民報「『刀剣展』に花を添える 龍生派会津支部 県立博物館入り口に」(7月18日記事)
- ・福島民報「きょう鎧試着体験 連日、多くのファン堪能 若松」(7月21日記事)
- ・福島民報「甲冑姿で刀剣観覧 29日にも『体験会』開催」(7月22日記事)
- ・毎日新聞「会津若松県立博物館で展覧会 福

- 島の名刀 美と技 新選組・土方所用『越前康継』を県内初公開」(7月24日記事)
- ・福島民報「きょう鎧試着体験 ふくしまの刀剣講演会も」(7月29日記事)
 - ・福島民報「刀剣の歴史深掘り 講演会やよろい試着体験」(7月30日記事)
 - ・福島民報「若松の『美しき刃たち』展 涼しさ届ける花々 龍生派支部の作品入れ替え」(8月1日記事)
 - ・福島民報「混雑解消へ 臨時駐車場 あす以降 週末やお盆期間中心」(8月3日記事)
 - ・福島民報「きょう学芸員らシンポ 居合実演も」(8月4日記事)
 - ・福島民報「企画展シンポ『ふくしま刀剣自慢』刃の魅力、見どころ語る 県内学芸員ら登壇」(8月5日記事)
 - ・新潟日報「美しき刃たち」(8月6日記事)
 - ・福島民報「『若狭守二代目藤原道辰作』『古山陸奥伊藤原弘元』新たに2点展示 後期展入り」(8月8日記事)
 - ・福島民報「グッズが人気 若松の名刀展」(8月9日記事)
 - ・福島民報「土方歳三の刀好評 開幕から1ヵ月 学芸員魅力語る」(8月10日記事)
 - ・福島民報「花の作品入れ替え 龍生派会津支部が出演 若松の名刀展」(8月11日記事)
 - ・福島民報「来場1万5000人達成 若松」(8月12日記事)
 - ・福島民報「19日の閉幕迫る 化石・鉱物展と連携」(8月14日記事)
 - ・福島民報「刀剣展 刃文鑑賞に長い列」(8月15日記事)
 - ・福島民報「来場2万人達成 セレモニーで記念品贈呈」(8月16日記事)
 - ・福島民報「閉幕まであと2日 実行委員長赤坂館長に聞く」(8月17日記事)
 - ・福島民報「刀剣展きょう閉幕 来場者2万5千人達成 セレモニーで記念品贈る」(8月19日記事)
 - ・福島民報「美と輝き堪能し閉幕 刀剣展 所蔵館学芸員ら解説 若松」(8月20日記事)
 - ・福島民報「総入館者2万7281人 福島で実行委」(11月15日記事)

(ウ) 秋の企画展「戊辰戦争150年」

- ・福島民友「東北の視点で戊辰再考 県立博物館9～10月企画展」(2月16日記事)
- ・福島民友「会津藩士 最古級の弔文」(4月16日記事)
- ・福島民友「戦争回避模索した頼母 汚名再考

- 促す新資料」(4月22日記事)
- ・福島民報「幕末偉人の150人 松平容保 天皇の手紙、常にそばに」(4月29日記事)
- ・福島民友「戊辰戦争の歴史的背景語る」(6月23日記事)
- ・朝日新聞「戊辰戦争の資料一堂に きょうから長岡 会津若松・仙台の資料も」(7月14日記事)
- ・読売新聞「『朝敵』から見た戊辰戦争 新潟で150年展」(7月18日記事)
- ・新潟日報おとなプラス「戊辰戦争150年 記憶たどる」(8月6日記事)
- ・福島民報「福島、新潟、宮城 博物館共同企画展 会津藩の歩みなど紹介 来月1日から若松」(8月23日記事)
- ・河北新報「河北春秋」にて展覧会開幕紹介(8月27日記事)
- ・河北新報オンラインニュース「〈戊辰戦争150年〉東北の視点で経緯再考 福島県立博物館できょうから企画展」(9月1日配信)
- ・福島民報「福島、新潟、宮城 博物館共同企画展開幕 東北や越後視点 戊辰物語る史料」(9月2日記事)
- ・福島民友「県立博物館 150年企画展開幕 戊辰戦争 東北の視点」(9月2日記事)
- ・『環境会議』2018年秋号「戊辰戦争150年 恩讐を超えて、未来へ 白河市・二本松市・福島県立博物館」(9月5日発行)
- ・福島テレビ サタふく「ふくしま調査隊『戊辰戦争150年』」(9月8日放送)
- ・『Monmo』No.76(2018錦秋号)カルチャー「会津若松市・戊辰戦争150年」(9月10日発行)
- ・『週刊SPA!』9/18・25合併号「明治150年 [敗者から見た] 戊辰戦争」(9月11日発売)
- ・河北新報オンラインニュース「〈戊辰戦争150年〉会津藩の思いに心寄せ 福島県立博物館、史料200点展示」(9月13日配信)
- ・福島民報「論説：戊辰150年 会津は見どころ満載」(9月15日記事)
- ・福島民報「『会津十楽・秋の陣』始まる」(9月16日記事)
- ・福島民友「県立博物館で講演 新政府軍民の心つかむ戦略」(9月17日記事)
- ・福島民報「戊辰企画展記念し講演会 戦いの内幕紹介」(9月18日記事)
- ・ふくしまFM「キビタンスマイル：戊辰戦争150年の秋、会津で歴史の旅をはじめよう！」(9月19日放送)
- ・福島民報「若松『会津十楽』22～24も開催地酒や文化体験楽しむ」(9月20日記事)

- ・福島民友「社説：戊辰150年 歴史見つめ未来つくる糧に」（9月22日記事）
- ・福島民友「読者のページ 窓：学芸員の解説で充実した企画展」（9月24日掲載）
- ・福島民報「県立博物館 3県共同展で展示替え 家訓や奥越出兵図」（9月27日記事）
- ・福島民友「秋の企画展『戊辰戦争150年』開催中」（9月28日記事）
- ・NHKラジオ第一「ラジオ深夜便：会津魂に触れる旅～戊辰戦争150年」（9月29日放送）
- ・下野新聞「戊辰戦争150年 福島で二つの企画展」（9月30日記事）
- ・福島民報「県立博物館企画展『戊辰戦争150年』記念講演会 仙台藩の複雑な立場解説」（10月1日記事）
- ・福島民友「県立博物館 戊辰旗プレゼント」（10月11日記事）
- ・朝日新聞「戊辰150年フラッグ 15人にプレゼント 県立博物館」（10月13日記事）
- ・朝日新聞「戊辰戦争 無念の150年」（10月15日記事）
- ・朝日be on Saturday「みちのものがたり 白虎隊の道」（10月20日記事）

(エ) 秋の企画展「日本のわざと美—重要無形文化財とそれを支える人々—」

- ・福島民報「人間国宝の工芸技術紹介」（10月27日記事）
- ・福島民報「会津地方伝統工芸品を紹介 18日まで若松」（11月1日記事）
- ・福島民報「奥会津編み組細工考察 14日若松で」（11月7日記事）
- ・福島民報「日本のわざと美展 作品60点新たに」（11月21日記事）
- ・福島民友「人間国宝の作品を展示」（11月21日記事）
- ・福島民友「三島町長と県立博物館長対談」（11月21日記事）
- ・福島民友「漆絵やスプーン作り 県立博物館」（11月26日記事）
- ・読売新聞 イベントガイド「日本のわざと美展」（11月29日記事）
- ・福島民友「漆絵やスプーン作り 県立博物館」（11月26日記事）
- ・読売新聞 イベントガイド「日本のわざと美展」（11月29日記事）

(オ) 特集展「震災遺産を考える」

- ・福島民報「予告 平成30年度冬の特集展 震災遺産を考える」（1月7日記事）

- ・福島民友「予告 冬の特集展 震災遺産を考える」（1月9日記事）
- ・福島民友「震災の記憶継承 取り組みを紹介」（2月4日記事）
- ・NHK「ニュースウォッチ9」（2月12日放映）
- ・福島民友「特集展 震災遺産を考える」（2月15日記事）
- ・福島民報「緊迫の状況伝える 若松で特集展開幕」（2月17日記事）
- ・福島民友「震災避難の遺産 展示」（2月17日記事）
- ・読売新聞「震災遺産伝える『あの日』県立博物館で特集展」（2月21日記事）
- ・NHK 震災と原発事故を語り継ぐ展示会（2月26日放映）
- ・NHK NEWS WEB「震災と原発事故を語り継ぐ展示会」（2月26日配信）
- ・福島民友「震災追悼 復興へ祈りを」（2月27日記事）
- ・テレビユー福島「Nスタふくしま」（2月27日放映）
- ・福島民報「若松の県立博物館震災展『11日閉館に疑問の声』」（3月1日記事）
- ・朝日新聞「原発PR看板 行き場なく」（3月5日記事）
- ・福島テレビ「FTVレポートプラス」（3月7日放映）
- ・福島民報「あす3.11追悼復興祈念行事」（3月8日記事）
- ・福島民報「犠牲者しのび復興に決意」（3月10日記事）
- ・福島民友「キャンドルに祈りを込めて」（3月10日記事）
- ・新美術新聞「福島県立博物館特集展 震災遺産を考える」（3月11日記事）
- ・福島民報「再生への決意胸に刻む」（3月11日記事）
- ・福島民報「若い警察官殉職 展示に無念思う」（3月11日記事）
- ・福島民友「犠牲者悼み 支援に感謝 3.11追悼復興祈念行事」（3月11日記事）
- ・ふくしまFM「キビタンスマイル」（3月11日放送）
- ・福島民報「富岡町災害本部を復元」（3月12日記事）
- ・福島民報「震災遺産継承考える」（3月25日記事）
- ・福島民友「女川原発の安全対策費増 地盤改良追加工事が必要」（3月29日記事）
- ・福島民友「災害歴史継承意義を考える」（3月

31日記事)

(カ) テーマ展「華麗なる島—会津出身の文化人・西川満が愛した台湾、繋いだ日本」

- ・福島民報「只見線の絶景紹介 来月19日まで 金山の写真家星さん作品展」(7月22日記事)
- ・福島民友「印象的な『美麗本』会津の文化人西川満を紹介」(7月23日記事)
- ・福島民友「西川氏の生き方に『会津の反骨精神』 県立博物館フォーラム」(7月23日記事)
- ・福島民報「台湾の美 版画や本で 西川満さんテーマ展」(7月23日記事)
- ・福島民報「『会津と台湾』 交流語り合う 県立博物館の「西川満」フォーラム」(7月23日記事)
- ・福島民友「四季折々の只見線 若松で写真展」(7月27日記事)

(キ) テーマ展「友の会化石・鉱物探検隊成果展」

- ・福島民友「化石、鉱物350点展示」(7月29日記事)

(ク) ポイント展「磐城の戦い」

- ・福島民報「『磐城の戦い』 展開幕 攻防巡る 絵図紹介」(5月3日記事)

(ケ) ポイント展「戦場のうわさ話」

- ・福島民報「幕末のうわさ話紹介」(6月5日記事)

(コ) ポイント展「会津の戦い」

- ・福島民報「『会津の戦い』 鑑賞を 来月10日まで絵地図展示」(7月13日記事)
- ・福島民報「戊辰図巻の舞台考察 県立博物館で歴史講座」(7月18日記事)

(サ) ポイント展「2度眠ったパレオパラドキシア」

- ・BGR「Long-forgotten 'dinosaur' bone turns out to actually be from an ancient hippo-like herbivore」(7月25日記事)
- ・INQUISITR「Paleoparadoxia Bone Identified By Researchers In Japan」(7月25日記事)
- ・International Business Times「Prehistoric Hippo-Like Creature Identified From Long-Forgotten 'Dinosaur' Bone」(7月26日記事)
- ・LIVE SCIENCE「Forgotten 'Dinosaur' Fossil Actually Belongs to a Weird, Hippo-Like Beast」(7月27日記事)
- ・共同通信「眠れる化石は海の哺乳類と判明 筑波大の収蔵庫で60年」(7月27日記事)

- ・茨城新聞「化石は絶滅海生ほ乳類 筑波大で保管 保存良好、生態解明へ」(7月27日記事)
- ・毎日新聞「筑波大：60年保管の謎化石 1000万年前絶滅の哺乳類」(7月27日記事)
- ・読売新聞「『恐竜の骨』実は哺乳類化石…共同研究で判明」(7月27日記事)
- ・日本経済新聞「筑波大など、「謎めいた古生物」の化石を再発見」(7月27日記事)
- ・福島民報「土湯温泉の骨化石 筑波大で見つかる」(7月27日記事)
- ・福島民友「眠れる化石 絶滅哺乳類」(7月28日記事)
- ・福島民友「眠れる化石里帰り 若松できょうから展示」(7月29日記事)
- ・毎日小学生新聞「忘れられた化石、その正体は」(7月30日記事)
- ・福島民報「骨化石“里帰り” 土湯温泉で発見 後行方不明…」(7月30日記事)
- ・東京新聞「筑波大の収蔵庫から太古の化石 福島で展示中、県内でも公開検討」(8月23日記事)
- ・福島民報「あぶくま抄」(9月3日記事)

(シ) ポイント展「若松城下の戦い」

- ・福島民報「城下の戦い 文献で紹介」(8月16日)

(ス) ポイント展「フタバズキリュウ時代の貝」

- ・福島民報「生息環境解明に光 フタバズキリュウ発見層の貝20種識別」(3月29日記事)

(セ) ポイント展「会津が生んだ知の巨人・山口弥一郎—災害と民俗—」

- ・福島民友「会津が生んだ地の巨人・山口弥一郎 —災害と民俗」(3月1日記事)

(ソ) 館長講座

- ・福島民報「吉野せいいの生涯紹介」(4月29日記事)
- ・福島民報「寺山修司講演会」(10月26日記事)
- ・福島民報「県立博物館 友の会 守り続けて30周年」(11月5日記事)
- ・福島民友「山口弥一郎の足跡たどる」(3月23日記事)

(タ) ミュージアムイベント

- ・福島民報「イベントガイド クリスマスコンサート」(12月14日記事)
- ・福島民友「春告げる本滝沢彼岸獅子」(3月14日記事)

(チ) 美術分野

- ・福島民友「会津の仏教解説 若松で美術講座」(5月14日記事)
- ・福島民報「日本遺産『会津の三十三観音めぐり』観光ガイド養成へ講習会」(11月22日記事)
- ・福島民友「松原石舟 特徴を紹介」(12月21日記事)
- ・福島民報「日本遺産『会津の三十三観音めぐり』22日に養成講座」(1月17日記事)
- ・福島民友「日本遺産観光に生かす 若松でアドバイザー認定講習」(1月24日記事)
- ・福島民報「三十三観音めぐりの広域観光ガイド養成」(1月26日記事)

(ツ) 歴史分野

- ・福島民報「来月7日 歴史講演会 母成峠の戦い紹介」(9月7日記事)
- ・福島民報「戊辰の経緯を考察 福島民報社が歴史講演会」(10月8日記事)
- ・福島民報「まなべこ歴史文化講座」(2月19日記事)

(テ) 民俗分野

- ・福島民友「民具と民芸 違いを知る 会津史談会が文化史講座」(11月24日記事)

(ト) その他

博物館友の会

- ・福島民報「4日の30周年記念行事PR」(11月2日記事)
- ・福島民友「県立博物館友の会創立30周年を祝う」(11月5日記事)
- ・福島民報「県立博物館友の会 守り育て続けて30周年」(11月5日記事)
- ・朝日新聞「民衆の動き着目 歴史研究が深化 作家・星亮一さん講演」(11月5日記事)
- ・福島民報「県立博物館友の会歴史講演会」(3月8日記事)

ライフ・ミュージアム・ネットワーク

- ・福島民報「太陽の塔テーマ あす公開討論会」(10月20日記事)
- ・福島民友「映画 太陽の塔 先行上映」(10月21日記事)
- ・福島民報「震災記憶継承在り方に意見 福大で公開討論会」(11月20日記事)
- ・河北新報オンラインニュース「震災を教訓に災害に向き合う「ミュージアムの使命」語る 塩釜で9日催し」(1月8日配信)
- ・河北新報「美術館や博物館が人と地域をつなぐ 塩釜で各地の実践例報告」(1月11日記事)

- ・福島民友「震災の記憶継承取り組みを紹介」(2月4日記事)
- ・福島民報「大熊の教訓伝えて 若松でフォーラム」(2月4日記事)

(2) 公聴活動

博物館で開催した次の行事について、利用者に対するアンケート調査を実施した。この結果を中期目標の平成30年度達成度評価の資料とすると同時に、データを分析し、館の事業の改善に努めた。

平成30年度 アンケート実施事業一覧

常設展	
企画展	匠のふるさと会津 — 技と祈りの建築文化誌 —
	美しき刃たち—東京富士美術館コレクションと福島の名刀—
	戊辰戦争150年
	日本のわざと美 — 重要無形文化財とそれを支える人々 —
特集展	震災遺産を考える — 災害の歴史と東日本大震災 —
	はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト 2017成果展 アートで伝える考える福島の 今、未来 at Fukushima Museum
	震災遺産を考える
ミュージアム イベント	玄如節と会津の民謡
講座	館長講座
	歴史講座
	民俗講座
	美術講座

(3) 出版事業

平成30年度は次の出版物を刊行した。

ア. 企画展図録

福島県立博物館企画展図録

「匠のふるさと会津」	1,000冊
「戊辰戦争150年」	1,500冊
「日本のわざと美」	500冊

イ. 紀要

福島県立博物館紀要 第33号 600冊

ウ. 年報

福島県立博物館年報 第32号 400冊

7. 東日本大震災からの復興支援

平成23年3月11日午後2時46分、宮城県牡鹿半島沖の海底を震源としたマグニチュード9.0の大地震が発生した。震源域は岩手県沖から茨城県沖までの南北約500km、東西約200kmの広範囲に及んだ。福島県立博物館のある会津若松市は震度5強の揺れを被った。福島県立博物館では、建物の躯体そのものには被害はなかった。しかし、設備および資料に若干の被害があり展示室の安全性の確認と修繕工事のため当面のあいだ休館とした。再開したのは平成23年4月12日(火)である。

福島県域は地震とそれに伴う津波、そして東京電力福島第一原子力発電所の事故により甚大な被害を被った。当館では、震災からの復興支援を目的として、平成24年度に新たに「ふくしまの文化・自然遺産の発掘と再生プロジェクト」を立ち上げた。これは次の3つの柱からなっている。

1. ふくしまの宝の発掘と保全

市町村や文化施設および大学等と連携し、被災地域の文化財の救出と保全を図るとともに、地域の宝である文化財や自然史資料を改めて調査・収集し、その価値を明らかにすることに努める。

2. ふくしまの宝の公開と活用

救出および新たに収集した文化財およびその研究成果をさまざまな形で県民に発信し、地域の誇りをとりもどすとともに、それらを教材として、ふくしまの未来を担う子供たちの育成を図る。

3. ふくしまの再生と活性化

文化施設や地域の文化団体、市民グループと連携し、文化資源を活用した地域おこし、文化的事業の開催など、文化の力を用いて地域の再生と活性化を図る。

このコンセプトに基づいて復興支援の事業を展開している。

平成30年度は次の事業を実施した。

(1) 文化財・自然資料レスキュー

ア. 平成30年度の活動

(ア) レスキュー作業の体制

前年度から継続して「福島県被災文化財等救援本部」(以下「救援本部」、当館は副代表・幹事・事務局)に参画して活動した。幹事会1回。

(イ) 被災地域の資料への対応

震災後から受け入れてきた資料について、整理作業などを継続し、条件が整ったものについては返還した(一部返還1件)。

避難区域の再編・解除や復旧・復興のための事業が進む中で、要請があった場合に調査等を行った。今年度は、大熊町教育委員会の依頼によって、自然分野の学芸員が大熊町オオクマイルカ化石産出地の現地調査を行った。

(ウ) 救出された資料の展示公開

- ①当館テーマ展「ふるさとの考古資料7【榎葉町歴史資料館】移動展」(~5月20日)
- ②当館テーマ展「けんぱくの宝2018—漆工芸名品選」(12月22日~平成31年2月3日)

(エ) 研修会・研究会への参加

被災資料の保全に関する講演会やシンポジウムなどに参加した。当館が事務局となっている福島県博物館連絡協議会では、1月18日・19日に「双葉町の現状視察と福島の文化財をめぐるディスカッション—福島の被災地が抱える文化財の課題—」(いわき市・双葉町)を行った。

(オ) 報告書作成の準備

当館における震災後の活動・成果等をまとめ、報告書原稿の準備を進めたが、救援本部としての報告書作成は行われなかった。

イ. 今後の課題

(ア) 受け入れてきた文化財・自然資料への対応(継続)

(イ) 旧警戒区域からの文化財・自然資料の搬出・保全(継続)

- ①個人所有資料の保全
- ②救出された文化財・自然資料の収蔵・公開施設についての検討

(ウ) 救出された文化財・自然資料の展示公開(継続)

(エ) 今後の災害に備えたしくみづくりや準備

当館での被災文化財等の受け入れ状況

(平成30年度末現在)

受入年度	所有者	資料概要	点数	要因	整理状況	現状
平成23	1 旧相馬女子高校	土器片等	195点	旧校舎収蔵施設の損壊	済み	採集
	2 いわき市の個人	古文書・祭礼道具等	13件 (1509点)	地震による蔵の損壊	未了	受託・平成28・29・30一部返還
	3 南相馬市の個人	野馬追甲冑等	12件 (16点)	原発事故避難により管理不能	不要	返還済み
	4 南相馬市の個人	文書	1点	原発事故避難により管理不能	不要	返還済み
	5 双葉町教育委員会	古文書	253点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	6 南相馬市の神社	棟札・像・文書等	22点	津波による神社の損壊	済み	一部返還
	7 須賀川市の神社	絵馬	109点	地震による神社の損壊	済み	受託・一部返還
	8 須賀川市の個人	雛人形・五月人形等	4点	地震による建家の損壊	済み	受贈
	9 双葉町教育委員会	刀剣・火縄銃	7点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	10 郡山市の個人	近代史料・書籍等	961点	地震による蔵の損壊	済み	返還済み
	11 双葉町の個人（教育委員会寄託）	太刀	1点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
		十三仏画	1点			
	12 浪江町の寺院	両界種子曼荼羅	1点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	13 福島市の個人	雛人形・古写真等	17件 (22点)	地震による建家の損壊	済み	受贈・受託
	14 伊達市の個人	土器・石器・図書・地図	3件 (1647点)	地震による蔵の損壊	済み	受贈
	15 南相馬市の寺院	膳碗漆器	48件 (79点)	原発事故避難により管理不能	未了	受託
	16 会津工業高校	陶磁器	8点	地震による損壊	不要	返還済み
17 南相馬市鹿島歴史民俗資料館	植物化石標本	62件 (66点)	地震による収蔵施設の損壊	済み	返還済み	
平成24	18 浪江町の個人	書跡	2点	原発事故避難により管理不能	不要	返還済み
	19 富岡町	16ミリフィルム	1点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	20 南相馬市の個人	化石標本	約400点	地震による収蔵施設の損壊	済み	受託
	21 大熊町教育委員会	考古資料（落合B遺跡）	4943点	原発事故避難により管理不能	済み	受託
考古資料（棚和子遺跡）		10箱				
和鏡		1点				
平成25	22 浪江町教育委員会	棚塩地区公民館地図	1点	地震・津波による建物損壊	不要	返還済み
	23 葛尾村の寺院	仏像・仏画・経典等	5件 (604点)	原発事故避難により管理不能	済み	返還済み
	24 双葉町教育委員会	清戸迫横穴壁画模写	1点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	25 双葉町教育委員会	フタバクジラ化石他	27件	原発事故避難により管理不能	済み	受託
平成28	26 浪江町の個人	大型民具	21点	地震による建物損壊、解体予定	済み	受贈
	27 南相馬市小高区	石仏	5点	津波被害による処分予定	済み	採集

8. 次世代ミュージアム機能

第2期中期目標で目標設定している次世代ミュージアム機能に関して、東日本大震災による震災の共有と継承、福島県における新たな文化事業の創出と定着を達成するため、2件のプロジェクト活動を行った。

(1) ライフミュージアムネットワーク

ア. 事業趣旨

福島県立博物館は、2011年の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故後、文化庁の支援を受けた「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト」「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」の事務局を務め、さまざまな文化芸術による復興支援事業を実施してきた。その過程で浮かび上がって来た課題は、福島、東北、被災地に限らず、日本各地に共通するものであり、解決方法を導き出すべく、広く共有されるべきものだった。

それらの課題は、【いのち】【くらし】に集約される。これらは各地の博物館・美術館・資料館・記念館を含むミュージアムの活動の核となっているものであり、ミュージアムに限らず、様々な団体、機関も大切にしていることである。

東日本大震災後、新たに浮上してきたミュージアムの使命。それは【いのち(ライフ)】と【くらし(ライフ)】に再び誠実に向き合うことと捉え、同じ志を共有するネットワークを強化・拡大することでミュージアムの社会的使命を拡張することを目指してライフミュージアムネットワーク実行委員会を設立、活動を行った。

イ. 組織

- 主催：ライフミュージアムネットワーク実行委員会
- 構成団体：南相馬市博物館
はじまりの美術館
三島町生活工芸館
(一社)ふくしま連携復興センター
原爆の囀丸木美術館
福島県立博物館
- 委員長：赤坂憲雄（福島県立博物館長）
- 事務局：福島県立博物館

ウ. 実施期間

- 実施期間：平成30年7月2日～平成31年3月31日
- プロジェクト活動期間：平成30年8月10日～平成31年3月31日

エ. 助成

平成30年度文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業

オ. 事業内容

リサーチ、オープンディスカッション、フォーラムを実施し、記録集（ライフミュージアムネットワーク活動記録集『福島で「いのち」と「くらし」を考える』、1,500部）を作成した。

平成30年度

ライフミュージアムネットワーク事業内容一覧

実施日	行 事 名	参加者数
9月27日	リサーチディスカッション NPO法人クリエイティブサポートレッツ	10
10月21日	オープンディスカッション 時を語るミュージアム1 「太陽の塔」をめぐって	53
11月18日	オープンディスカッション 時を語るミュージアム2 「ヒロシマ・コレクション」をめぐって	18
12月9日	オープンディスカッション 時を語るミュージアム3 「ふるさと、奄美に帰る」をめぐって	15
12月26日	オープンディスカッション 中越から福島へ 福島から中越へ	18
1月9日	オープンディスカッション つくるはじめるミュージアム	48
1月25日	オープンディスカッション 「暮らす」アートと「生きる」地域	45
2月3日	フォーラム 語り継ぐために 一ひとりの思いが未来をつくる	23
	合計	230



オープンディスカッション中越の様子



フォーラムの様子



リサーチ塩竈の様子（塩竈市津波防災センター）

(2) ふくしま震災遺産保全プロジェクト

平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震とそれともなう津波・原発事故は、福島県内に甚大な被害を及ぼした。未だに多くの方々が避難生活を余儀なくされ、一方で復興や除染工事等により地域の景観は大きく変わりつつある。当館では平成26年度から28年度まで文化庁芸術振興費補助金の採択を受けて、県内の資料館や研究会とともに実行委員会を組織し「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」を推進してきた。大震災を契機に起こった様々な出来事を歴史として共有し未来へ継承するため、震災を物語る資料を「震災遺産」と位置付けて、その保全や県内外での展覧会・シンポジウム等のアウトリーチ活動を行った。平成29年度からは当館の事業として、引き続き「震災遺産」の保全や発信を行っている。

ア. 震災遺産保全チームの組織

活動母体である実行委員会が解散後は、博物館内の「震災遺産保全チーム」が分野横断のプ

ロジェクトチームとして活動を進めている。平成30年度は民俗2名、考古1名、歴史4名、自然1名、美術1名、保存科学1名から計10名の学芸員が参画した。このうち1名は、震災遺産保全の核となる人材の採用についてかねてから議論を続けた災害史担当学芸員が含まれ、博物館における持続的な震災継承活動を行うための体制を整えた。

イ. 震災遺産の調査・保全

震災遺産の保全に関しては、双葉郡内の自治体（浪江町・大熊町・富岡町・双葉町）と連携して調査・収集を実施した。また大熊町の旧原子力災害対策センター（オフサイトセンター）では、福島大学うつくしま未来支援センターと連携して調査・収集を行った。さらに会津若松市内でも若松商業高校の協力で同校に保管していた震災遺産を調査・収集した。成果の一部は特集展にて公開した。

前年度作成した牧場牛舎柱の雌型を使用して専門業者へ委託し、レプリカを完成させた。

ウ. 他団体・他機関との連携・協力

筑波大学の白井哲哉教授を研究代表者とする科学研究費補助金基盤研究(A)「防災と被災地復興の基盤を形成する地域災害資料・情報学の構築—国際比較の観点から—」（課題番号：17H00772）による研究の一環として、3月にはフォーラム「福島の震災遺産と震災アーカイブズの構築」に登壇し震災遺産保全プロジェクトについて紹介し、参加者とともにディスカッションも行った。また同研究においては、3月に平成16年発生スマトラ島沖地震の被災地であるインドネシア共和国バンダ・アチェの視察にも参加した。視察ではTSUNAMIミュージアムや、避難ビル、屋根上に存置された船、内陸まで流された発電船や被災ヘリなどを見学し現地研究者とも意見交換した。また同地で開催された国際シンポジウムにて震災遺産保全の取り組みを紹介した。

エ. 普及事業

特集展「震災遺産を考える」を実施した。今回は富岡町の災害対策本部跡の再現や、県外避難者の資料などを新たに展示に取り入れた。

会津大学ではソフト開発授業へ協力、会津高校の被災地フィールドワークの協力、若松商業高校では文化祭において資料展示の協力をを行い、震災遺産の活用をすすめた。見学に訪れる学校団体には、クロスロードゲームを使った防災を主体的に考える教育プログラムも提案し実施した。

9. 連携事業

福島県立博物館では、各種団体が主催する事業のうち、本県の文化・教育そして東日本大震災からの復興に寄与する事業に参画し、他機関と連携しながら活動を進めている。

(1) 磐梯山ジオパーク推進事業

ア. 事業の趣旨・経緯

ジオパークとはヨーロッパで始まった地質や地形を見どころとする大地の公園。ユネスコが支援する活動となり、平成16年に世界ジオパークネットワーク（GGN）が設立、平成27年にはユネスコの正式な事業となった。平成29年5月現在、ヨーロッパと中国を中心に35ヶ国127地域が加盟。世界遺産は条約に基づいて保全・保護を重要視するのに対して、ジオパークは、保全はもとより資源の活用による地域の振興を図ることを目標としている。また、地質遺産だけではなく、それを背景とした考古資料、生態学的もしくは文化的に価値のあるものも含む。日本では平成29年5月現在43地域が日本ジオパークとして認定されており、そのうち8地域が世界ジオパークに認定されている。

平成20年から有志により磐梯山地域をジオパークにしようとする運動が始まり、平成22年3月に磐梯山周辺の3町村と関係機関を中心に、磐梯山ジオパーク協議会が設立された。平成23年9月に、日本ジオパーク委員会により、磐梯山地域が日本ジオパークとして認定された。将来的には磐梯山地域が世界ジオパークに認定され、ジオパークとしての活動を継続していくことを目指している。平成27年には、4年に1回実施される日本ジオパーク委員会による日本ジオパークの再審査が行われ、認定された。

福島県立博物館は、ジオパークの拠点施設として磐梯山ジオパーク協議会設立当初から協議会に参画し、館の正式な連携事業と位置づけて進めている。ジオパーク推進事業における当館の役割は次のとおりである。

- ・地域研究の推進と学術成果の収集による最新の研究成果の提供
- ・ジオパークの説明媒体（ガイドブック、解説板など）の制作・監修
- ・ジオパークとしての教育プログラムの開発と提供
- ・住民や児童への普及活動のための講師派遣
- ・ジオガイド養成のための講師派遣
- ・ツアーの拠点としてジオパークに関する情報提供

- ・ジオパーク普及のための各種イベントの開催
- #### イ. 組織

磐梯山ジオパーク協議会は、行政団体として磐梯山周辺の猪苗代町・磐梯町・北塩原村が中心となり運営し、福島県が支援している。これに3町村の商工団体と観光協会、ガイド団体などの民間団体、文化・教育施設が加わっている。事務局は3町村の商工観光課が中心となり、北塩原村自然環境活用センターに置かれている。

磐梯山ジオパーク協議会組織

区分	機関・団体名
行政団体	猪苗代町
	磐梯町
	北塩原村
	福島県企画調整部地域振興課
	福島県会津地方振興局
	環境省裏磐梯自然保護官事務所
商工団体	猪苗代町商工会
	磐梯町商工会
	北塩原村商工会
観光協会	猪苗代観光協会
	磐梯町観光協会
	裏磐梯観光協会
民間団体	猪苗代伝保人会
	猪苗代山岳会
	裏磐梯エコツーリズム協会
文化・教育施設	野口英世記念館
	磐梯山噴火記念館
	福島県立博物館
	国立磐梯青少年交流の家
オブザーバー	林野庁会津森林管理署
	福島県喜多方建設事務所

ウ. 活動

平成30年度は次の事業を実施した。

- (ア) ジオパーク関連の大会・学会・研修会参加
第9回日本ジオパーク全国大会 in アポイ岳
GP参加など4件
- (イ) 調査研究活動
(1) 大学や研究機関との連携
立教大学・文教大学 ジオパーク調査
- (ウ) 啓発活動
(1) フォーラム・シンポジウム
第8回東北ジオパークフォーラム in 下北半島1件
(2) 専門家を招聘した講演会

北海道大学名誉教授、環境防災総合政策研究機構理事 宇井忠英氏など2件

- (3) ジオツアー
「地質の日ジオツアー」など2件
- (4) 出前講座
磐梯大学講座など4件
- (5) 出前授業
猪苗代町立千里小学校など26件

(エ) 広報活動

- (1) イベント参画
観音寺川桜まつりなど20件
- (2) メディアへの情報発信
ジオカレー TV取材など4件

(オ) ガイド養成

- (1) ガイド研修
磐梯山ジオパーク説明勉強会1件

(カ) ツアー解説媒体制作

- (1) ジオサイト解説看板設置
見弥の大石内容のリニューアル、中瀬沼内容のリニューアル2件

(キ) 他機関との連携

- (1) 各地とのジオパークネットワーク活動
栗駒山麓ジオパークガイド研修など2件

(2) ふくしまサイエンスぷらっとフォーム

科学の普及を目的として、平成20年に福島大学が中心となり、産官学民の様々な機関や個人が参画して結成された組織。これまで科学普及活動は、ほとんど学校教育の理科を通じて行われてきた。ふくしまサイエンスぷらっとフォーム(spff)では、多様な分野・業種の人々が集まって、市民全体を対象として、大小様々の科学イベントの開催、企画、情報活動、広報活動に取り組んでいる。特に、平成23年3月11日震災以降、復興支援活動と科学理解活動の密接な連携を模索している。福島県立博物館もこのプロジェクトに平成22年から参画して活動している。

ふくしまサイエンスぷらっとフォーム連携機関一覧
(平成31年3月現在)

所 属 機 関
福島大学
福島県商工労働部産業創出課
ふくしま森の科学体験センター（ムシテックワールド）
郡山市ふれあい科学館（スペースパーク）
磐梯山噴火記念館
福島県ハイテクプラザ
福島県農業総合センター
福島大学
福島県商工労働部産業創出課
ふくしま森の科学体験センター（ムシテックワールド）
郡山市ふれあい科学館（スペースパーク）
磐梯山噴火記念館
福島県ハイテクプラザ
福島県農業総合センター
福島県環境創造センター
福島県林業研究センター
福島市子どもの夢を育む施設 こむこむ
(株) 福島製作所
日東紡績(株) 福島工場
日東紡績(株) 富久山事業センター
NECプラットフォームズ株式会社 福島事業所
福島県商工会連合会
福島県鉄工機械工業共同組合
(有) 西坂製作所
福島県立博物館
いわき明星大学 エネルギー教育研究会
福島県商工会議所連合会
(株) 坂本乙造商店
福島県立図書館
ふれあい科学館支援チーム
福島県男女共生センター
(有) アピスタ
福島県立テクノアカデミー郡山
日本ベクトン・ディッキンソン(株)
相馬市教育委員会
一般社団法人産業サポート白河
一般社団法人りょうぜん振興公社 霊山こどもの村

平成30年度に行われたspffの活動のうち、「spffサイエンス屋台村in福島」「spff設立10周年記念式典」は福島県立博物館も参加した。このほか、spffを窓口とした県外の団体と連携した活動や、視察・研修および研究活動を実施した。



spffサイエンス屋台村in福島 福島県立博物館ブース

(3) 福島芸術計画×Art Support Tohoku-Tokyo

ア. 事業の趣旨・経緯

福島芸術計画×Art Support Tohoku-Tokyoは、平成24年より、福島県、東京都、アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）の三者が共催し、地域の団体と協働してアートプログラムを実施している事業。

文化芸術に触れる機会や地域コミュニティの交流の場をつくり、文化芸術による地域活力の創出と心のケアという視点から復旧・復興を支援している。

福島の未来を担う子どもたちが、ふるさとの自然や文化を体験し、心豊かに成長していくこと。

福島県ならではの多様な文化を、地域の隔たり無く分かち合い、もう一度その素晴らしさを互いに見直すこと。

福島の現状や未来のことを考え、創造する場を持つこと。

福島の宝や人の思い、そして大切な何かをつなぎ・つたえていくこと。

そうした動きが、福島の復旧・復興に向けて大きな力になるとの考えから活動を続けている。

イ. 組織

1. 主催 福島県／東京都／アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）
2. 運営委員会構成団体 福島県文化振興課／福島県立美術館／福島県立博物館／アーツカウンシル東京／NPO法人Wunder ground
3. 事務局 NPO法人Wunder ground

ウ. 事業内容

福島芸術計画×Art Support Tohoku-Tokyoでは、平成29年度からの継続としてアーティストを講師に招き、福島県内の各学校等で児童・生徒対象のワークショップを開催した「福島子ども芸術計画」を実施した。

「福島子ども芸術計画」では、福島県立美術館、福島県立博物館が企画運営を行い、福島県立博物館企画運営事業「地域の文化資源を学ぶ学校連携ワークショップ」として下記を行った。

(ア) わたしの好きな只見 ブナの森の道具屋さん～お客さんは生きものたち～

- (1) 実施地域：只見町
- (2) アーティスト（講師）：岩田ともこ
- (3) 地域パートナー：只見ブナセンター
- (4) 対象：只見町放課後学級の児童
(1～4年生)

(5) 内容

①ワークショップ

- 1回目
平成30年11月19日(月)午後
会場：観察の森／ただみ・ブナと川のミュージアム
- 2回目
平成30年12月7日(金)午後
会場：ただみ・ブナと川のミュージアム
- 3回目
平成30年1月18日(金)午後
会場：ただみ・ブナと川のミュージアム

②展示

- 山
会場：ただみ・ブナと川のミュージアム
会期：平成31年
1月18日(金)～3月10日(日)
- 海
会場：いわき 浜風きらら
会期：平成31年3月16日～25日(月)

(イ) わたしの好きな昭和 雪のみえるアトリエ

- (1) 実施地域：昭和村
- (2) アーティスト（講師）：小池アミイゴ
- (3) 地域パートナー：昭和村保険福祉課
- (4) 対象：昭和村放課後学級の児童
(1～6年生)

(5) 内容

①ワークショップ

- セッション1（2月4日～7日）
*時間は、15:00前後～18:00
- セッション2（2月21日、22日）
*時間は、15:00前後～18:00

②活動報告会

- 2月22日(金)17:00～18:00
会場：昭和公民館内
「雪のみえるアトリエ」



ブナの森の道具屋さんワークショップ1回目



雪のみえるアトリエワークショップセッション2



ブナの森の道具屋さんワークショップ2回目



雪のみえるアトリエワークショップセッション1

(4) ふくしま歴史資料保存ネットワーク

地域の歴史や文化を伝える歴史資料などの記録保存を進め、災害時には救出・保全をはかり、後世に伝えることを目的に、平成22年11月に発足した。現在の代表・事務局は福島大学（行政政策学類 阿部浩一教授）。近年は、古文書整理・撮影作業を福島大学で定期的に行いながら、歴史資料の保存を趣旨としたさまざまな催しを企画・支援している。

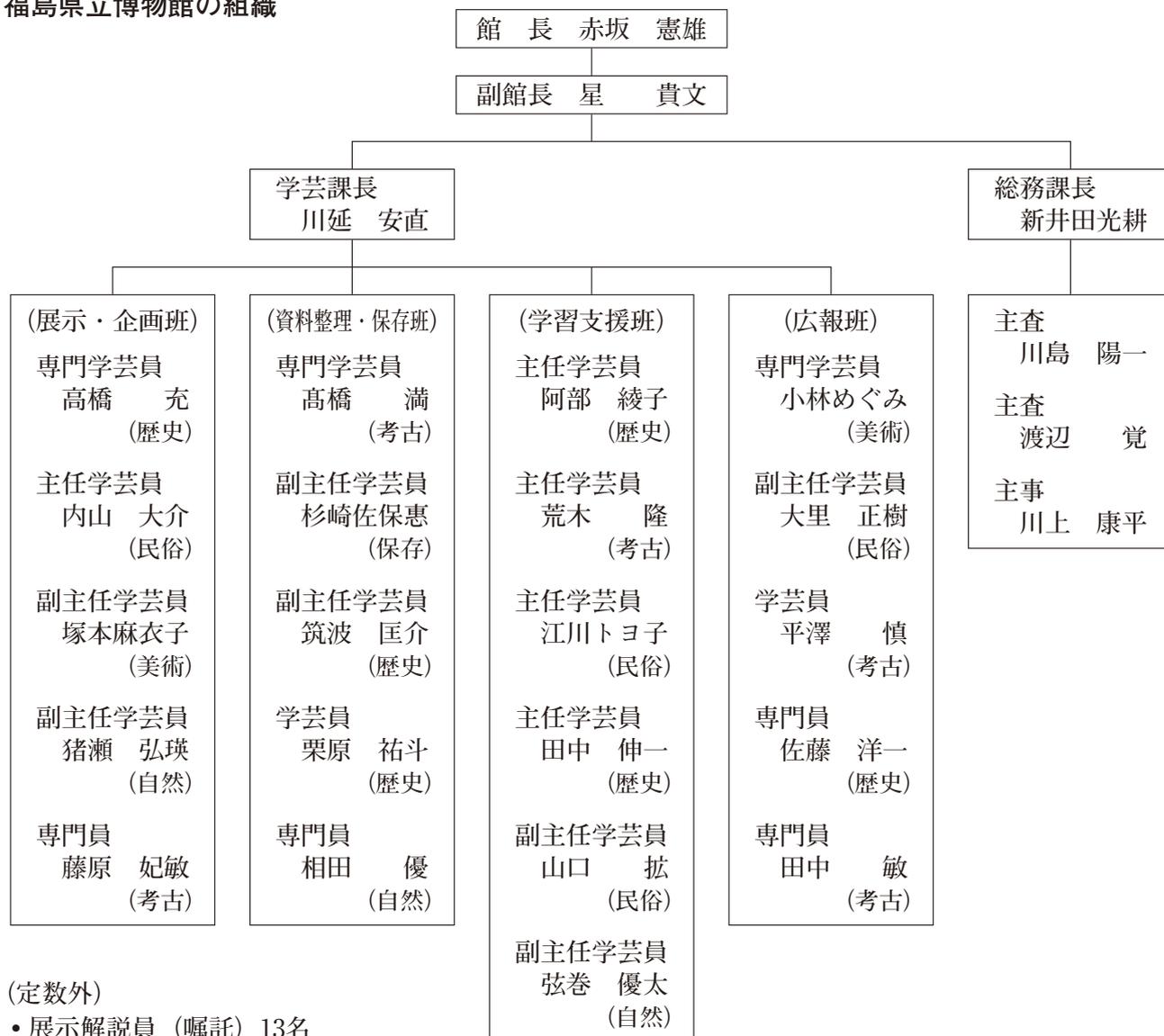
平成30年度は、当館で震災直後から保管していた個人所蔵の古文書の一部の整理・撮影作業を、福島大学で継続して実施した。

II 管理運営

1. 組織・職員

(平成30年4月1日現在)

福島県立博物館の組織



(定数外)

- ・展示解説員 (嘱託) 13名
- ・資料整理員 (嘱託) 2名

嘱託員等名簿

職名	氏名
展示解説員	前田 知香
	岩崎 萌
	富田 陽介
	小池 美奈
	穴澤由美子
	荒井奈津姫
	佐藤 聖華
	及川 敏康
	松本 光生

職名	氏名
展示解説員	堀内 彩華 平成30年9月30日(退職)
	和田 光
	日下部順子
	三浦 裕子 平成30年7月1日～
資料整理員	渡部 俊意 平成30年10月1日～平成31年2月28日(退職)
	長澤 宏子
臨時事務補助員	石川 真帆
	野口 由佳 平成31年2月28日(退職)

2. 予 算

平成30年度は、下表のとおり予算を執行した。

平成30年度予算執行状況

歳 入

(単位：千円)

科 目 (款・項・目・節)				金 額
使用料及び手数料				17,110
	使用料			17,110
		行政財産使用料		374
			建物使用料	374
		教育使用料		16,736
			博物館使用料	16,736
財産収入				3,422
	財産売払収入			3,422
		物品売払収入		3,422
			自動車売払代金	18
			その他物品売払代金	3,404
諸収入				8,619
	雑入			8,619
		雑入		8,619
			雑入	533
合 計				29,151

歳 出

(単位：千円)

科 目 (款・項・目・節)				金 額
教育費				202,341
	教育総務費			5,965
		事務局費		5,950
			報酬	2,400
			職員手当	630
			共済費	1,222
			賃金	1,698
		財務管理費		15
			交際費	15
	社会教育費			196,376
		博物館費		196,376
			報酬	24,243
			共済費	3,836
			報償費	902
			旅費	3,731
			需用費	59,447
			需用費 (食糧費)	1
			役務費	5,866
			委託料	83,074
			使用料及び賃借料	1,364
			備品購入費	2,650
			負担金、補助及び交付金	11,239
			公課費	23
合 計				202,341

3. 運営協議会の開催

(1) 福島県立博物館運営協議会

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関である。

ア. 運営協議会委員

学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者10名に委嘱している。平成13年1月からは、委員の選考に一部公募方式を導入した。

運営協議会委員名簿

区分	氏名	役職名
学校教育	鈴木 充子	いわき市立勿来第一小学校長
	和田 節子	飯館村立飯館中学校長
	副会長 湯田 重哉	県立会津学鳳中学校・高等学校長
社会教育	会長 杉 昭重	(公財)福島県文化振興事業団理事長
	遠藤 喜一	いわき市立中央公民館長
	佐藤彌右衛門	合資会社 大和川酒造店代表社員
学識経験者	長尾 修	県立博物館友の会幹事長
	秋月 淳子	会津若松市教育委員会委員
	大友 靖子	家庭教育インストラクター連絡協議会理事
	山口昂太郎	公募委員

イ. 会議

第1回 平成30年9月19日(水)

議題

- ① 副会長の選出について
- ② 平成30年度の事業計画について
- ③ 福島県立博物館第2期中期目標について

第2回 平成31年2月20日(水)

議題

- ① 平成31年度事業計画について
- ② 福島県立博物館第2期中期目標(11月末現在)について
- ③ 「福島県立博物館の使命」の改正と第3期中期目標の設定について

Ⅲ 利用状況

1. 入館者統計

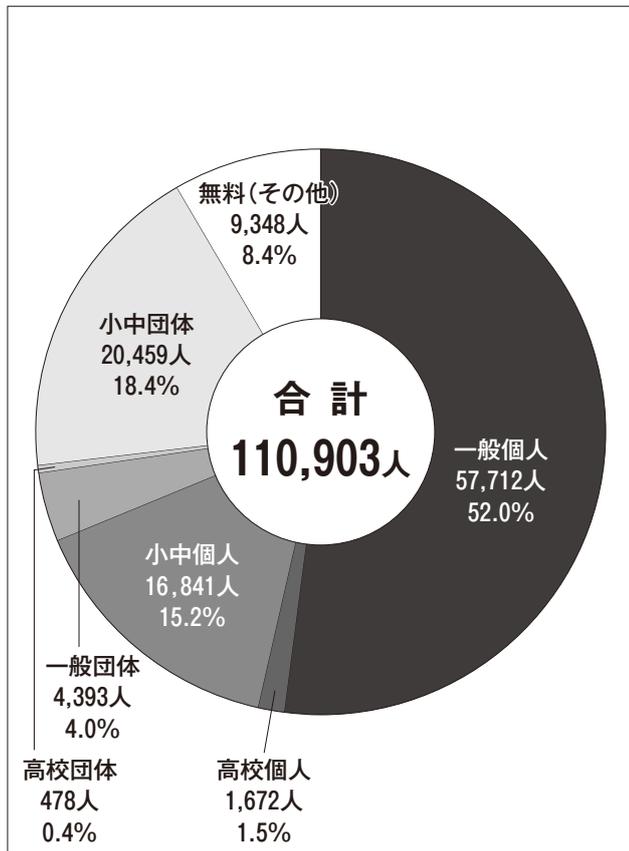
(1) 平成30年度入館者統計

月別区分別入館者数

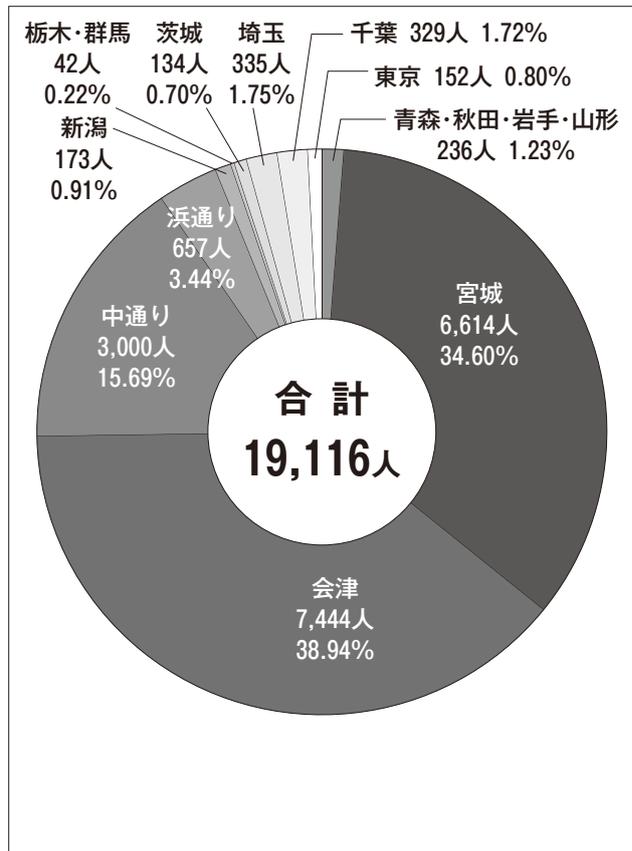
月別	常設展				企画展			合計		構成比
	日数	有料 人数	無料		日数	有料 人数	無料 人数	日数	人数	
			小中高校生 人数	その他 人数						
4	26	1,620	1,839	1,217	3	165	57	26	4,898	4.4%
5	27	1,794	3,408	781	27	1,021	1,585	27	8,589	7.7%
6	25	1,309	7,108	707	20	818	3,411	25	13,353	12.0%
7	26	2,729	1,238	522	16	8,497	1,700	26	14,686	13.2%
8	28	4,558	1,871	772	18	13,925	3,159	28	24,285	21.9%
9	26	2,590	5,873	1,169	26	6,926	5,442	26	22,000	19.8%
10	26	2,116	2,041	454	16	3,943	1,530	26	10,084	9.1%
11	26	1,459	459	390	26	1,740	714	26	4,762	4.3%
12	22	758	224	107	2	233	94	22	1,416	1.3%
1	23	537	294	84				23	915	0.8%
2	24	801	509	780				24	2,090	1.9%
3	27	1,201	480	2,144				27	3,825	3.4%
合計	306	21,472	25,344	9,127	154	37,268	17,692	306	110,903	100.0%

利用
状況

平成30年度入館者内訳



地域別学校団体入館申込者数



(2) 入館者の推移

入館者の推移（年度別・月別）

（単位：人）

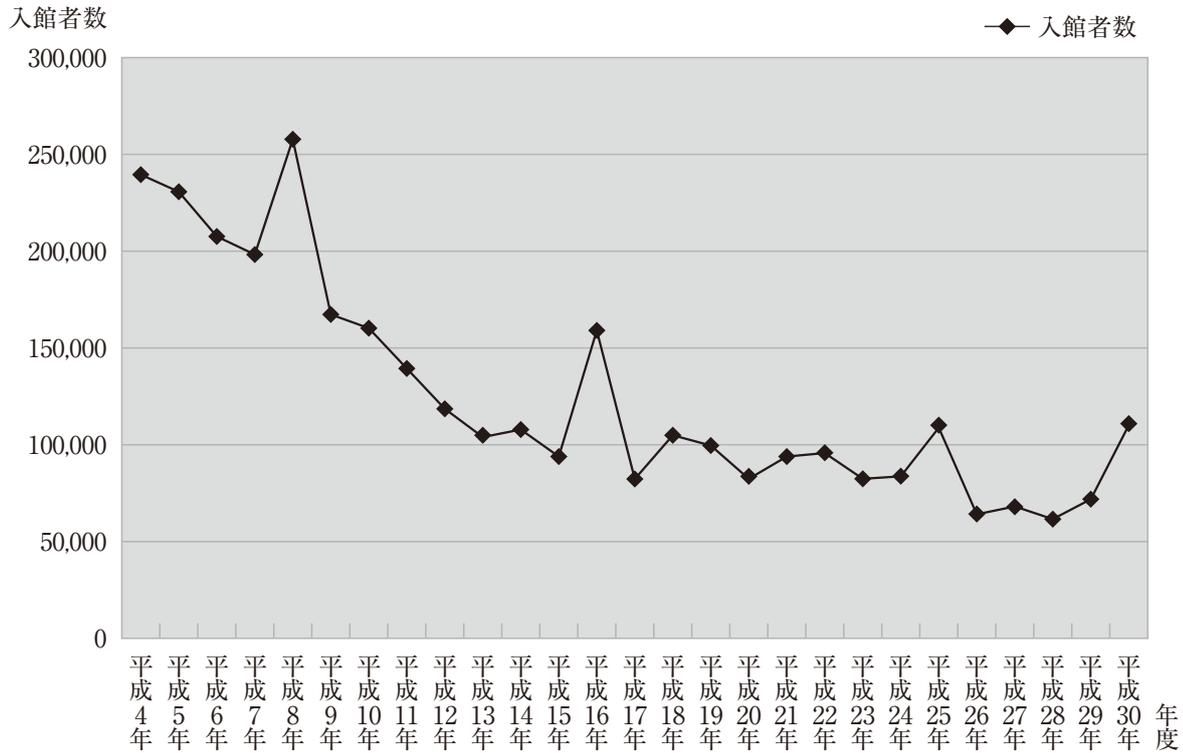
区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	日数	日平均	月平均	累計
61年							31,758	49,868	8,860	6,531	13,614	11,850	122,481	133	921	20,414	122,481
62年	25,919	48,367	17,831	23,356	40,749	24,259	27,099	27,082	5,548	4,010	7,653	7,878	259,751	297	875	21,646	382,232
63年	20,561	35,853	14,823	22,651	32,396	20,198	29,648	21,234	4,512	4,959	6,350	4,405	217,590	296	735	18,133	599,822
元	25,699	52,872	20,356	18,456	31,127	18,248	26,832	16,058	3,369	4,048	6,986	4,873	228,924	299	766	19,077	828,746
2年	22,750	50,265	19,043	24,050	34,218	17,008	34,201	18,482	2,303	3,813	5,982	7,115	239,230	299	800	19,936	1,067,976
3年	22,851	52,723	23,592	20,340	33,257	21,882	21,851	15,682	3,618	8,675	7,006	6,530	238,007	298	799	19,834	1,305,983
4年	16,637	56,983	23,841	22,800	37,431	20,334	18,565	17,592	4,028	5,073	9,096	7,606	239,986	297	808	19,999	1,545,969
5年	17,975	50,452	29,319	21,138	28,490	18,285	20,022	15,629	6,989	4,993	9,137	8,640	231,069	293	789	19,256	1,777,038
6年	15,320	38,693	20,737	12,328	25,837	16,551	28,034	19,857	7,839	4,732	9,197	8,742	207,867	296	702	17,322	1,984,905
7年	16,571	42,832	28,622	15,340	23,785	16,428	20,252	15,096	2,048	2,701	7,631	7,160	198,466	298	666	16,539	2,183,371
8年	12,433	40,138	18,185	9,725	21,495	15,879	64,772	50,811	9,473	3,141	6,700	5,616	258,368	294	879	21,531	2,441,739
9年	13,521	39,844	22,279	8,036	15,803	13,082	26,015	10,290	2,125	2,111	7,578	6,686	167,370	295	567	13,948	2,609,109
10年	14,922	34,430	24,933	9,541	16,208	13,794	18,431	9,061	2,395	3,218	9,770	3,575	160,278	295	474	13,357	2,769,387
11年	13,456	30,999	23,659	9,051	13,607	12,175	15,696	7,937	1,582	2,714	4,795	3,676	139,347	294	393	11,612	2,908,734
12年	10,539	21,341	18,775	7,127	13,184	12,794	15,609	8,120	1,801	829	5,353	2,897	118,369	301	393	9,864	3,027,103
13年	8,473	20,267	16,475	5,682	8,451	13,423	12,192	5,825	5,797	1,412	3,836	2,818	104,651	303	345	8,721	3,131,754
14年	8,028	19,242	17,211	4,706	14,702	19,901	10,688	5,265	1,078	1,196	3,183	2,386	107,586	306	352	8,966	3,239,340
15年	4,899	13,884	12,884	8,732	10,630	12,525	13,000	7,693	1,665	1,235	3,733	2,734	93,614	302	310	7,801	3,332,954
16年	8,770	19,287	16,768	20,318	34,732	35,813	11,227	5,440	2,192	855	2,019	1,690	159,111	302	527	13,259	3,492,065
17年	8,440	14,548	12,008	7,507	7,157	8,787	11,972	4,374	926	1,159	2,815	2,262	81,955	305	269	6,830	3,574,020
18年	7,019	11,381	14,151	5,246	10,548	13,405	25,464	9,029	1,989	1,468	2,928	2,058	104,686	310	338	8,724	3,678,706
19年	7,419	12,271	25,016	6,808	7,148	10,084	12,495	8,261	1,938	1,627	2,943	3,290	99,300	306	325	8,275	3,778,006
20年	6,521	10,730	13,011	7,401	8,582	10,326	11,388	6,798	1,558	1,037	2,193	3,730	83,275	306	272	6,940	3,861,281
21年	7,977	13,060	11,912	7,356	14,280	16,864	9,211	6,761	1,383	1,127	1,815	1,850	93,596	306	306	7,800	3,954,877
22年	11,669	15,085	16,283	10,472	11,658	9,513	8,522	6,280	1,637	1,947	1,796	694	95,556	293	326	7,963	4,050,433
23年	2,292	6,582	4,990	5,557	11,047	15,972	9,465	6,399	3,159	4,280	7,087	5,218	82,048	305	269	6,837	4,132,481
24年	8,940	9,350	6,912	7,532	12,764	10,702	10,683	6,438	2,316	1,551	3,173	3,040	83,401	306	273	6,950	4,215,882
25年	6,523	11,722	25,363	9,013	20,966	12,299	11,802	4,025	2,736	1,617	1,463	2,309	109,838	309	355	9,153	4,325,720
26年	4,972	7,374	7,677	4,250	5,845	7,457	4,549	8,878	3,815	1,036	3,765	4,121	63,739	309	206	5,312	4,389,459
27年	5,215	12,117	10,507	3,520	4,873	7,621	5,375	4,543	1,552	2,492	4,502	5,173	67,490	309	218	5,624	4,456,949
28年	5,006	7,101	9,290	4,037	5,551	14,131	5,014	2,792	1,082	886	2,512	3,671	61,073	303	202	5,089	4,518,022
29年	5,020	8,018	10,104	4,156	8,932	9,709	7,339	4,774	2,555	3,716	3,365	3,775	71,463	306	234	5,955	4,589,485
30年	4,898	8,589	13,353	14,686	24,285	22,000	10,084	4,762	1,416	915	2,090	3,825	110,903	306	362	9,242	4,700,388
平均	11,601	25,513	17,185	11,279	18,429	15,358	17,856	12,459	3,190	2,761	5,214	4,603	142,436	296	487	12,179	

利用状況

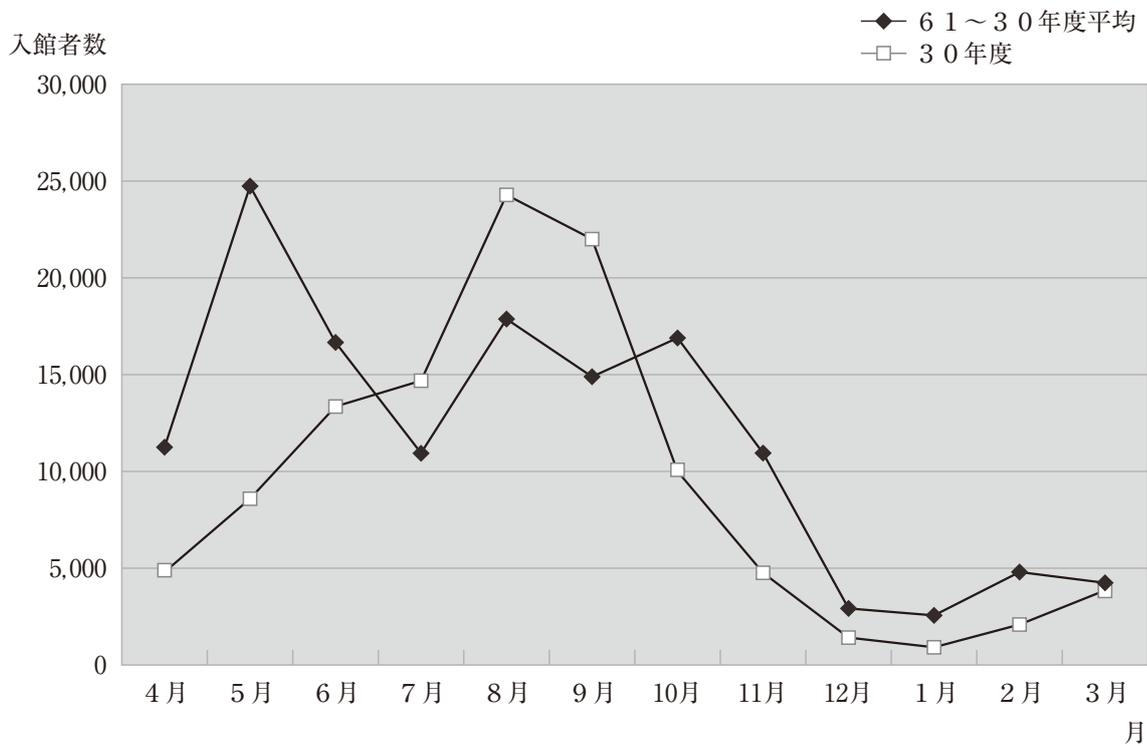
入館者数の推移グラフ（年度別月別）

利用状況

入館者数の推移 年度別



月別入館状況



(3) 企画展入館者統計

企画展入館者数

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	合計
61	武家の文化	61.10.18～61.11.16	27日	18,806人	1,967人	4,474人	25,247人
	福島のまつり	62. 1.17～62. 3. 1	37	6,302	456	755	7,513
	計		64	25,108	2,423	5,229	32,760
62	福島の顔	62. 4.18～62. 6.14	48	13,008	510	7,077	20,595
	植物化石展	62. 7.18～62. 9.15	51	14,116	1,267	7,149	22,532
	会津の仏像	62.10.17～62.12.13	49	14,670	440	904	16,014
	陸奥の古瓦	63. 1.23～63. 3.21	50	4,069	151	291	4,511
	計		198	45,863	2,368	15,421	63,652
63	境の神・風の神	63. 4.16～63. 6.12	49	9,804	1,046	5,668	16,518
	江戸時代の流通路	63. 7.16～63. 9.11	50	16,240	1,502	5,729	23,471
	東国の埴輪	63.10. 8～63.12.11	54	15,585	1,472	4,702	21,759
	鉱物の世界	元. 1.21～元. 3.19	49	4,160	470	2,653	7,283
	計		202	45,789	4,490	18,752	69,031
元	縄文の四季	元. 4.18～元. 6.11	48	13,246	2,293	27,743	43,282
	町の成立とにぎわい	元. 7. 4～元. 9. 3	54	16,611	1,151	8,120	25,882
	中通りの仏像	元. 9.22～元.11.26	55	15,356	1,895	6,486	23,737
	東北の陶磁史	2. 1.20～ 2. 3.18	50	5,058	151	1,532	6,741
	計		207	50,271	5,490	43,881	99,642
2	垂欧堂田善とその系譜	2. 4.21～ 2. 6.10	44	12,274	2,507	22,522	37,303
	太古の生きものたち	2. 7. 6～ 2. 9. 2	51	17,519	1,407	10,681	29,607
	秀吉・氏郷・政宗	2. 9.22～ 2.11.25	55	18,273	2,481	8,516	29,270
	日本の音色	3. 1.19～ 3. 3.21	53	5,567	149	1,731	7,447
	計		203	53,633	6,544	43,450	103,627
3	シルクロード紀行	3. 4.16～ 3. 6. 9	48	13,878	3,319	27,384	44,581
	縄文絵巻	3. 7.20～ 3. 9.23	57	21,276	1,734	10,548	33,558
	浜通りの仏像	3.10.10～ 3.12. 8	51	12,293	1,030	3,528	16,851
	ふくしま 鉱山のあゆみ	4. 1.18～ 4. 3.15	49	7,626	138	2,043	9,807
	計		205	55,073	6,221	43,503	104,797
4	マンガ文化の源流	4. 4.18～ 4. 6. 4	49	12,151	2,192	27,981	42,324
	恐竜のあるいた道	4. 7.18～ 4. 9.23	57	22,049	1,459	11,772	35,280
	定信と文晁	4.10.17～ 4.12. 6	43	10,333	1,083	2,549	13,965
	発掘 ふくしま	5. 1.16～ 5. 3.21	55	7,004	338	1,831	9,173
	計		204	51,537	5,072	44,133	100,742
5	明治はじめて物語	5. 4.17～ 5. 6.13	48	12,810	1,542	28,085	42,437
	稲とくらし	5. 7.17～ 5. 9.23	58	19,467	1,195	8,349	29,011
	東北からの弥生文化	5.10.16～ 5.12. 5	42	12,436	936	3,178	16,550
	会津の自然史	6. 1.22～ 6. 3.21	51	6,928	418	2,350	9,696
	計		199	51,641	4,091	41,962	97,694
6	玉堂と春琴・秋琴	6. 4.23～ 6. 6. 5	37	8,816	346	16,330	25,492
	げんき・病・元気	6. 7.23～ 6. 9.18	49	14,075	1,027	6,232	21,334
	会津大塚山古墳の時代	6.10. 8～ 6.12. 4	48	18,285	751	7,095	26,131
	村芝居の世界	7. 1.21～ 7. 3.26	55	7,676	268	2,445	10,389
	計		189	48,852	2,392	32,102	83,346
7	探検 貝化石ワールド	7. 4.22～ 7. 6.11	44	9,187	1,608	26,208	37,003
	海のまくあけ	7. 7.22～ 7. 9.17	50	14,101	1,003	5,889	20,993
	福島1000年時のかたち	7.10. 7～ 7.11.26	43	9,379	1,342	3,417	14,138
	いにしえの木の匠	8. 1.20～ 8. 3.24	55	5,760	74	1,907	7,741
	計		192	38,427	4,027	37,421	79,875

企画展入館者数

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	合計
8	福島 mountain 信仰	8. 4.20～ 8. 6. 9	44	8,931	976	12,432	22,339
	地震・火山・津波	8. 7.20～ 7. 9.16	51	11,671	443	6,176	18,290
	秀吉と桃山文化	8.10. 5～ 8.11.24	43	45,643	1,583	8,929	56,155
	近代子どもの世界	9. 1.18～ 9. 3.23	54	3,733	130	2,427	6,290
	計		192	69,978	3,132	29,964	103,074
9	縄文たんけん	9. 4.19～ 9. 6. 8	43	5,282	1,164	23,052	29,498
	日本の魚学・水産学事始め	9. 7.19～ 9. 9.15	51	6,396	396	4,082	10,874
	染める	9.10.10～ 9.12. 7	51	6,165	118	7,372	13,655
	遠澤と探幽	10. 1.24～10. 3.15	43	5,854	433	775	7,062
	計		188	23,697	2,111	35,281	61,089
10	戦国の城	10. 4.18～10. 6.14	49	8,731	600	19,452	28,783
	発掘ふくしま 2	10. 7.18～10. 9.13	50	7,930	484	5,954	14,368
	天の絹絲	10.10.10～10.12.13	55	6,521	133	3,009	9,663
	日本の美	11. 1.26～11. 2.21	23	5,055	101	567	5,723
	計		177	28,237	1,318	28,982	58,537
11	氷河時代	11. 4.17～11. 6.13	49	6,351	680	20,052	27,083
	新弥生紀行	11. 7.17～11. 9.15	43	6,128	409	3,438	9,975
	生の中の死	11.10. 9～11.12.12	54	5,826	225	2,103	8,154
	豊かなる世界へ	12. 1.22～12. 3.20	51	3,426	103	448	3,977
	計		197	21,731	1,417	26,041	49,189
12	集古十種	12. 4.22～12. 6.11	44	4,843	81	7,960	12,884
	海獣パレオパラドキシア	12. 7.15～12. 9.10	49	6,013	363	4,074	10,450
	英雄たちの系譜	12.10. 7～12.12.10	55	5,838	139	3,326	9,303
	安積良斎と門人たち	13. 1.20～13. 3.20	51	2,963	73	115	3,151
	計		199	19,657	656	15,475	35,788
13	食と考古学	13. 4.21～13. 6.10	44	3,330	281	8,964	12,575
	肖像に見る福島を築いた人々	13. 7. 7～13. 8.26	44	3,630	118	1,148	4,896
	武者たちが通る	13. 9.22～13.11.11	44	4,437	385	2,675	7,497
	計		132	11,397	784	12,787	24,968
14	化石芸術	14. 4.27～14. 6.30	56	3,921	552	6,928	11,401
	雪村展	14. 8.10～14. 9.23	39	11,362	169	1,149	12,680
	計		95	15,283	721	8,077	24,081

企画展入館者数

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	無料	合計
15	発掘された日本列島2003	15. 7.15～15. 8.13	26日	2,473人	386人	647人	1,424人	4,930人
	発掘 ふくしま 3	15. 8.20～15. 9.23	30	1,833	40	479	432	2,784
	《笑い》の想像力	15.10.11～15.12. 7	50	3,190	47	456	769	4,462
	計		106	7,496	473	1,582	2,625	12,176
16	戊辰戦争といま	16. 4.17～16. 6.13	49	6,451	190	3,191	1,048	10,880
	アート オブ スター・ウォーズ展	16. 7. 3～16. 9.26	75	46,019	5,631	11,234	1,552	64,436
	ふくしまの工芸	16.10.23～16.12. 5	36	2,524	65	182	626	3,397
	計		160	54,994	5,886	14,607	3,226	78,713
17	古い	17. 4.23～17. 6. 5	39	1,732	80	414	814	3,040
	婚礼	17. 9.23～17.11. 6	39	2,480	45	233	1,020	3,778
	計		78	4,212	125	647	1,834	6,818

企画展入館者数

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	無料	合計
18	馬と人との年代記	18. 4.22～18. 6.11	45	1,679	24	801	615	3,119
	布の声をきく	18. 7.22～18. 9. 3	40	2,137	53	284	464	2,938
	徳川将軍家と会津松平家	18. 9.30～18.11. 5	36	14,879	126	1,918	2,560	19,483
	計		121	18,695	203	3,003	3,639	25,540
19	樹と竹	19. 7.21～19. 9.17	52	1,987	44	429	619	3,079
	わくわく！化石大集合	19.10. 6～19.11.25	44	2,611	21	1,593	2,233	6,458
	計		96	4,598	65	2,022	2,852	9,537
20	宝の山2008	20. 7.19～20. 9.23	58	3,943	66	1,131	1,070	6,210
	遠藤香山	20.10.11～20.11.24	41	1,619	131	106	973	2,829
	計		99	5,562	197	1,237	2,043	9,039
21	岡本太郎の博物館	21.10.10～21.11.23	40	1,905	9	95	1,371	3,380
	計		40	1,905	9	95	1,371	3,380
22	千少庵と蒲生氏郷	22. 4.17～22. 5.30	39	6,077	27	489	985	7,578
	森に生き山に遊ぶ	22. 6.26～22. 8.22	51	12,588				12,588
	漆のチカラ	22.10. 9～22.11.28	43	2,564	31	159	1,259	4,013
	計		133	21,229	58	648	2,244	24,179
23	保科正之の時代	23.10. 8～23.11.27	43	4,908	28	188	0	5,124
	小さなもの集まれ	24. 2.18～24. 3.31	36	2,523	21	271	0	2,815
	計		79	7,431	49	459	0	7,939
24	小さなもの集まれ	24. 4. 1～24. 5.13	38	4,264	82	493	875	5,714
	恐竜時代のふくしま	24. 7.14～24. 9.17	54	6,985	128	4,055	2,648	13,816
	会津の寺宝	24.10. 6～24.11.25	44	6,668	16	72	872	7,628
	計		136	17,917	226	4,620	4,395	27,158
25	八重の桜	25. 4.17～25. 7. 3	46	13,146	130	5,462	875	19,613
	対決！恐竜展	25. 7.27～25. 9.16	46	9,948	273	5,033	2,648	17,902
	考古学からの挑戦	25.10. 5～25.12. 1	50	1,955	11	85	872	2,923
	計		142	25,049	414	10,580	4,395	40,438
26	東北-風土・人・くらし	26. 4.19～26. 5.18	26	1,094	30	102	360	1,586
	アイヌの工芸	26. 7.19～26. 9.15	52	2,841	62	531	702	4,136
	みちのくの観音さま	26.11. 1～26.12.14	38	6,441	18	73	1,419	7,951
	計		116	10,376	110	706	2,481	13,673
27	ふるさと会津の人と四季	27. 5. 2～27. 6.21	44				5,992	5,992
	被災地からの考古学	27. 7.18～27. 9.13	51	1,518	39	221	362	2,140
	相馬中村藩の人びと	27.10.10～27.11.29	38	1,406	8	34	317	1,765
	計		133	2,924	47	255	6,671	9,897
28	大須賀清光の屏風絵と番付	28. 4.23～28. 6.12	45	2,254	14	201	555	3,024
29	自然をうつす	29. 4.29～29. 6. 4	32	1,291	45	620	483	2,439
	ふくしま5億年の自然史	29. 7.15～29. 9.18	59	3,457	138	2,037	1,005	6,637
	発掘ふくしま4	29.10. 7～29.11.26	44	1,305	455	1,475	506	3,741
	山水憧憬	30. 1.13～30. 2.18	32	3,012	42	209	433	3,696
	計		167	9,065	680	4,341	2,427	16,513
30	匠のふるさと会津	30. 4.28～30. 6.24	50	2,004	134	4,294	625	7,057
	美しき刃たち	30. 7.13～30. 8.19	34	21,581	841	2,853	2,006	27,281
	戊辰戦争150年	30. 9. 1～30.10.14	38	10,544	179	5,412	1,310	17,445
	日本のわざと美	30.10.27～30.12. 2	32	2,298	36	357	486	3,177
	計		154	36,427	1,190	12,916	4,427	54,960

※平成16年度のアート オブ スター・ウォーズ展については高校生の区分は中学生・高校生、小・中学生の区分は小学生と読替え

2. 出版物販売

出版物売上表

書籍名	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
武家の文化	600	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3	1,800
ふくしまの顔	500	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	4	2,000
陸奥の古瓦	400	0	0	3	4	0	2	3	3	0	0	0	0	15	6,000
鉱物の世界	400	0	4	0	4	3	2	3	1	0	0	0	1	18	7,200
縄文の四季	500	0	2	2	0	1	1	0	1	1	0	0	0	8	4,000
まちの成立とにぎわい	500	1	2	0	1	0	3	2	0	0	0	0	0	9	4,500
亜欧堂田善とその系譜	1,000	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	2	6	6,000
太古の生きものたち	500	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1,000
日本の音色	800	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	800
シルクロード紀行	1,000	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1,000
縄文絵巻	800	2	2	1	1	3	2	1	3	1	0	0	0	16	12,800
浜通りの仏像	500	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	0	4	2,000
ふくしま鉱山のあゆみ	800	1	2	0	2	2	3	1	4	0	0	0	0	15	12,000
マンガ文化の源流	1,000	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	2,000
恐竜のあるいた道	500	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	500
定信と文晁	1,000	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	2	5	5,000
明治はじめて物語	500	0	2	0	0	1	3	0	0	0	0	0	1	7	3,500
稲とくらし	800	0	1	3	2	0	1	1	1	1	1	2	0	13	10,400
東北からの弥生文化	800	1	0	1	0	0	1	0	3	1	0	0	0	7	5,600
会津の自然史	800	0	0	0	1	0	1	1	1	1	0	0	0	5	4,000
玉堂と春琴・秋琴	1,100	0	0	0	0	0	1	2	3	0	1	0	0	7	7,700
げんき・病・元気	800	0	1	1	1	1	2	0	0	0	1	0	0	7	5,600
村芝居の世界	900	1	2	1	1	0	4	1	0	0	0	0	0	10	9,000
探検具化石ワールド	800	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	1,600
海のまくあけ	800	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福島1000年時のかたち	900	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	3	2,700
いにしへの木の匠	600	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	3	1,800
福島の山岳信仰	800	2	1	3	4	3	2	2	0	0	0	0	3	20	16,000
地震・火山・津波	500	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	1,000
近代子どもの世界	900	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1,800
縄文たんけん	900	0	0	0	1	1	1	0	2	0	0	0	1	6	5,400
日本の魚学・水産学事始め	500	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	1,000
染める	600	0	1	0	0	2	0	1	1	0	0	0	1	6	3,600
遠澤と探幽	1,300	0	0	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	4	5,200
天の絹絲	1,300	0	2	1	2	1	2	0	0	0	0	0	1	9	11,700
日本の美	800	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	1,600
氷河時代	700	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	3	2,100
新弥生紀行	1,100	0	0	1	0	2	1	0	3	0	0	0	0	7	7,700
生の中の死	900	0	1	1	2	1	1	0	1	0	1	0	1	9	8,100
豊かなる世界へ	600	1	1	2	2	3	2	0	1	0	1	0	0	13	7,800
集古十種	1,100	0	1	0	3	1	6	1	0	0	0	1	1	14	15,400
海獣パレオパラドキシア	600	1	0	1	3	0	3	0	0	1	0	0	0	9	5,400
英雄たちの系譜	500	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	1,000
食と考古学	500	1	0	1	0	1	2	0	2	0	0	0	0	7	3,500
肖像にみる福島を築いた人々	900	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1,800
武者たちが通る	400	2	1	0	0	2	6	1	1	0	0	0	0	13	5,200
発掘ふくしま3	600	0	0	2	1	0	2	0	4	0	1	0	1	11	6,600
笑いの想像力	1,000	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	0	0	4	4,000
古い	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
婚礼	800	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	800
馬と人の年代記	800	0	0	2	0	1	1	0	1	1	0	0	1	7	5,600

出版物売上表

書籍名	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
布の声をきく	700	1	2	1	0	1	1	2	1	0	0	0	1	10	7,000
徳川將軍家と会津松平家	600	7	9	6	22	20	22	0	0	0	0	0	0	86	51,600
樹と竹	600	0	8	10	2	1	2	1	1	0	1	1	2	29	17,400
わくわく！化石大集合	400	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	4	1,600
会津磐梯山	500	111	11	7	23	21	44	23	4	1	1	2	9	257	128,500
遠藤香村	800	0	0	1	4	8	4	1	0	1	0	1	2	22	17,600
岡本太郎の博物館	1,000	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	4	4,000
千少庵と蒲生氏郷	500	1	1	0	2	3	1	1	3	1	1	0	0	14	7,000
漆のチカラ	800	0	0	1	0	1	0	4	5	1	1	0	2	15	12,000
保科正之の時代	1,000	0	0	0	2	4	30	19	1	0	0	3	2	61	61,000
恐竜時代のふくしま	500	0	0	0	1	1	3	0	0	0	0	1	0	6	3,000
会津の寺宝	1,000	1	6	2	2	2	2	5	2	0	0	0	0	22	22,000
八重の桜	2,000	1	1	1	1	3	44	14	2	0	0	0	0	67	134,000
対決！恐竜展ガイドブック	300	0	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	4	1,200
恐竜展2011 ポプラディア完全ガイド	500	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4	2,000
恐竜博2011 公式図録	2,000	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	4,000
考古学からの挑戦	900	0	2	1	1	0	3	1	5	1	0	0	0	14	12,600
アイヌの工芸	1,000	1	0	2	0	2	4	0	0	1	1	0	1	12	12,000
被災地からの考古学1	200	1	2	1	0	1	3	0	2	0	1	0	4	15	3,000
相馬中村藩の人びと	700	0	0	0	1	4	8	2	2	0	1	0	5	23	16,100
大須賀清光の屏風絵と番付	700	4	1	1	1	1	17	3	3	0	1	1	7	40	28,000
自然をうつす	900	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	2	1	6	5,400
ふくしま5億年の自然史	600	0	7	2	4	4	5	1	4	1	0	0	3	31	18,600
発掘ふくしま4	900	14	5	2	3	4	3	3	5	1	2	2	1	45	40,500
山水憧憬	1,000	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	3	3,000
匠のふるさと会津	800	12	99	95	9	12	10	4	4	1	1	1	0	248	198,400
戊辰戦争150年	1,200	0	0	0	0	316	905	0	0	0	0	0	0	1,221	1,465,200
日本のわざと美	2,000	0	0	0	0	0	0	10	64	6	0	0	1	81	162,000
紀要(数量)		4	8	4	2	8	6	34	10	2	0	1	4	83	
紀要(金額)		3,260	6,140	2,660	1,200	9,600	5,600	33,320	7,260	1,500	0	2,100	2,400		75,040
ふくしまの仏像(仏像図説)	1,300	2	2	2	2	0	2	4	1	0	0	0	0	15	19,500
福島古墳	1,200	3	2	4	4	1	2	4	2	0	0	1	1	24	28,800
福島の化石	1,500	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	3	4,500
戦時下の福島	800	0	1	2	1	2	4	2	1	1	0	1	2	17	13,600
福島の年中行事	1,100	0	0	0	0	1	1	1	2	0	1	0	2	8	8,800
ガイドブック	300	8	3	3	9	10	11	7	9	1	2	3	7	73	21,900
手引き(小)	700	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	1	5	3,500
常世原田遺跡	600	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1,200
ふくしまの農具	1,000	0	0	2	0	0	4	0	0	0	0	1	2	9	9,000
報告書(数量)		7	10	13	15	5	24	14	13	1	4	2	7	115	
報告書(金額)		5,900	14,200	12,400	14,500	5,700	23,000	16,100	14,600	4,000	4,000	2,000	7,300		123,700
絵葉書	50	7	2	24	11	20	51	30	11	1	0	5	12	174	8,700
遠藤香村クリアホルダー	200	0	1	4	3	4	2	2	3	0	2	0	1	22	4,400
戊辰展ファイルセット	500	0	0	0	0	0	486	0	0	0	0	0	0	486	243,000
斎藤一ファイル	300	0	0	0	0	0	264	105	6	3	2	2	4	386	115,800
勾玉セット	200	13	0	16	0	4	0	0	15	0	0	0	0	48	9,600
文化の力	1,500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ポケットミュージアム	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一筆箋	350	0	2	3	2	0	2	0	5	0	1	1	0	16	5,600
齋藤清絵はがきセット	350	0	6	2	6	1	3	8	5	1	4	3	1	40	14,000
体験学習材料費	250	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	14	3,500
	110	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	18	1,980
	300	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	20	6,000
合計		213	222	241	176	536	2,062	333	239	33	35	41	122	4,253	3,403,620

利用状況

IV 法 規

福島県立博物館条例

(昭和61年3月25日 条例第30号)

(設 置)

第1条 博物館法（昭和26年法律第285号）第18条、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第30条及び地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条第1項の規定に基づき、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、福島県立博物館（以下「博物館」という。）を設置する。

(位 置)

第2条 博物館は、会津若松市城東町8番地に置く。

(業 務)

第3条 博物館において行う業務は、次のとおりとする。

- 1 歴史、考古、民俗、美術工芸、自然等に関する実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の資料（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。
- 2 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- 3 博物館資料に関する講演会、講習会、研究会等を開催すること。
- 4 博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行うこと。
- 5 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務を行うこと。

(観覧料)

第4条 博物館の展示品（以下「展示品」という。）を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。

(観覧料の免除)

第5条 知事は、公益上の必要があると認めるときは、規則で定めるところにより、観覧料の全部又は一部を免除することができる。

(観覧料不返還の原則)

第6条 既納の観覧料は、返還しない。ただし、規則で定める場合は、その全部又は一部を返還することができる。

(遵守事項)

第7条 博物館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 1 博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- 2 物品を販売し、又は頒布しないこと（教育委員会の許可を受けた場合を除く。）。
- 3 展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと（教育委員会の許可を受けた場合を除く。）。
- 4 所定の場所以外において、喫煙及び飲食を行わないこと。
- 5 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- 6 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(入館の規制等)

第8条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

- 1 前条の規定に違反した者
- 2 博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者
- 3 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(職 員)

第9条 博物館に事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(委任)

第10条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理その他この条例の施行に関して必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則（平成9年条例第52号）

この条例は、平成9年4月1日から施行する。

附 則（平成11年条例第93号）

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平成15年条例第53号）

この条例は、平成15年4月1日から施行する。

附 則（平成25年条例第119号）

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

附 則（平成28年条例第53号）

この条例は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平成30年条例第46号）

この条例は、平成30年4月1日から施行する。

別表（第4条関係）

区 分	普通観覧料の額 （一人当たり）		特別観覧料の額	年間観覧料の額 （同一人が有効期間内に利用する場合）
	個人	団体		
一般（大学生を含む。）	270円	210円	その都度知事が定める額	3,300円の範囲内で知事が定める額
高校生及びこれに準ずる者			その都度知事が定める額	1,980円の範囲内で知事が定める額
中学生、小学生及びこれらに準ずる者			その都度知事が定める額	1,320円の範囲内で知事が定める額

備 考

- 「普通観覧料」とあるのは、常設展の展示品のみを観覧する場合の観覧料をいい、「特別観覧料」とあるのは企画による展示品を観覧する場合の観覧料をいい、「年間観覧料」とあるのは年間利用に係る普通観覧料及び特別観覧料をいう。
- 「団体」とあるのは、20人以上の団体をいう。

福島県立博物館運営協議会条例

（昭和61年3月25日 条例第31号）

（設 置）

第1条 博物館法（昭和26年法律第285号）第20条第1項の規定に基づき、福島県立博物館（以下「博物館」という。）の適正な運営を図るため、福島県立博物館運営協議会（以下「協議会」という。）を置く。

（組 織）

第2条 協議会の委員（以下「委員」という。）の定数は、10人以内とする。

（委員の任命及び任期）

第3条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。

2 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

（会長及び副会長）

第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会 議）

第5条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

（庶 務）

第6条 協議会の庶務は、博物館において処理する。

（雑 則）

第7条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則（平成24年条例第43号）

1 この条例は、平成24年4月1日から施行する。

2 この条例の施行の際現に改正前の福島県立博物館運営協議会条例第3条第1項の規定により任命されている福島県立博物館運営協議会の委員は、その残任期間中は、改正後の福島県立博物館運営協議会条例第3条第1項の規定により任命された福島県立博物館運営協議会の委員とみなす。

福島県立博物館条例施行規則

（昭和61年3月25日 教育委員会規則第5号）

（休館日）

第1条 福島県立博物館（以下「博物館」という。）の定期的休館日は、次のとおりとする。

1 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（次号において「休日」

という。)に当たるときを除く。

- 2 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。
- 3 1月1日から同月4日まで
- 4 12月28日から同月31日まで

2 博物館の長(以下「館長」という。)は、必要があると認めるときは、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。(開館時間)

第2条 博物館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、館長は、必要があると認めるときは、これを臨時に変更することができる。

(観覧手続)

第3条 館長は、福島県立博物館条例(昭和61年福島県条例第30号。以下「条例」という。)第4条の規定により観覧料を納入した者に対し、観覧券(様式第1号)を交付するものとする。

(観覧料の免除及びその手続)

第4条 館長は、条例第5条の規定により、次の表の上欄に掲げる場合における普通観覧料について、同表の下欄に掲げる額を免除するものとする。

普通観覧料を免除する場合	免除する額
1 大学生(これに準ずる者として福島県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)が別に定める者を含む。)及びその引率者並びに高校生、中学生及び小学生(これらに準ずる者として教育長が別に定める者を含む。)の引率者が、学校教育に基づく活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
2 県、又は市町村が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の100分の50に相当する額(引率者にあつては全額)
3 国民の祝日に関する法律第2条に定めるこどもの日、敬老の日及び文化の日に観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
4 知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証の交付を受けている者が観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
5 その他免除することが公益上適当と認めるとき。	教育長が別に定める額

2 観覧料の免除を受けようとする者(前項の表の第3号又は第4号のいずれかに該当する場合に観覧料の免除を受けようとする者を除く。)は、前項の表の第1号又は第2号に該当する場合にあつては観覧しようとする日の3日前まで、第5号に該当する場合にあつては10日前までに観覧料免除申請書(様式第2号)を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

3 館長は、前項の規定により観覧料の免除を承認したときは、観覧料免除承認書(様式第3号)を交付するものとする。

(観覧料の返還)

第5条 館長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、それぞれ当該各号に定めるところにより、観覧料の全部又は一部を返還するものとする。

- 1 観覧しようとする者の責めによらない理由により観覧することができなくなったとき。全額
- 2 その他やむを得ない理由があると認めるとき。教育長が別に定める額

2 観覧料の返還を受けようとする者は、観覧料返還申請書(様式第4号)に観覧券を添えて、館長に提出しなければならない。

(博物館資料の特別利用)

第6条 博物館が所蔵し、又は寄託を受けている博物館資料を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、館長の承認を受けなければならない。

(教育長への委任)

第7条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則(昭和63年教委規則第9号)

この規則は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則(平成4年教委規則第14号)

この規則は、平成4年9月1日から施行する。

附 則(平成7年教委規則第15号)

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則(平成8年教委規則第16号)

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則(平成8年教委規則第20号)

この規則は、平成8年10月1日から施行する。

附 則(平成12年教委規則第16号)

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平成14年教委規則第14号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成15年教育委員会規則第3号）

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則（平成30年教育委員会規則第7号）

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

様式第1号（第3条関係）

観 覧 券 (観覧者の区分) (金 額) 福島県立博物館	観 覧 券 (観覧者の区分) (金 額) 福島県立博物館
---	---

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

様式第1号の2（第3条の2関係）

(表)

年間観覧券 福島県立博物館

(裏)

(交付番号)	(観覧者の区分)
(有 効 期 間)	
御利用に際して	
1 福島県立博物館が主催する展覧会のみ有効です。	
2 下記に署名された御本人以外の方は使用できません。	
3 御購入後の紛失等による再発行はいたしません。	
(氏 名)	
(学 校 名) (学 年)	
福島県立博物館	

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

様式第2号(第4条関係)

年 月 日

福島県立博物館長

住所又は所在地
申請者 氏名又は名称及び代表者の氏名
印

観覧料免除申請書

次の理由により観覧料を免除してください。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日	時	分から	分まで
観覧者の種別 及び人数	一 般	人	その他()	人
	大 学 生		()	
	高 校 生			
	中 学 生		引 率 者	
	小 学 生		合 計	
免除申請の理由				
引率者の職及び氏名	職	氏名		
連絡先及び電話番号	電話 ()			
観覧料	免除率	免除金額	免除の根拠	
※ 円※		※ 円※		
第 年 月 日				
上記のとおり承認してほしい。				
館 長	副 館 長	総務課長	主 任	

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

様式第3号(第4条関係)

第 号
年 月 日

様

福島県立博物館長 印

観覧料免除承認書

観覧料の免除について、次のとおり承認します。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日	時	分から	分まで
観覧者の種別 及び人数	一 般	人	その他()	人
	大 学 生		()	
	高 校 生			
	中 学 生		引 率 者	
	小 学 生		合 計	
免除申請の理由				
注 意 事 項				
観覧料	免除率	免除金額	円	
円				

様式第4号(第5条関係)

年 月 日

福島県立博物館長

住所又は所在地
申請者 氏名又は名称及び代表者の氏名
印

観覧料返還申請書

次の理由により観覧料を返還してください。

展覧会の名称				
観覧料の納入月日	年	月	日	
既納観覧料の 区分及び金額	区 分	人 数	金 額	円
	合 計			
返還を申請する理由				
連絡先及び電話番号	電話 ()			
観覧料	返 還 率	返 還 金 額	返 還 の 根 拠	
※ 円※		※ 円※		
上記のとおり返還してほしい。				
館 長	副 館 長	総務課長	主 任	
受 付 月 日	・	・	決 裁 月 日	・

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

福島県立博物館組織規則

(昭和61年3月25日 教育委員会規則第6号)

(目 的)

第1条 この規則は、福島県立博物館（以下「博物館」という。）の組織に関して必要な事項を定めることを目的とする。

(課)

第2条 博物館に次の課を置く。

総務課

学芸課

(事業分掌)

第3条 総務課においては、次の事務を行う。

- 1 館内事務の総合調整及び企画調査に関すること。
- 2 公印の管理に関すること。
- 3 人事に関すること。
- 4 文書の収受、発送、編集及び保存に関すること。
- 5 予算の編成、経理及び執行に関すること。
- 6 物品の調達及び処分に関すること。
- 7 財産の管理に関すること。
- 8 観覧料の徴収に関すること。
- 9 福島県立博物館運営協議会に関すること。
- 10 前各号に掲げるもののほか、他課の所掌に属しない事務に関すること。

2 学芸課においては、次の事務を行う。

- 1 博物館資料の収集、保管、展示及び利用に関すること。
- 2 博物館資料に関する調査及び研究に関すること。
- 3 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- 4 博物館資料に関する解説書、年報、調査研究報告書等の作成に関すること。
- 5 博物館資料に関する相談、情報提供その他博物館資料に関する教育の普及に関すること。
- 6 国立博物館、公立博物館その他の教育機関及び関係団体との連絡提携に関すること。
- 7 前各号に掲げるもののほか、博物館資料に関する専門的事項に関すること。

(館 長)

第4条 博物館に館長を置く。

- 2 館長は、上司の命を受け、博物館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

(副館長)

第5条 博物館に副館長を置く。

- 2 副館長は、館長を補佐し、博物館の事務を整理する。

(課 長)

第6条 博物館の課に課長を置く。

- 2 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理し、所属職員を指揮監督する。
- 3 前項に規定するもののほか、課長は、課の事務を点検する。

第7条 削除

(学芸員等)

第8条 博物館に主任専門学芸員、専門学芸員、主任学芸員、副主任学芸員及び学芸員を置く。

- 2 主任専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の高度な学芸事務を処理する。
- 3 専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の学芸事務を処理する。
- 4 主任学芸員は、上司の命を受け、担任の学芸事務を処理する。
- 5 副主任学芸員は、上司の命を受け、高度な学芸事務をつかさどる。
- 6 学芸員は、上司の命を受け、学芸事務をつかさどる。

(主任主査その他の職)

第9条 博物館に、第4条から前条までに規定する職のほか、必要に応じ、次の表の上欄に掲げる職を置き、その職の職務は、それぞれ同表の当該下欄に掲げるとおりとする。

職	職 務
主任主査	上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理する。
主 査	上司の命を受け、担任の事務を処理する。
副主査	上司の命を受け、高度な事務をつかさどる。
主 事	上司の命を受け、事務をつかさどる。
専門員	上司の命を受け、担任の専門的業務に従事する。

附 則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則（平成6年教委規則第4号）

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則（平成13年教委規則第6号）

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則（平成14年教委規則第18号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成25年教委規則第8号）

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則（平成25年教委規則第11号）

この規則は、公布の日から施行する。

福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則

（昭和61年3月25日 福島県規則第11号）

福島県立博物館条例（昭和61年福島県条例第30号）第5条、第6条ただし書き及び別表に規定する知事の権限は、福島県教育委員会に委任する。

附 則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

福島県立博物館収集展示委員会設置要綱

（設 置）

第1条 福島県立博物館に収蔵する博物館資料（以下「資料」という。）の収集並びに展示計画について審議するため、福島県立博物館収集展示委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（組織等）

第2条 委員会は12人以上の委員を持って構成する。

- 2 委員は学識経験者のうちから福島県立博物館長（以下「館長」という。）が委嘱する。
- 3 委員会に委員長及び副委員長を置く。委員長及び副委員長は委員の互選により選出する。
- 4 委員長は委員会を代表し、会務を掌握する。副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

（会 議）

第3条 委員会は必要のつど館長が招集する。

- 2 委員会は資料収集の適否及び展示計画等について審議し、その結果を館長に報告する。
- 3 委員会は特に必要がある場合、委員以外の専門的分野に関する学識経験者の指導及び助言を求めることができる。

（展示計画作成委員）

第4条 委員会は展示計画原案作成のため、委員のうちから6人の展示計画作成委員（以下「展示委員」という。）を選任する。

- 2 展示委員は次の任務を遂行する。
 - （1）展示計画原案の作成
 - （2）展示計画作成のための基礎的資料の収集
 - （3）展示計画作成に関する専門的指導

（任 期）

第5条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（庶 務）

第6条 委員会の庶務は、福島県立博物館において処理する。

（その他）

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員長が定める。

附 則

この要綱は、昭和56年5月1日から施行する。

昭和61年4月1日一部改正

福島県立博物館資料所在調査要領

1) 調査の目的

福島県内に散在する考古、歴史、民俗美術工芸等の資料について、その所在及び内容を把握し、県立博物館の活動のための基礎データを得ることを目的とする。

2) 調査の実施

(1) 調査員

イ) 調査員は、各地域の歴史に精通した研究者の中から館長が委嘱する。

ロ) 委嘱期間は、4月1日から3月31日までの1年間とする。

(2) 調査の内容

資料の種類、形状、用途、数量、由来、時代、保存状況、所有者等について調査する。

(3) 調査の時期

4月1日から3月31日とする。

(4) 調査カードの作成・提出

調査員は、調査資料についてカードを作成し、福島県立博物館に提出する。

福島県立博物館資料調査員設置要綱

(設 置)

第1条 福島県立博物館の収集、展示、研究等に関する基礎データを得るため福島県立博物館資料調査員（以下「資料調査員」という。）を置く。

(選 任)

第2条 資料調査員は、各地域の歴史に精通した研究者の中から、福島県立博物館館長（以下「館長」という。）が委嘱する。

(職 務)

第3条 資料調査員は、福島県内に散在する考古、歴史、民俗、美術工芸等の資料について、所在及び内容を調査し、その結果を館長に報告する。

(任 期)

第4条 資料調査員の任期は1年とする。

2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(補 足)

第5条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、昭和55年4月1日から施行する。

昭和61年4月1日一部改正。

福島県立博物館友の会規約

(名 称)

第1条 本会の名称は、福島県立博物館友の会という。

(目 的)

第2条 本会は、博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

(事 業)

第3条 本会は次の事業を行う。

- 1 広報活動
- 2 講演会・研修会等の開催
- 3 博物館に関連する事業への協力
- 4 図書等の斡旋等の事業
- 5 その他必要な事業

(会員及び会費)

第4条 会員の種類は次のとおりとし、会員には会員証を交付する。

- ① 個人会員 本会の目的に賛同し、年額2,000円を納めた個人。
 - ② 家族会員 本会の目的に賛同し、年額3,000円を納めた生計を一にする家族。
 - ③ 高校生会員 本会の趣旨に賛同し、年額500円を納めた高校生個人。
 - ④ 賛助会員 本会の目的に賛同し、特に会の発展に協力するため、年間10,000円を納めた個人及び団体。
- 2 会員の期間は、入会の年4月1日から翌年の3月31日までの1年間とする。

3 会員が退会した場合であっても、既に納入した会費はこれを返還しない。

(会員の特典)

第5条 会員は次の特典を受けることができる。

- 1 博物館の展示を観覧する場合に、特別な便宜を受けることができる。
- 2 会報、博物館だより、博物館の各種催しの案内等の情報の提供を受けることができる。
- 3 会の事業に参加することができる。
- 4 会員が歴史や文化等の研究に際し、指導を受けることができる。

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く

会 長	1名
副 会 長	若干名
幹 事 長	1名
会 計	2名
幹 事	若干名 (各サークルの代表者は、本会の幹事となる。)
監 事	2名

2 幹事のうち1名は、福島県立博物館学芸課長の職にある者を充てる。

(役員を選出及び任期)

第7条 役員は総会において選出し、任期は2年とする。ただし再任は妨げない。

2 補欠のため任ぜられた役員は、前任者の残任期間とする。

(役員職務)

第8条 会長は、本会を代表し、会務を総理する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代理する。
- 3 幹事長は、本会の会務並びに実務を主となって処理する。
- 4 幹事は、本会の会務を運営し、その実務に携わる。
- 5 監事は、本会の会計を監査する。
- 6 会計は、本会の会計業務一切を主務とする。

(会議)

第9条 総会は、毎年1回会長が招集し、事業計画、予算、決算、役員選任、その他重要事項をはかるものとする。

- 2 役員会は、必要のつど会長が招集する。
- 3 総会及び役員会の議長は、会長があたるものとする。
- 4 議事は、出席者の過半数により決する。

(顧問)

第10条 本会は、顧問をおくことができる。顧問は、役員会の承認を得て、会長が委嘱する。

(会計年度)

第11条 本会の会計年度は、毎年3月1日に始まり、翌年2月末日に終わるを原則とする。

2 本会の経費は、会費、寄付金、事業収入等をもってあてるものとする。

(事務局)

第12条 本会の事務を処理するための事務局を、福島県立博物館内に置くものとする。

2 本会の事務局員は会長が委嘱する。

(その他)

第13条 本規約に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項については、会長が別に定める。

附 則

- 1 この規約は、平成元年4月1日から施行する。
- 2 この規約は、平成3年4月1日から施行する。(第6条第2項関係)
- 3 この規約は、平成5年4月1日から施行する。(第4条第1項②関係)
- 4 この規約は、平成7年4月1日から施行する。(第11条第1項、第12条第1項関係)
- 5 この規約は、平成8年4月1日から施行する。(第4条第1項③関係)
- 6 この規約は、平成11年4月1日から施行する。(第6条第1項関係)
- 7 この規約は、平成23年3月1日から施行する。(第11条第1項関係)
- 8 この規約は、平成27年3月26日から施行する。(第6条、第8条第3項・4項関係)
- 9 この規約は、平成28年4月1日から施行する。(第6条第1項関係・第8条3項関係)
- 10 この規約は、平成30年3月17日から施行する。(第6条第1項・第8条第6項関係)

V 施設の概要

1. 建築概要

<p>設計者 (株)佐藤武夫設計事務所</p> <p>工事監理 福島県会津若松建設事務所 (株)佐藤武夫設計事務所</p> <p>施工者 建築本体工事 福島県立博物館(本体)工事 清水建設(株)・会津土建(株)・秋山建設(株)</p> <p>共同企業体 電気設備工事 福島県立博物館建設(電気設備)工事 六興電機(株)・吉田電工(株)共同企業体 空気調和設備工事 福島県立博物館建設(空気調和設備)工事 新日本空調(株)・若松ガス工業(株)共同企業体 火災報知その他設備工事 福島県立博物館建設(火災報知その他設備)工事 (株)富士工業商会 給排水衛生設備工事 福島県立博物館建設(給排水衛生設備)工事 (株)共立配管工業所 昇降機設備工事 福島県立博物館建設(昇降機設備)工事 ダイコー(株)</p> <p>面積 敷地面積 37,269.6㎡ 建築面積 10,986.23㎡ 延面積 11,071.44㎡ 1階 9,980.45㎡ 2階 1,090.99㎡</p> <p>建築事業費 6,451,641千円 内訳 建物本体 4,623,714 展示工事 1,257,500 外構工事 368,688 その他庁用備品等 201,739</p> <p>規模 地上2階 最高の高さ 20.6m 最高の軒高 13.6m 地域地区 住居地域 風致地区第1種</p>	<p>構造 主体構造 鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 基礎構造 場所打ちコンクリート杭</p> <p>外部仕上げ 屋根 厚0.6硫化銅板 特殊一文字葺 外壁 特焼磁器質タイル打込プレキャストコンクリート板 建具 アルミ断熱サッシ電解着色仕上げ</p> <p>内部仕上げ (エントランスホール・展示ロビー) 床 花崗岩ジェットバーナー仕上げ 壁 凝灰岩リブ付厚40m/m 天井 練付合板 クリアラッカー仕上げ (総合展示室) 床 カーペットタイル 壁 プラスターボード厚12m/m 天井 アルミ特殊ルーバー天井 (講堂) 床 カーペットタイル 壁 凝灰岩 リブ付 天井 練付合板 アクリルラッカー仕上げ (第1・3・6収蔵庫) 床 プナフローリングボード厚12m/m 壁 杉板厚12m/m ヒブクラハギ張 天井 杉板厚12m/m 本実張 (第2収蔵庫) 床 コンクリート塗り床 壁 化粧珪酸カルシウム板 天井 化粧珪酸カルシウム板 (第4収蔵庫) 床 プナフローリングボード厚12m/m 壁 化粧珪酸カルシウム板 天井 化粧珪酸カルシウム板 (第5収蔵庫) 床 コンクリート塗り床 壁 プラスターボード 天井 化粧珪酸カルシウム板</p> <p>工期 着工 昭和59年7月7日 完成 昭和61年3月25日</p>
--	---

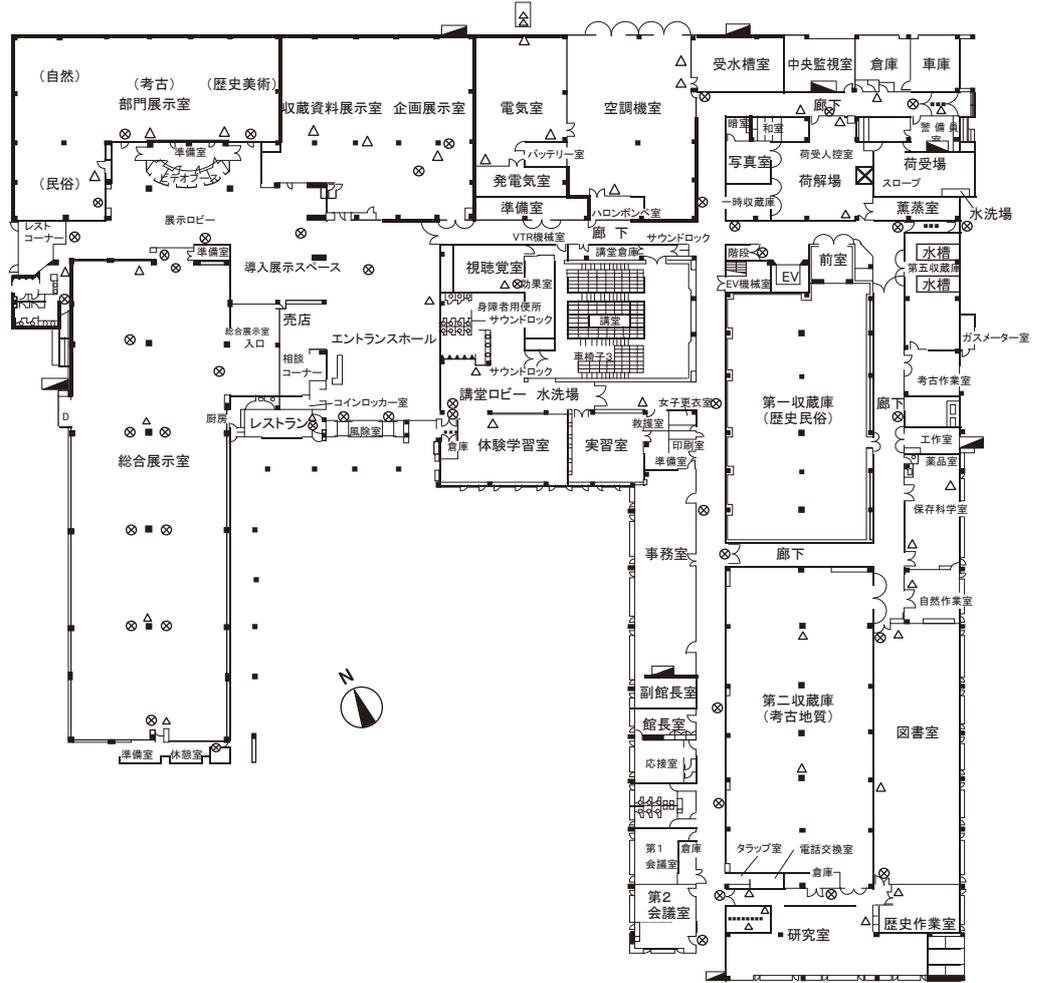
施設の概要

2. 設備

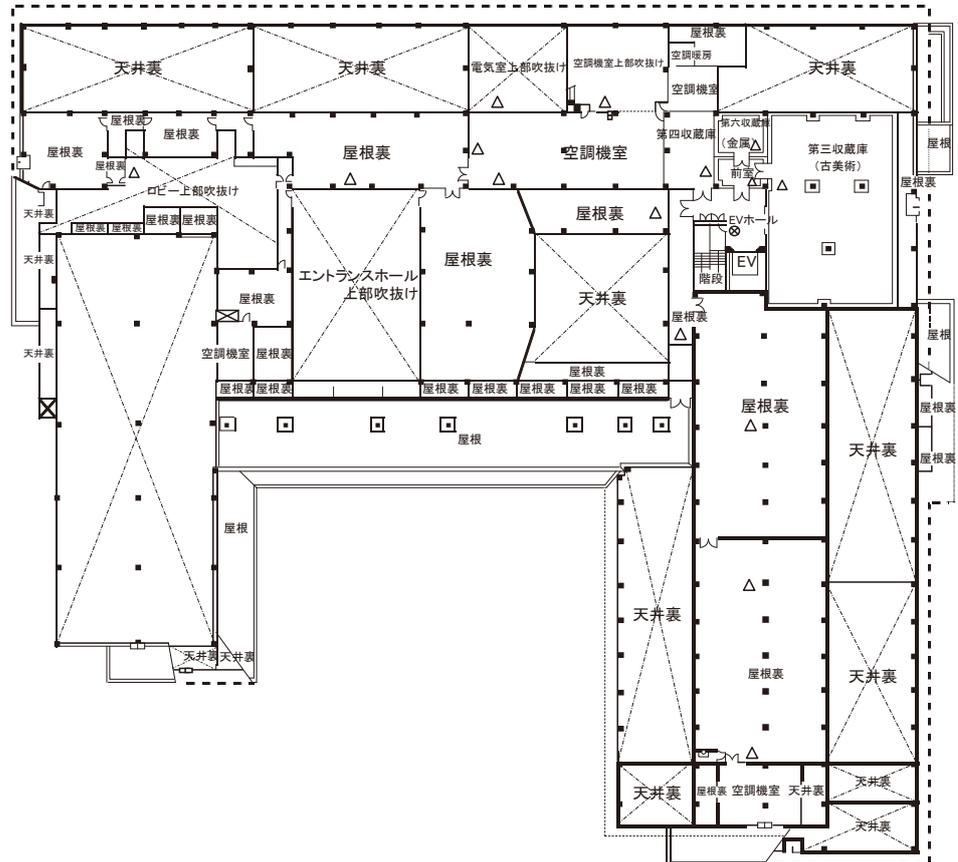
<p>電気設備 1. 電気設備 受電電圧 3相3線式 6.6KV 50Hz 変圧器容量(業務用)1575KVA (冬季用)400KVA 2. 非常用電源 発電機 3相3線式6.6KV 50Hz 400KVA 蓄電池 密閉型アルカリ AH-PE200AH86セル 3. その他 電話設備、インターホン設備、TV共同視聴設備、自動火災報知器設備、防火戸等制御設備、ガス漏警報設備、非常用放送設備、ITV監視設備 4. 視聴設備 TVカメラ、ビデオ調整卓、ビデオデッキ、音響総合ラック</p> <p>空調設備 1. 空調方式 各室ユニット型空調機 17系統ファンコイル ユニット方式 2. 熱源設備 ガス直焚冷温水発生器(150RT)×2 ガス焚鉄セクショナルボイラー(396.00Kcal/H)水冷式チーリングユニット(120RT)</p>	<p>衛生設備 1. 給水 市水道 受水槽：50㎡ 2. 消火設備 (屋内)スプリンクラーとハロン消化設備の併用、(屋外)野外消火栓</p> <p>昇降機設備 備油圧式エレベーター定格荷重：3t1基 油圧式リフト 定格荷重：2t1基</p> <p>融雪設備 ロードヒーター・屋根ヒーター、陸屋根ヒーター・ドレンヒーター、外気温度地面温度・降雪感知器・乾地面温度・湿地面温度センサーの組み合わせにより自動運転または手動運転。</p> <p>監視設備 分散形総合監視制御システムにより、受電設備・防災設備・熱源設備・空調設備・融雪設備・庭園設備等を遠方発停制御及び計測監視を行う。</p> <p>電話設備 電子交換外線3回線 内線64回線 火災報知設備 受信盤P型1級 60回線(自火報)33回線(防排煙設備)、煙感知機274箇所、熱感知機93箇所、排煙区画8系統、平面地図盤(照光式)により表示</p> <p>防犯設備 電波センサー・電子サイン・ITVを必要箇所に設置し、監視制御システムと併用</p>
--	---

3. 平面図・各室一覧

1 階平面図



2 階平面図



各室面積表

室名	面積(m ²)	備考	室名	面積(m ²)	備考
収蔵スペース 2,294.8 (m ²)			応接室	36.5	
荷受場	90.5		第1会議室	34.8	
荷解場	164.5		第2会議室	70.7	
荷受人控室	25.1		更衣室	13.2	
一時収蔵庫	30.4		湯沸室	5.0	
燻蒸室	30.7		印刷室	16.2	
工作室	39.6		救護室	13.2	
写真室	57.0	スタジオと暗室	警備員室	30.0	
第1収蔵庫	614.2	歴史・民俗	宿直室	25.1	
第2収蔵庫	617.7	考古・地質	倉庫A	29.4	
第3収蔵庫	393.6	古美術	倉庫B	43.6	収集用(1)
第4収蔵庫	75.6	剥製・植物標本	車庫	55.8	
第5収蔵庫	104.9	液浸	展示準備室(1)(2)	31.7	総合展示室用
第6収蔵庫	51.5	金属	展示準備室(3)(4)	71.1	部門・企画・ 収蔵資料用
研究スペース 788.3 (m ²)			機械スペース 1,253.1 (m ²)		
研究室	238.4		空調機室1F	393.2	
自然作業室	37.6		空調機室2F	479.4	
保存科学室	77.2		電気室	132.5	
考古作業室	72.3		中央監視室	52.8	
薬品庫	8.8		発電気室	50.2	
図書室	300.0		バッテリー室	14.4	
情報処理室	54.0		受水槽室	66.7	
展示スペース 2,815.1 (m ²)			ハロンボンベ室	31.7	
総合展示室	1,536.9		E V 機械室	17.1	
部門展示室	585.8		電話交換機室	6.3	
企画展示室	484.1		V T R 機械室	8.8	
収蔵資料展示室	208.3		サービス・共用スペース 2,507.54 (m ²)		
教育普及スペース 693.1 (m ²)			エントランス・ホール	461.1	
講堂	257.8		レストラン	83.7	厨房含む
講堂倉庫	15.0		売店・相談コーナー	73.3	ロッカー含む
体験学習室	173.5		便所(展示)	32.6	
視聴覚室	65.6		便所(中央)	68.8	
効果室	32.1		便所(管理)	31.3	
実習室	128.3		展示ロビー	513.8	ビデオブース・ワーク ショップを含む
実習準備室	20.8		レストコーナー	40.3	
管理スペース 719.5 (m ²)			その他	1,202.64	
事務室	166.1		計	11,071.44	
館長室	45.6				
副館長室	31.5				

4. 施設の修理・改築

平成 7年 8月 9日	消防施設整備工事（スプリンクラー設備修繕）（～10. 31）
平成 8年10月 1日	博物館地域福祉推進特別対策事業（誘導表示等設置 段差解消スロープ 車椅子駐車場 2 台分）（～9. 3. 19）
平成12年10月27日	給水ポンプ取替工事（～13. 1. 9）
平成14年 9月12日	博物館東・北面外壁タイル補修工事（～12. 16）
平成15年 9月19日	非常用蓄電池取替工事（～11. 20）
10月21日	吸収冷温水機真空部取替工事（～16. 1. 8）
平成16年10月 5日	屋根補修工事（～12. 17）
12月21日	吸収冷温水機真空部取替他工事（～17. 3. 18）
平成17年 7月22日	屋根補修工事（～10. 4）
平成18年 1月 6日	熱源コントローラー交換工事（～3. 17） スプリンクラーヘッド交換工事（～3. 17）
平成19年 1月 5日	スプリンクラー設備修繕工事（～3. 23）
平成19年 2月 1日	1階床張替え補修工事（～3. 23）
平成19年 2月21日	ウォシュレット取付け工事（～3. 19）
平成21年 1月21日	高圧引込設備改修工事（電柱立替外）（～3. 24）
平成21年 6月 3日	冷却塔ヘッダー管交換 2 回（～12. 25）
平成21年12月18日	消防設備修繕（呼水槽、消火栓ホース、ハロゲン非常用電源設備外）（～22. 2. 26）
2月17日	企画展示室改修工事（～3. 29）
11月16日	中央監視システム更新工事（～23. 4. 25）
11月26日	空調熱源機器改修工事（～23. 4. 22）
平成23年 1月20日	空調設備改修工事（～4. 25）
平成27年 9月 1日	冷房暖房設備改修工事（～11. 24）
平成27年 9月 2日	シャッター撤去・新設工事（～10. 15）
平成28年 9月13日	冷却塔外改修工事（～29. 3. 10）
平成29年11月 1日	非常用電気設備触媒栓交換修繕（～12. 27）
平成30年 3月27日	屋根等改修工事（～12. 14）
平成30年 9月11日	温水ボイラー修繕（～9. 27）
平成30年 9月15日	中央監視システム修繕（～11. 1）

5. 沿革

《開館にいたるまで》

昭和52年 5月13日	文化を考える県民会議の設置
6～ 8月	文化に関する県民意識調査の実施
昭和53年 1月24日	文化を考える県民会議から県の文化振興について知事に報告
7月26日	第1回文化振興会議開催
昭和54年 2月 2日	文化振興会議から文化振興の具体策について知事に報告
3月19日	文化施設等整備基金条例制定
4月 1日	福島県教育庁文化課内に文化施設班を設置
2月24日	福島県美術品等取得基金条例制定
昭和55年 4月 1日	福島県教育庁文化課内文化施設整備室を設置
昭和56年 1月26日	県立博物館基本構想検討委員会から建設基本構想の報告を受ける
2月 3日	県立博物館の建設地を「会津若松市」と決定
昭和57年 2月18日	県立博物館収集展示委員会より「県立博物館総合展示及び部門展示計画」の報告
昭和58年 7月30日	建築実施設計を委託（株式会社佐藤武夫設計事務所） 展示実施設計を委託（株式会社トータルメディア開発研究所）
昭和59年 6月 8日	建設工事契約（㈱清水建設仙台支店・㈱会津土建・㈱秋山建設による共同企業体）
7月 7日	県立博物館建築工事着工（～61. 3. 25）
7月10日	展示工事委託契約（㈱トータルメディア開発研究所・㈱乃村工藝社・㈱丹青社による共同企業体）

7月13日	展示工事着工（～61.9.10）
昭和61年 3月25日	県立博物館条例 同施行規則 同運営協議会条例及び組織規則制定（61.4.1施行）
3月31日	県立博物館公所開設にともない文化施設整備室を廃止
4月 1日	県立博物館公所開設 高橋富雄が初代館長として就任 運営協議会委員10名委嘱
10月 1日	展示解説員19名採用
10月18日	県立博物館開館

《開館してから》

昭和61年11月28日	登録博物館の指定（第10号）
昭和63年 8月21日	入館者50万人達成
平成元年 3月10日	友の会設立
平成 2年10月 7日	入館者100万人達成
平成 4年 3月31日	日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等の指定（文部大臣）
平成 5年 4月 1日	展示解説員22名となる
平成 7年 5月 5日	入館者200万人達成
平成 8年10月 5日	開館10周年記念式典を催す
平成12年10月15日	入館者300万人達成
平成13年 1月25日	博物館リニューアル事業に伴い、新基本構想検討委員会により「福島県立博物館新基本構想」が策定される
平成14年 3月25日	博物館リニューアルの新基本構想に基づいて「展示替え基本計画」を策定
平成15年 3月24日	博物館条例第4条改正により小・中学生及び高校生の普通観覧料を無料とする
3月28日	高橋富雄館長「金曜講座」第393回目開催
3月31日	高橋富雄館長退任
4月 1日	赤坂憲雄が県立博物館長に就任 前館長高橋富雄に県立博物館名誉館長の称号授与
平成16年 4月 8日	赤坂憲雄館長・学芸員「木曜の広場」第1回開催
平成17年 5月 6日	入館者350万人達成
平成18年 9月29日	博物館開館20周年を祝う会「おめでとう20歳の博物館」開催
平成19年 7月	福島県立博物館の使命を策定し公表
平成19年 7月21日	当館と鹿児島県歴史資料センター黎明館との共同企画で企画展「樹と竹 一列島の文化 北から南から一」を開催
平成20年 7月19日	磐梯山噴火記念館および野口英世記念館と連携して共同企画展「会津磐梯山」を開催
平成22年 6月26日	県内の5つの文化施設（福島県立博物館、福島県文化センター、文化財センター白河館、アクアマリンふくしま、ふくしま県民の森フォレストパークあだたら）が連携して夏の企画展「山に生き森に遊ぶ—ふくしまの森林文化—」を開催
平成23年 3月11日	宮城県牡鹿半島沖の海底を震源としたマグニチュード9.0の大地震が発生。会津若松市は震度5強。博物館では設備および資料に若干の被害があり、展示室の安全性の確認と修繕工事のため4月10日まで休館
平成24年 5月15日	「福島県被災文化財等救援本部」が発足。当館は、福島県教育庁文化財課、福島大学、福島県文化振興財団とともに幹事として参画。8月～11月にかけて、東京電力福島第1原発事故による警戒区域内に所在する双葉町歴史民俗資料館、富岡町歴史民俗資料館、大熊町民俗伝承館に収蔵されている資料の梱包、搬出、一時保管場所への搬入作業を実施。
平成25年 5月17日	2013年NHK大河ドラマ特別展「八重の桜」を開催
11月27日	「博物館ニュース」創刊から400号達成
平成27年 5月 2日	福島県立博物館と福島県立美術館が美術館移動展示「ふるさと会津の人と四季—福島県立美術館名品展—」を共催
平成28年10月15日	博物館開館開館30周年記念式典を開催 開館30周年記念特集展「収蔵庫からこんにちは」を開催
平成29年 3月26日	福島県財務規則の改訂により博物館資料「震災遺産類」追加される

VI 利用案内

● 開館時間

午前9時30分～午後5時（最終入館は午後4時30分まで）

● 休館日

- ◎毎週月曜日（祝祭日にあたる場合は開館）
- ◎祝祭日の翌日（土・日・祝祭日にあたる場合は開館）
- ◎年末年始（12月28日～1月4日）
- ◎その他、館内メンテナンスのために臨時に休館することがあります。

● 観覧料

- ◎常設展（ ）内は、団体20人以上の料金
一般・大学生270円（210円） 高校生以下は無料
- ◎企画展 そのつど定めます。
- ◎年間パスポート（購入日より1年間有効）

一般・大学生1,500円

★学校の引率者、大学の教育活動、公民館等の団体は事前の申請により常設展料金の減免を受けることができます。

★身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は無料。

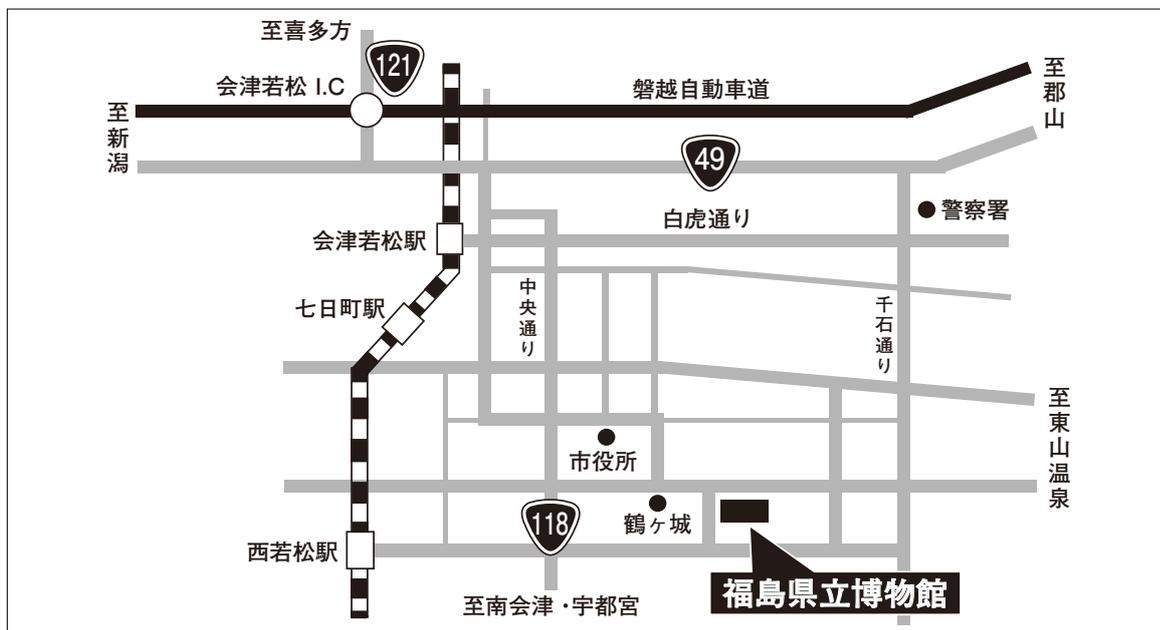
また1種（精神障害者保健福祉手帳にあつては1級）の認定を受けている方に限り、介護者1名が無料。

★知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証を交付されている方は常設展のみ無料。

★展示室以外の入館は無料。

● 常設展無料開放日

5月5日(子供の日) / 8月21日(県民の日) / 9月17日(敬老の日) / 11月3日(文化の日)



● 交通案内

◎会津若松駅より約3km

◎市内バス利用の場合

①まちなか周遊バス「ハイカラさん」鶴ヶ城三の丸口下車徒歩1分

②まちなか周遊バス「あかべえ」鶴ヶ城三の丸口下車徒歩1分

● 体の不自由な方へ スロープ・専用トイレなどを備えたほか、車いすも用意しています。

● 講座・講演など 博物館では講演会・実技講座・実演などを行っています。

福島県立博物館年報 第33号

令和2年2月28日 印刷

令和2年2月28日 発行

編集・発行 福島県立博物館

〒965-0807 会津若松市城東町1-25

TEL (0242) 28-6000

FAX (0242) 28-5986

<https://general-museum.fcs.ed.jp/>

印刷 株式会社 アポロ

〒965-0044 会津若松市七日町14-7

TEL (0242) 22-5139

この年報の本文は再生紙を使用しています。





福島県立博物館